

第19回

# 三遠南信サミット 2011 in 遠州



事業報告書

三遠南信流域都市圏構築への挑戦  
～融合、新たなステージへ～

平成23年10月24日(月)



## 目 次

1	全体会 主催者等あいさつ・来賓祝辞 .....	1
2	全体会 基調講演 .....	9
3	全体会 会長報告 .....	17
4	「道」分科会 要旨 .....	18
5	「技」分科会 要旨 .....	36
6	「風土」分科会 要旨 .....	53
7	「山・住」合同分科会 要旨 .....	70
8	三遠南信地域住民セッション 要旨 .....	86
9	報告会 要旨 .....	94
10	交流会 .....	101



# 第 19 回 三遠南信サミット 2011 in 遠州

三遠南信流域都市圏構築への挑戦 ～融合、新たなステージへ～

---

- 日 時 平成 23 年 10 月 24 日 (月)
- 会 場 アクトシティ浜松 (静岡県浜松市中区板屋町 111 番地 1)
- 主 催 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)
- 共 催 三遠南信地域交流ネットワーク会議  
三遠南信地域経済開発協議会  
三遠南信地域整備連絡会議
- 後 援 国土交通省、経済産業省、農林水産省、静岡県、愛知県、長野県
- 参加者 550 名
- 日 程
  - 1 全体会 (13:00～15:00) [場所: アクトシティ浜松 中ホール]
    - あいさつ
      - ・主催者あいさつ  
三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長 浜松市長 鈴木康友
      - ・開催地域代表あいさつ  
三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 浜松商工会議所会頭 御室健一郎
      - ・来賓祝辞  
国土交通省中部地方整備局長 足立敏之 氏  
経済産業省関東経済産業局地域経済部長 増田仁 氏  
静岡県副知事 大村慎一 氏
    - 基調講演
      - テーマ : 「三遠南信の新ステージに向け」
      - 講師 : 芝浦工業大学大学院教授 谷口博昭 氏
  - 2 分科会 (15:25～17:00) [場所: オークラアクトシティホテル浜松]
    - 「道」分科会
      - テーマ : 「中部圏の中核となる地域基盤の形成」
      - コーディネーター: 浜松市長 鈴木康友

○「技」分科会

テーマ：「持続発展的な産業集積の形成」

コーディネーター：(株)サイエンスクリエイティブ代表取締役専務 中野和久 氏

○「風土」分科会

テーマ：「塩の道エコミュージアムの形成」

コーディネーター：(財)阿智開発公社理事長 羽場睦美 氏

○「山・住」合同分科会

テーマ：「①中山間地を活かす流域モデルの形成」

「②広域連携による安全・安心な地域の形成」

コーディネーター：豊橋技術科学大学教授 大貝 彰 氏

3 報告会（17:40～18:10） [場所：アクトシティ浜松 中ホール]

- ・各分科会の報告 : 各分科会コーディネーター
- ・サミット宣言 : 浜松市長 鈴木康友
- ・次回開催地域代表あいさつ : 豊橋市長 佐原光一

4 交流会（18:30～20:00） [場所：オークラアクトシティホテル浜松]



## ○主催者あいさつ

### ■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長

浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。改めまして第19回となります三遠南信サミット2011 in遠州にお越しをいただきまして本当にありがとうございます。三遠南信地域の県、市町村等の自治体関係者の皆様、議会関係の皆様、そして経済団体の皆様、市民及び市民団体の皆様、多くの関係の皆様にお越しをいただき、また、国からもご来賓として多くの皆様に参加をしていただいております。改めて厚く御礼を申し上げますとともに、開催市の市長として心から歓迎を申し上げますと思います。

昨年は飯田市でサミットが行われまして、あれから1年が経つわけでございますけれども、この間、今年1年は私どもにとっても非常にいろいろな大きな変化のあった年でございます。

まずは3月11日に東日本大震災が起りまして、あれから7か月が経つわけでございますけれども、本当に多くの皆様が犠牲になられまして、まだまだ復興に向けて本格的な緒についたという状況ではございません。亡くなられた皆様に改めて心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念するものであり

ます。

それぞれの自治体の皆様も被災地の復旧支援、あるいは復興支援にご尽力をいただいていると思います。これからも長いスパンで被災地復興を考えていかなければいけないということで、我々に課せられた役割も非常に大きいと思います。

また一方で、私たちにとって防災について改めて大きく考えさせられる震災であったと思います。特にあれだけの大災害が起こったときには広域で連携をしていくこと、そしてお互いに助け合うことがとても大事だということを改めて認識をさせられました。この三遠南信地域の連携の中でも防災について取り組みをしているわけでありますけれども、一層の強化というものが必要だということを思いました。

また、福島原発事故以来、広範囲に放射能汚染が広がりまして、これまで日本の基幹エネルギー、原子力を中心にして進めてきたわけでありまして、今大きく世論も変わりつつあるという中で、これからはもちろん国のエネルギー政策をどうしていくかということは、一義的には国の責任においてやっていくわけでありまして、私たちが自治体にとってはその中で今後の将来を見通したときには、再生可能エネルギーの啓発・普及というものが大きな課題になってきているなど、こうした面においても私たちの連携というものがより一層必要になってくるのではないかなと思います。

また、この1年のこの地域の社会資本整備について振り返ってみますと、5月にはリニア中央新幹線のルートが正式に決まりました。南信州の皆様もいろいろと思いはあったかと思っておりますけれども、これで本格

的な事業の推進に向けて大きなスタートが切られたかなという感じがいたします。

また、8月には、新東名が来年の初夏までには静岡県内が全線開通、供用開始されるという発表もされました。これもこの地域にとっては朗報であろうと思います。

また、懸案の三遠南信自動車道でございますけれども、なかなか私たちが思うとおりには進んでいないわけでありましてけれども、それでもこの年度内にはいよいよ三遠道路の一部供用開始も行われるということで、我々も大いに期待をしているところでございます。これからも一層、早期全線供用開始に向けまして一致団結して推進をしてみたいと思います。

また、愛知県では、私も大変仲がいいわけでありまして、大村新知事が就任いたしまして、東三河県庁という新しい構想を打ち上げまして、年内には議会に提案をされるということで、これは東三河地域にとっては大きな変化であったんではないかなと思います。

こうしてこの1年を振り返ってみますと、この三遠南信地域を取り巻くさまざまな環境変化がございました。こうしたものを受けて、今回の第19回となりましたサミットを行うわけでございますけれども、今回のテーマは「三遠南信流域都市圏構築への挑戦 ～融合、新たなステージへ～」ということになっております。

皆さん既にご案内のとおり、この会も19回、回を重ねてきたわけでございますけれども、一昨年の豊橋のサミットにおきまして「連携から融合へ」という決議をいたしまして、新たなステージに向けての取り組みがスタートをいたしました。20年3月には三遠南信地域連携ビジョンができて、同年11月には浜松市役所の中にS E N Aの事務局が開設をされまして、今、具体的に事業の推進に取り組んでいるわけござい

ますけれども、この連携ビジョンも4年を一区切りとして考えておりますので、24年が一つの節目になってまいります。

そういう意味で、24年からの第2期に向けまして、1期目の検証と総括をしていかなければいけない。そしてまた2期目に向けての取り組みをしていくと。そしてまた三遠南信地域の連携のあり方についても、新しい連携の仕組みについていよいよその取り組みをしていくと、そういう時期に差しかかっていると思います。

そうした中で、今日は元国土交通事務次官でございます、現在、芝浦工業大学大学院の教授をされておられます谷口博昭先生にご講演をいただくことになっております。谷口先生についてはよくご存じの方もたくさんいらっしゃると思います。私も国土交通省時代は何度となく三遠南信の推進に向けて陳情やお願いに伺ったわけでございます。先生は特にこの地域については熟知をされておられて、三遠南信自動車道についても専門家でいらっしゃいますので、きょうは三遠南信の新しいステージに向けてということで、先生のさまざまなこれまでの蓄積でありますとか知見も踏まえて、我々にいろんな示唆をいただけたと思います。

そうした先生のご示唆もいただきながら、この後、分科会が行われますので、それぞれの皆さんのお立場からさまざまなご意見やご提言をいただきまして、次のステージに向けて大いに参考にさせていただきたいなと思っております。

また、今回から新たに伊那市さんがオブザーバーとしてご参加をいただくことになりました。昨年の駒ヶ根市さんに続いて新たな仲間を迎えることができたということで、我々にとっても大変頼もしい限りでございます。

こうした三遠南信地域の取り組みにつき

ましては、私が言うまでもなく、今全国をリードする県境連携として注目をされているわけでございます。国においても三遠南信地域についてはとてもご注目をいただいているということで、いろんな取り組みの申請をしても、おおむね好意を持って見ていただいていると。これは私の希望も込めてでございますけれども、これまでの広域地方計画の採択等も含めまして、いろいろ国にもご支援をいただいているところでございます。

これからいよいよ日本が地方分権に向けて大きく進んでいかなければいけない。これまでの行政の境というものがだんだん意味をなさない時代になってきているのではないかと私は思います。そうした中で、道州制への移行等々、新たな広域自治体の取り組みについてもいろいろな議論があるわけでございますけれども、我々はそうした将来の大きなビジョンに対しても具体的な県境連携の一つの事例として、今後大いに全国に向けて発信をしていかなければいけないと考えます。足元を見つめながら、お互いに助け合うという、そうした地道な事業の推進とともに、将来の大きなビジョンをめがけて、我々がまさに日本をリードしていくんだと。そういう意気込みでもって、この県境を越えた広域連携を推進していければなと思います。

ぜひ皆様の引き続きのご理解とご尽力をお願い申し上げますとともに、今回の19回のこのサミットが実り多きサミットになりますことを心からご期待を申し上げまして、ごあいさつにかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

### ■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長 浜松商工会議所会頭 御室健一郎



改めまして、皆さん、こんにちは。浜松商工会議所会頭の御室でございます。一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

三遠南信地域の市町村行政の皆様並びに日ごろから地域おこし、あるいは文化活動に取り組んでいらっしゃる住民の皆様、そして商工会、商工会議所を始め、経済団体の皆様には大変ご遠方より、そしてまたご多忙のところ、当浜松地域にご参集をいただきまして、地域経済界の総意をもちまして歓迎を申し上げます。

また、平素から三遠南信地域の振興につきましては、格段のご高配をいただいておりますこと、ご来賓の皆様にもご多用の中を多数ご列席を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

2週間ほど前になりますが、10月6日、7日の2日間、このアクトシティを会場に、全国商工会議所連合会の女性会全国大会という会合がございました。今回はそれに引き続いての大きなコンベンションでございます。私、この会場でごあいさつさせていただくのは今月で2回目ということでございます。ちなみに、女性会の全国大会では会場の外に地場製品の販売ブースが並んでおりまして、参加者の皆さん、もちろんすべて女性の皆さんというわけでございますが、競うようにしてお買い物を楽しまれ、どのお店もまさに飛ぶような売れ行きだっ



たということでございます。

東日本大震災、あるいは原発不安、超円高、ギリシャ危機など、七重苦、八重苦の日本経済、大変な状況に今さらされているわけでございますが、こうした事例を目にいたしますと、決して女性の世界だから例外であるというわけではございませんで、消費のきっかけや活発なムードをつくり出していくことが経済を元気にする上でとても大切な要素だということを痛感いたしました。三遠南信サミットは、こうして大勢の関係者が一堂に会し、活発に意見交換を行い、そしてお互いの地域の将来像を語り合うという、すばらしい場でございます。ぜひとも経済活性化という観点からも、アイデアや情報を共有し合い、皆様とともに閉塞感や沈滞ムードを振り払っていただく貴重な機会となれば幸いに存じます。

ご案内のとおり、本サミットは回を重ねて19回目の開催となるわけでございますが、私も早いもので会頭になりまして5回目の出席ということになります。この4年の間に三遠南信地域連携ビジョンが策定をされ、それに基づき、各地域が県境を越えて産学官民の幅広い分野における広域的な交流、連携活動を推進し、自発的な地域づくりや圏域の形成が図られてまいりました。

我々商工会議所では、中小・零細企業が抱える問題に真摯に向き合い、経済団体としての責務を果たし、それぞれの地域の継続的な発展に寄与すべく諸事業を展開しておりますが、加えて産業基盤の骨格をなすインフラとして、三遠南信自動車道の日も早い全線開通が何より大きな経済効果をもたらすものと確信をし、関係先への要望を初め、地域へのPRなど地道な活動を続けていところでございます。既に北方面では、飯田山本から天竜峡、そして喬木村から程野間にて部分供用が始まり、南方面においては来年、引佐町から旧鳳来町間の

供用開始が予定されるなど、こうした活動が着実にその整備に結びついているということございまして、関係各位にはこの場をおかりしまして深く感謝を申し上げます。

また、三遠南信自動車道につながる浜松三ヶ日・豊橋道路につきましても、期成同盟会が中心となりまして各方面の働きかけを行っておりまして、その進展にも大いに期待を寄せるところでございます。

ただ、今後より一層の地域連携を強化していくには、連携ビジョンにうたわれた重点プロジェクトのみならず、それぞれの各組織が自発的な事業展開を通じて具体的な活動に移していくことがより肝要になるものと思います。

継続は力なりと申しますが、既に18回のサミットを通じて、皆様それぞれに各種情報やアイデアを十分に蓄積されていらっしゃるものと存じます。どうぞ本サミットにおきましては、そうした皆様がお持ちの有益・有効な資源をフルに活用いただく場となって、さらに3地域の相乗効果を生み出して、三遠南信地域が新たなステージへとステップアップする契機となりますこと、心より祈念を申し上げまして、簡単でございますがごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

## ○来賓祝辞

### ■国土交通省中部地方整備局長 足立敏之 様



ご紹介をいただきました国土交通省中部地方整備局長の足立でございます。本日は第19回の三遠南信サミット2011 in遠州がこのように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、日ごろから鈴木市長様を始め、この3地域の市町村長様方、あるいは県の皆様に、国土交通行政の推進に当たりまして非常にお世話になっておりますことを、この場をおかりしまして厚く御礼申し上げます。

また、本日、基調講演をいただく谷口元事務次官は近畿地方整備局の局長をされており、当時、私が企画部長として、直属の部下だったこともあって、みっちり鍛えられました。さらに申し上げますと、和歌山の県立桐蔭高校の6年先輩でもあります。わざわざ中部管内に足を運んでいただきまして、心から御礼申し上げたいと思います。

鈴木市長様からもお話がございましたけれども、3月11日に東日本大震災が発生しました。現在も東北地方を中心に復旧・復興の努力が続けられており、被災地の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

私も現地のほうに参りまして、被災地を見せていただきました。私自身は土木の技術者でございますので、そういう観点で物を見てまいりましたけれども、やはり信頼できる道路のネットワーク、これをちゃんとあらかじめつくっておくことが大事だというふうに痛感いたしました。

それから、津波のやってくるエリア内、このエリア内の物のつくり方というのは、やはりもう少し工夫が必要だったな、あるいは重要な構造物の配置についても、もう少し配慮が必要だったな、そういうところを痛感いたしました。

東北地方の復旧・復興に当たりましては、くしの歯作戦と東北では呼ばれております

けれども、東北の中央を縦貫する東北自動車道、国道4号、これを軸にして東西に、特に津波で被災した三陸沿岸、そして福島の浜通り、こちらのほうに進入していく道路を緊急輸送路として15ルート確保したと聞いております。このくしの歯を完成させて、地域の緊急輸送路として活用していただき、自衛隊や消防、警察の方々が活動したり、支援物資が入ったり、そういう緊急対応を達成いたしました。先ほども申し上げましたけれども、やはり信頼できる、規格の高い道路のネットワークをあらかじめつくっておくことが大事だというふうに痛感したわけでございます。

翻ってこの地域を見ますと、東海・東南海・南海地震が目の前の脅威として迫っております。今後30年に発生する確率が、東海地震で87%と言われております。東日本大震災に匹敵する大きな地震であったと言われていた貞観地震、869年だったと思えますけれども、この地震の18年後に仁和の3連動地震といいまして、この地域の東海・東南海・南海地震、これに相当する地震が発生しています。貞観地震から18年後です。したがって、東海・東南海・南海地震を抱えておりますこの地域としても、本当に待ったなしの状態に来ているのではないかと感じております。

そういう観点で、先ほども申し上げました信頼できる道路ネットワークというのをあらかじめつくっておくという観点が大事だと思ったわけでございますが、この地域ではまだまだつながっていないミッシングリンクもございます。こういったところの整備をとにかく急いで、本当に次の3連動地震が来る前までに何とかそれをつなげる必要があるのではないかと感じておるところでございます。

午前中、現地を見させていただきまして、三遠南信の引佐北から鳳来の間を走ってま

いりました。かなりできておりました、インターの入り口のところはまだでございましたけれども、中のほうはかなり整備が進んでおりました。また、新東名のほうもあわせて見させていただきました。引佐ジャンクションのところから浜北のサービスエリアまで見させていただきましたが、かなり整備が進んできております。これを見て、私は、安心をしてきたところでありました。ただ、とにかく一日も早くそういったものを開通させるというのが我々の使命でございますので、地域の皆様の期待にこたえながら、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

最後になりましたけれども、3地域の今後のますますの発展、そして、より安全・安心な地域になりますことを祈念申し上げまして、私のごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

#### ■ 経済産業省関東経済産業局地域経済部長 増田仁 様



皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました経済産業省関東経済産業局地域経済部長を拝命いたしております増田仁でございます。本日、私ども局長、照井、所用のため、私が本日この場にお招きいただきましたお礼と感謝の気持ちを込めて一言あいさつを申し上げたいと思っております。

今、私どもの国は停滞の中の危機と言わ

れております。20年にわたる経済成長、非常に苦しい状況の中で、3月11日、東日本大震災がございました。目下のところ復旧・復興ということで全力を尽くしております。その中でも特に今後エネルギー対策、それから特にものづくりに影響がございまずサプライチェーンの強化ということが喫緊の課題でございます。こうした中でも国全体、地域を初め、現在産業空洞化、それから成長力の強化・育成、こういったことが非常に重要だと認識をされております。

ちょうど先週、10月21日、金曜日でございますけれども、今申し上げたような手当て・方針を国としても最大限支援をする、牽引をしていくということで、第3次補正予算、概算の閣議決定をさせていただいたところでございます。まずは被災地が元気になること、非常に重要でございます。きょうこの場をかりて、この三遠南信の皆様からもぜひ東日本大震災、今、復旧・復興をしようとしているそういった地域に対するさまざまな面でのご支援、ご協力をよろしくお願いいたしたいと思っております。

さて、今回のサミットでございます。こうした県境を越えた取り組み、私ども経済産業省、地方の経済産業局といたしましても非常に重要視しております。例えば企業立地促進法、既にこの地域は全国に先駆けて広域基本計画を策定いただいております。また、個別の施策といたしましては、農商工連携、地域資源、JAPANブランド、そういった地域を、点と点を結ぶ、さらにはそういった点と点を結んだ線から面へという取り組みを、まさに県境を越えて率先をしてやっただいている地域と認識をしております。

私どもといたしましても、ちょうどこの地は、きょう私はさいたま市のオフィスから来ております関東経済産業局、それからさらにあわせて本日は中部経済産業局、名



古屋からも参っております。その他、地方支分部局、東海であったり中部であったり関東、そういったところにまたがります。ただし、これまで私の認識では皆様方はその両方にまたがるということ、これはハンディではなくて長所としてご活用いただいていると思います。私ども国の立場といたしましては、三遠南信のご地元からごらんになって、国を徹底的に使い倒す。そういった意味でぜひ使い勝手のいいところにどんどんご相談をいただければありがたいと思っております。

この三遠南信の地が日本の真ん中から世界の真ん中へ、しっかりと地固めができる、世界最高の産業、そういったプレーヤーが集う、その世界最高の場、こういったことをぜひ提供いただけるよう、私ども各府省連携をして支援をしてまいりたいと思っております。

結びに、本日この場をご提供いただくに当たって大変ご尽力をいただきました鈴木康友浜松市長様、それからしっかりとサポートをいただいております浜松商工会議所、御室会頭様、心から敬意を表したいと思っております。本日ご参集の皆様方、それからこの三遠南信地域のますますのご発展を祈念して、私からのお礼とお祝いのあいさつとさせていただきますと思います。本日は本当におめでとうございました。

#### ■ 静岡県副知事 大村慎一様



皆様、こんにちは。このあいさつのトリを務めさせていただきます静岡県副知事の大村と申します。本日は静岡県、そして浜松市によろこそおいでをいただきました。心から歓迎を申し上げます。

さて、前にもお話がございましたように、今年は東日本大震災が発生しました。東海地震、3連動地震、こういったリスクを抱える本県といたしまして、今回の大震災は、決して人ごとではございません。我々は県民のこうした声を背景として、その思いを胸に各地での支援をさせていただいております。特に岩手県の内陸部に位置します遠野市に現地支援調整本部を置かせていただきまして、そこを拠点に沿岸部の大槌町、山田町を3月19日以来、継続的に半年間にわたって支援をさせていただいております。県としまして、県と市の職員だけでも700人を超えるメンバーを送りまして、またボランティアも合わせて、支援をさせていただいたわけでございます。

今回の震災は、津波被害でありますので、内陸部が沿岸部を支援するという形になりました。特にこの岩手県遠野市は、従来歴史的にも交通の結節点であり、それを生かして内陸部と沿岸部を結ぶ非常に長大な、立派なトンネルを長年かけて整備をしてこられました。その基盤と防災に対する非常に高い意識が今回の震災の支援で非常に功を奏したと思っております。

この三遠南信地域は、今までもご説明がありましたように、新東名高速道路、三遠南信道路、リニア中央新幹線の間駅、いずれも内陸部に位置し、また内陸部と沿岸部を結ぶという新たな発展の交通基盤であります。

これまで我が国の経済成長というものは沿岸部に大規模な工場が立地をし、そして人口集積があり、そういった中で沿岸部が主に牽引をしてきたという点があると思



ます。しかし、大量生産という点では新興国に既に優位性があります。また、我が国が競争性を維持していくべき高度な知識集約型の産業というものは、相当に立地の特異性が違いますし、また、情報化・IT化の進展という中で、内陸部も含めた立地の制約等、今後相当変わってくると思います。そういう意味では、これまでの10年以上にわたるこういった日本の閉塞感というものを打ち破る新たなモデルというものが、この東日本大震災を契機として、内陸部に潜んでいると考えております。

特にこの三遠南信地域は、これまで19回にわたって、来年は20回ですから、非常に広域的な連携に他を圧倒する歴史がございます。沿岸部に浜松市を始め、日本を代表する産業集積があり、そしてこれまでの発展基盤を内陸に大きく持っております。大きな優位性がございます。そういう意味で、この三遠南信地域が今後の日本の新たな発展の基盤のモデルとなる、十分その余地があると期待をいたしております。

県といたしましても、来年の初夏、実際は春と期待しておりますが、新東名高速道路の県内162kmの区間が一括して開通をいたします。これを機に、県としては内陸にフロンティアありということで、さまざまな取り組みを進め、沿岸部との連携を図っていきたいと考えております。

もう一つ、地域分権でありますけれども、昨今は道州制、そして広域連合といった、非常にダイナミックな議論が出てきております。これは大変に歓迎すべきことであると思っております。また、その一方で、形にとらわれますと個々の権限移譲ですとか地域のきめ細かな連携というものが、なおざりになる危険性もございます。

この三遠南信地域は、何といたっても県境をまたいだ連携ということに大きな特徴がございます。住民の皆様にとっては、県の

単位ですとか、市の単位ですとか、そういった行政単位、区域というものは余り関係はございません。そういう意味で、これまで進めてこられた、そういった県境を越えた連携というものをより充実していただくということも一方で非常に重要ではないかと思っております。

今回の震災も踏まえれば、先ほど冒頭鈴木市長からもありましたように、防災の連携ということも非常に効果があるのではないかと考えております。三遠南信地域を合わせた防災の合同訓練などをしていただいて、岩手県ではありませんけれども、内陸部と沿岸部との支援の連携といったことも非常に大きな意義があると感じているところでございます。

いずれにいたしましても、この三遠南信地域は、歴史もあり、伝統もあり、そしてこれだけのサミット、来年には20回になる大きな連携の伝統がございます。この特色ある地域の発展に大いに期待をいたしまして、私からの御礼のごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

■ 芝浦工業大学大学院教授  
谷口博昭 様



昨年8月10日、国土交通事務次官を最後に退官させていただきました、1月7日から芝浦工業大学の、MOT (Management of technology) 教授を仰せつかっております。

芝浦工業大学は84年の歴史のある大学でございますが、私のMOTというのは8年を経過した新しい研究学科ということでございます。私も38年余り公務員生活を、現場をかなり多く経験させていただきましたが、建学の精神である社会に学び社会に貢献するという、日々学びながら教えるということをやらせていただいています。

38年余りの公務員生活のうち、昔の中部地建ですね、中部整備局、約10年勤務させていただきました。思い出がこの地域にはいっぱい詰まっているということでございます。

矢筈トンネルという遠山郷に抜ける4.2kmのトンネルでございますが、私は名古屋の課長をしており、4.2kmのトンネルができて私はよかったと思います。当時の技術では、4.2kmというのは過大すぎるということでございました。

三遠南信のサミットも回を重ねて19回目ということでございます。これまでの熱心な意欲的な取り組みに改めて敬意を表させ

ていただきます。未来志向の明るいビジョンというものを策定する必要があります。そのビジョンも単なる絵に描いた餅になるようなビジョンではなく、実効性が担保されるビジョンである必要があるかと思いません。

東日本大震災も大変でございますが、これを単なる復興でなく、日本再生にどうつないでいくかということが、私は失われた20年を回復する意味でも非常に大事だと思います。

そういう意味では、19回を迎える三遠南信地域のビジョンというものが非常に大事ではないかと思う訳でございます。いい成功事例、いいモデルを全国ほかの地域に伝えていくことが重要なのではないかと思います。

実効性のためには財源が必要となりますが、東北地方だけじゃなくて、三遠南信地域にも熱い視線を送っていただけるかどうか、そのための材料提供ということで、「三遠南信の新ステージに向け」ということで6つの切り口を用意させていただきました。

6番目はこれから分科会を開かれるということでございますので、その1から5は前段階というようなことで、周辺状況ということ。三遠南信地域がほかの地域の共感を得て、先行的なモデルでやらせていただく、実行していくという意味では、その他の地域の共感・共有を、支持を得なくちゃならないという意味で非常に大事なことではないかと思います。

まず、大きな変化ということでございませう。

日本人は変化に敏感です。敏感だけれども、過敏だと思います。過敏過ぎると、底流に流れている大きな変化ということを見誤

る、適切に対応できないおそれがあるということでございます。

関東大震災、今回の地震で明治維新のときに加えて、第3の最大の国難と言われている訳でございますが、国難というこの時代にまだこれまでの延長でやろうというのは、失われた20年に年月を積み重ねることになりかねないということです。

大きな変化というのは、2つ、グローバル化と少子高齢化、人口減少ということではないかと思えます。このグローバル化はいや応なしに、私だけ鎖国して私の勝手よというようなことは、あり得ないのです。

そういう意味では政治主導、この大きな変化に対応するためには、このガバナンスが揺れ動いたままでは、うまくいかないです。こういう不安定なときにまた国から地方へ、官から民へとか、官僚主義打倒とか、官僚主義というようなことをやっていったいいのかということです。

私は極論すれば、こういうことは一旦、棚上げしてでも、国難と言われるようなことを契機に、グローバリゼーション、少子高齢化、人口減少に適切に対応していくというような姿勢が大事なのではないかと思っております。

次に、東日本大震災、3月11日に起こった訳でございますが、マグニチュード9.0ということで、我が国観測史上最大ということでございます。それで巨大津波、南北500km、原発事故はレベル7、こういう3つの複合的な災害であった、大きな被害であったということでございます。

もう一つは、今回の教訓、改めて脆弱な国土ということでございます。地震はもちろんでございます。大きい小さいは別にして、地震は必ず近いうちに起こるとことです。

いずれにしても単なる復興では意味がありません。GDPでいきますと7%という

東北地方全体のシェアでございますが、この地域だけが特別扱いというのは当面はやむを得ないかも知れませんが、残り93%の方々の支持を得なければなりません。復興債からその財源である復興税ということですので、そのためにはこの震災を契機にして、残り93%の新しい先進的な、モデル的な計画、事業というものが被災を受けた東北地方で成功すれば、被災を受けたことをピンチからチャンスに変えるということで、残りの93%のご負担も我々のために被災を受けた地域で先行的にやっていただくという考え方が成り立つのではないのでしょうか。

野田内閣は復興内閣と言われておりますが、復興だけじゃなくて日本再生内閣ということにならざるを得ない、そうしていただきたいということです。

これは人口でございます。まず人口の関係でいきますと、現在65歳以上の高齢者というのは、23%ということで、これは世界のトップバッターになりました。だから、高齢化率という意味ではほかに経験している国はないということになりました。

2050年半ばには約4割の方が65歳以上になるということです。

同じように、これも中学卒業するまでは若年人口ということで、10%ぐらい。半分の人が高齢者、若年人口で働かないという、現在の定義ではなっているということで、生産年齢人口52%になっておりますが、アバウト1人の人が高齢者と若年人口を支えるということです。

したがって、高度成長期にできた年金ですと、賦課方式で、今の人口推計でいきますと、今の年金制度というのは変えていかざるを得ないということでございます。そういう意味では積み立てとか税方式とか、組み合わせていくことになっていくと思えます。いずれ消費税ということになると思

います。

東北の事例は先ほど言いましたが、東京もしばらくは人口が増えますが、減っていきます。20年ぐらいは、高齢者人口はまだまだ上っていきます。高齢者人口という意味では東京も大きくなっていくと、高齢者人口は増えていくということです。

石原都知事は頑張っておられますが、財政的にも地方と比べて比較的余力があると思いますが、そのときになりますと、年金、医療、介護の3点セットというものが負担になってくるのではないかとということです。そういう意味では、この内閣の第1関門ということで、この社会保障と税制の一体改革をどうしていくかを、早く道筋を決めないとインフラも見通しが立たないということです。

これは東日本大震災、くしの歯作戦。これと横方向でくしの歯ということになっています。

阪神・淡路のときに、今から16年前、95年に橋が落ち、橋脚が倒れました。その後、高速道路なり国が管理する直轄の橋は、耐震補強をほぼ終えてきました。そのため今回は大きな橋梁の落橋なり橋脚が倒れるというような事象は起こらなかったことです。

多少の段差があっても緊急車両は1日で通れるということで、東北地方の背骨である東北道、国道4号が1日で緊急車両が通れるような状態になりました。

横方向は15ルートありますが、4日間で通れるようになりました。まだ行方不明者の方々がおられるということで、警察の方々の協力、また、それよりも地元建設業者が52チームを組んで、機械を提供していただき、また優秀な熟練した技術者を提供していただき、4日間で太平洋岸まで到達したということです。

もう一つは、太平洋岸は1週間で通れる状態にしたということで、南のほうは国道

6号、三陸のほうは国道45号でございます。高速も1,000橋ぐらいありますが、直轄は1,500橋ぐらいございます。阪神・淡路と違って、揺れでは倒れなかった訳ですが、津波で5橋流出しました。通れないということで、組み立てた仮設の橋梁で通れる状態にしたのですが、1週間で97%になっているということでございます。

市町村なり都道府県、政令市の耐震補強というのを早く完了しないといけないということで、国土交通省でも補正予算等を活用しながら推進していきたいということです。

次に、日本海からの支援ということです。被災を受けた太平洋岸の港、八戸からいわきまで、15の大きな港がございました。しばらく使えなかったときに、大きな物資については日本海側からこの緑の矢印のように横断を使って太平洋岸に物資を運んだということでございます。酒田港の例でいきますと、1年前と同時期と比べて5割増しになっており、国道113号が、約2.3倍の交通量になったということです。

この被災を受けた地域のみならず、ネットワークのミッシングリンクをなくし、強化することが被災を受けた地域のためにもなるということで、我が地域だけ高速道路が通ればよいではなく、経済でいきますとサプライチェーンのように、ネットワークが必要だということです。

次に、大きな価値観ということです。これからは右肩下がりになるということで、あれもこれもということではスピーディーに物事が図らないということです。絵に描いた餅ということになる可能性が大きいということです。パイを大きくしていく努力はしなくてはならないが、もう少し大きな価値観を持たないとだめです。

少し選択と集中の精神で大きな価値観を共有することが大事なのではないかと思います。



ます。そういう大きな価値観を共有するという大前提の上で、リーダーシップに基づく明確な方向性を示していただくことが大事な訳でございまして、その上で大きな絵を描き、大きな絵を共有しながら実行すると、動いていかないと、半歩でも一歩でも前に行かないとだめです。今まで見えなかったものが二、三年頑張っていき、ぼんやりとも見えてくれば、勇気が出る、力が出る、知恵が出るということではないかと思えます。

日本国民は、優秀だと思うので、価値観を共有しながら大きな絵を描いていくことが重要なのではないかと思えます。

自立と共生と言われます。共生ということちょっと響きが悪く、強制収容なり強制執行みたいな感じがします。東大寺の住職を得た長老と懇談させていただいたとき、「きょうせい」というのは響きが悪い、「ともいき」と言いなさい、と言われました。「ともいき」というのはなるほど、いい響きだなと思えます。そうすれば生かされている自分というのが素直にすんと胸のうちに落ちてきます。そうすれば相手に対する思いやり、そういうものが芽生えやすいのではないかということです。

英語ではGive and takeと言いますね。まず相手のためであれば、あとで、おつりのほうが自分に大きくなって返ってくるというような清貧な考え方が重要なのではないかと思えます。

そういう意味で、英語で言いますとBig pictureというのです。1人でうまくいかないときには大きな絵を共有する、Big pictureが必要と言われております。

日本でいきますと、真言宗、弘法大師、空海なのですが、曼荼羅を彼は持ってきました。大きな曼荼羅で一言、絵を見れば自分の立ち位置なり役割みたいなことがわかりやすいということだと思えます。

この国難と言われる世の中をともに手を携えながら生き長らえていこう、生きていこうというような精神だと思います。

国と地方もそういうことです。ともに力を発揮できるような、お互いが認め合いながら、どういう役割分担がいただろうか、そういう精神を共有しないとだめだと思います。

いや応なしに経済政策が重要になってきます。財政再建そのものは必要かと思いません。しかし、経済イコール財政再建ではありません。それは目的と手段が異なるということでもあります。

価値観がグローバルな中で、ますますフラットに多様化してきております。そういうような政策をやっていく必要があるということでもあります。

私は、成長戦略が重要だと思っていますが、それで成長と格差是正、調整と同時にできればいいのですが、まず成長で調整というようなステップがあってもいいんではないかということです。

GDPは減ってきています。アバウト500兆と見ていただきますと、消費が約6割であります。投資が約100兆、政府支出も100兆、2割、2割、経常支出は輸出から輸入を引いたもので、10兆から20と、こういうことになっておりますが、これで輸出を頑張るということではありますが、昨今の円高ではなかなか厳しくなっています。

政府支出の大半は冒頭言いました社会保障です。投資はこの中にインフラの投資も入っており、民間の設備投資も入っております。それで消費は6割ということでもあります。藻谷さんという（政策投資銀行）方で、彼が言うのは消費、人口減少の時代は消費を頑張らないかんということです。

GDPを増やしていく成長戦略という意味では消費ということが必要であります。

投資、政府支出をどうしていくか。社会

保障は切れません。そういう意味では公共投資を切ってきているということですが、この公共投資の金の使い方も工夫していくということで、新しい世紀の暮らし方なり産業のあり方に資するもので、場合によっては、インフラの更新とまちづくりの都市再生と一緒にやるということであれば、GDPも増えるのではないかと、投資も増えるのではないかと、そういう金の使い方にシフトしていかなくてはいけないということです。もう一つは比較優位、これは経済学で有名でございますが、リカードの比較優位ということです。これは絶対優位ではありません。その国が相対的にすぐれたものをさらに磨いていけば、国際分業がうまく成立するというところで、海外にもどう展開していくか、TPPもどうしていくかということが重要になってきたということです。

海外へ行ってもうけたものを日本にどう回すか、海外に出ていってもうけたものをどういうぐあいに国内に還元・循環し、内需主導型経済に資するかということです。そうしないとGDPは増えません。

新成長戦略というもので、昨年6月に政府で閣議決定されておりますが、年内を目途にこの新成長戦略を見直すということになっております。今度は新成長戦略じゃなくて、日本再生戦略にしようとする年内を目途に新たに策定されるということでもあります。

もう一つは、昨年5月、中国を始めとする高成長を遂げるアジア諸国の活力を日本経済に取り込むということで、そういう元気をもらってGDPを増やしていく必要があるのではないかとということです。

もう一つは、ICT技術や民間の知恵と資金の活用により生産性の向上とパイの拡大というようなことです。5つのドライバーということで、集中投資、民間の知恵と資金、規制緩和、グローバル化に対する人材育成、政治のリーダーシップというこ

とです。教育とか技術とか、短期的な視点でなく、将来、21世紀を見通したようなことも重要なのではないかと思います。

これからの地域社会というのは、今回の地震の関係で分散型の地域社会に向かっていくのではないかと思います。

この三遠南信サミットのように、地域的に独立して、自立と共生という精神でやっていくことが大事なのではないかと思います。

分散型ネットワーク社会と言っているのかわかりませんが、地域が分散して危機管理に資する安全・安心な暮らしという大前提のもとに、強固なネットワークで、無料の高速道路、隣の都市と離れていても一体的な都市機能を果たすことができるということが望ましいのではないかとということです。そういうことが自立と共生の精神にも近いし、地産地消的、これはエネルギーだけではなくて食料の問題もそうです。また、スマートシティとかコンパクトシティとかにもつながるのではないかと思います。その前提で陸海空の連携ネットワークというのが非常に大事になってきます。それがコンパクトなシティということで、無料の高速道路で、二、三十km離れていても、10分か15分で行けるということです。そういう意味では、分散的に過ごすと同時に、それを強い陸海空連携した一体となったネットワークでということが望ましいのではということです。

これからインフラの整備、安全・安心も含めてまだまだですが、高度成長のときにできたものが、更新時期が来るということです。道筋を国家の責任でやる必要があるのではないかとという意味です。

なべを成長戦略で大きくしていく必要があると思いますが、500兆を超えるように持っていけないといけません。その中に入れても、あれもこれもというのはあふれて

きますので、それを一律に切るということ  
じゃなく、取捨選択しながらやっていく  
という精神が国家の責任ではないかと思いま  
す。

もう一つは言い忘れましたが、インフラ  
というのは、社会資本というのは自然も資  
本だと、制度も資本だと思います。大きな  
概念でこれから新しく捉えるべきではとい  
うことであります。

首長の責任ということで、都市の魅力度  
競争です。三遠南信も同じことです。それ  
ぞれが違う魅力で、三角が一番強いです。  
それぞれ持ち味を活かしながらやっていく  
ということです。

それと、経営センスが重要です。金がない  
というのは、国も地方もないのです。スマ  
ートシティとかコンパクトシティ、高齢  
化になりますので、町中はやはり歩いて暮  
らせる、そういうコンパクトな町です。

先行的なモデル的な、エネルギーだけ  
じゃなくて、暮らし方も、そういうことが  
望ましいのではないかと思います。地域資  
源の活用が重要になってくる、観光と言  
いましたが、トレイン観光とか、分科会で議  
論されているみたいですし、川を見直すこ  
とです。舟運も重要なのではないかと思  
いますし、定住圏構想もぜひ深めていただ  
ければと思います。

インフラの大きな更新時期が来る前に、  
まだ余力があるということで、この復興を  
契機に、今までできなかったことをやっ  
ていくチャンスだと思います。

私はぜひインフラだけじゃなくて、新し  
い世紀にということで、先ほど言ったGDP  
の考え方から、もう少し日本再生重点化  
措置のようなものを広げてやらないと、今  
までの延長上で失われた20年にさらに平成  
24年の1年も追加するということになりか  
ねないということです。

次に、道の文化ですが、日本は道の文化、

ヨーロッパは都市の文化、広場の文化と言  
われています。道というのはミに意味がない  
のです。チなのです。この血でもないで  
す。あっちこっち、こっちなのです。チが  
交わるところ、チが分かれるところ、ちま  
たと言います。ちまたのうわさ、ちまたの  
にぎわい、そこに市ができ、集落ができ、  
大きな町、市に発展してきたというのは言  
葉の意味からも分かる訳です。

「路」、白川静さん、もう亡くなられまし  
たが、福井出身の先生が、この「各」のほ  
うは神が天から落ちてくるという道筋を示  
しということです。「道」、首にしんにゆう  
ですから、異民族の首を槍の先にほっ提げ  
て、邪気を払いながら進んでいくのです。  
だから道のところはフロンティア、新しい  
フロンティアに行くためにはそういうこと  
をやってきたということです。道というの  
は怖いものだなと、畏怖の念を持っていた  
と同時に、畏敬の念に近い形で道というの  
はありがたいなと私は思っております。

万葉集に当て字、万葉仮名ということで、  
道、路が多いのですが、3番目は美しく知  
るということです。我々の万葉人という感  
性を道という言葉に込めたような形で、新  
しい世紀に道の文化という形で考えていた  
だければということです。

道の多様な議論というのはいっぱいあり  
ますが、現在970ということで中山間地が多  
い訳です。道路施策では高く評価されてい  
るということで、特にドライバーの休憩機  
能というのが切実な問題、道路管理者が簡  
易パーク、休憩機能をするとき、地場産  
品で売れるようなものを、地域、第三セク  
ターも含めてコラボレーションでセットし、  
その駅長さんに道路管理者が設置した簡易  
パーキングというものを管理していただき、  
うまく機能しているということでもあります。

情報発信機能と地域との連携、停まるこ  
とによって地域との接点ができ、地域との

コラボレーション、道の駅と地場産品で地域の雇用に、経済に資するという事です。

7年前の中越地震のときから防災機能というのが高まりました。今回の三陸地方で、道の駅で残ったところがコンビニ的な機能のほかに防災拠点にもなったということで、道の駅に防災機能を強化していったらどうかと言われております。

私が道路局長のときに、道の駅だけは評判いいので、もう少し沿道とのコラボレーション、地域とのコラボレーションに重心を移していったらということで、日本人なので美しく知るという万葉人ではありませんが、日本語のほうがいいだろうということで、検討していただき日本風景街道ということになっております。それを沿線に力を与える、それから沿道から道のほうに力をご恩返しのような形で与えてもらえれば、道の文化というように地域に密着したような形でコミュニティもできていくのではという思いから、日本風景街道ということをやらせていただいて、今全国展開をさせていただいております。

三遠南信の新ステージに向けてということですが、この地域は天竜、豊川ということで、流域からまた秋葉街道、三州街道というようなことで、舟運だけじゃなくて、徒で歩くというような、交流があったということではないかと思えますし、文化的なものも県境付近では同じようなことをやられているではと思えます。

三遠南信自動車道ということで、4.2kmは昭和58年の話でございますが、昭和62年に4番目の全国総合開発計画で、全国を1万4,000kmの高速道路を含め、規格の高い道路でネットワーク化しようということになっておりますが、あれから24年たちますが、まだ8,000kmであります。いずれにしてもそれで高規格幹線道路、1万4,000kmになって少し弾みがついたということであり

ますが、供用したところもございまして、三遠道路は今年度供用するという事で、残ったところの計画を早く固めることが大事だということでして、県境の青崩道路につきましては、前には行っているということでございます。

トンネルというのは、脆弱な国土ということで、大きなトンネルになるということですが、これができれば本当に世界が変わると言ってもいいぐらい大きなインパクトがあるかと思えます。

今日は伊那の人も来られているということですが、権兵衛峠道路というのが5年前にできました。これで木曾街道、伊那街道が一体的になったということです。通勤圏として一体的になったということです。これは国土交通省、当時の中部地建もそのときの建設省も予測できなかったことです。インパクトがあると思えます。

野田総理、鈴木市長に頑張ってもらい、この日本、底力もある、その力をもてあましている、金も使いようだという意味で、できるだけ早く前に動かす、完成していくことが重要なのではないかと思えます。おつりが来るぐらい来ると思えます。

ご案内のように新東名という言葉がいいと思えます。

来年度できるということですが、2年ぐらい後ということで、6車線化もされているということでもあります。

あちこちにいい影響を及ぼすように、三遠南信ができて青崩ができればもっとやるべきじゃないか、政治家も内閣もこれをやらないことには、と思えます。ミッシングリンクの解消が大事だと、ネットワーク強化が大事だということです。

中央リニアは25年が2年ぐらいおくれましたが、できます。このときに三遠南信はぼろぼろ、ミッシングリンクだらけということが許されるのでしょうかということです。



国土の利用のあり方からしても、やっぱり歪んだ利用の仕方ということではないかと思えます。

すばらしい国鉄民営化で、その利益で、また東海・南海地震が起こるかわからないということで、急いでおられるということですが、できましたらその国家プロジェクトとしてまちづくりと一体的に進めるべきです。東京・名古屋だけできてもしょうがないでしょう。大阪まで行かないとだめです。あとはさらに20年近くかかるといことありますが、やはり地域が発展できるような国家プロジェクトという視点をもう少し、そういう視点を大事にしていく必要があるのではないかと思います。

また、地元もリニアが止まっても今までの延長上ということではだめだと思います。40分もかからないぐらいで東京から来るということ、いい技術者というのですか、そういう人が集まって、ITでなくてもいいかわかりませんが、その地域の魅力・発信力を高めて、大きな産業になるということでもあります。

GDP、成長戦略を認めていただくならば、そういうITを、ソフトを活用したような産業に特化していくということです。我が建設業もそうです。若い人がどんどん入ってくるためには、3Kと言われるような職場じゃ来ないです。若い人が入ってこないような産業には明日はないですよ。そういう意味では少しそういうソフト的な、IT的な、文化的な産業に変えていく必要があるのではないかと思います。

これは安全・安心ということで、今後30年間に首都直下地震を始め、東海・東南海・南海地震が起こるであろうということです。これは連鎖反応的に起こる可能性があります。南北500kmと言いましたけれども、東北だけじゃなくて関東から西にもっとこういう切迫感があるということです。これは日

本全国と書いていいです。日本海も含めて、関東、東海、名古屋、大阪、四国、九州ということです。それにいっぱいミッシングリンクもありますし、どうしていくのか、それでネットワーク、さっきの日本海からというように、これは中部地整でつくっていただいたものでありますが、3連動地震に耐えるようなネットワーク強化というのが重要なのではないかと思います。安全・安心な地域づくりということで、道の駅の活用とかソフトなものです。

大きな津波、1,000年と言われる津波のようなものについてはハードでは対応できません。必ず想定外の地震は、津波は来るかもわかりません。50年から150年の津波についてはハードで対応するという精神が強く、そういう意味では、ソフトな施策を地域が主体となってやることです。自助、共助、公助とありますが、公助は広域的な弊害を受けた場合にはそれなりに国が国の責任でサポートすると思いますが、分散型地域社会と同様に、他人を頼らない共助型に日ごろの訓練を含めてしていくべきではないかと思います。

地域開発の要点というのは、地域づくりはらせん状に、直線的にでなくです。回っているときにあきらめちゃだめです。ネバー・ギブ・アップで、それぞれの役割、自分のポジションを飯田はこうやっている、豊橋はこうやっている、浜松はこうやっているということをお互いが連携しながら、立ち位置、役割をお互いがしながら、三角形をうまく活用し、大きな発展をしていければと思う次第でございます。

ご清聴ありがとうございました。

#### ■ 三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長 浜松市長 鈴木康友

の今後の新連携に対します取り組みの報告でございます。以上、よろしくお願いを申し上げます。

皆様、お疲れさまでございました。

それでは、分科会に入る前に新連携につきまして私から若干のご報告をさせていただきます。

平成20年3月に策定をいたしました三遠南信地域連携ビジョンにおきまして、平成24年度にビジョンに基づきました連携事業を行うため、恒常的な新連携組織を設置するとしております。三遠南信地域連携ビジョン推進会議、SENAでございますが、平成22年11月に飯田市で開催いたしましたサミットにおきまして、三遠南信地域の融合に向けまして、広域連合など、平成24年度からの新連携組織への移行について準備を進めると、昨年宣言をしたところでございます。

そして、平成23年6月開催のSENAの委員会におきまして、新連携組織検討専門委員会というものの設置を決議いたしました。このSENAの委員会の後、私どもと副会長であります豊橋、浜松、飯田の3市長さん、商工会議所会頭で協議・調整をいたしまして、新連携組織の検討に係る基本的な方向について合意いたしました。

その合意内容でございますが、将来の広域連合設置に向けまして、新連携組織検討委員会で検討していくと。新たな組織は現在と同様に、地方公共団体と経済団体との官民連携組織としていくというものでございます。今後、専門委員会を中心にいたしまして、共同してどういう事務に取り組んでいくのか、またスケジュール等について検討していく、というものでございます。

以上が、特に昨年から今年にかけて

## 4 「道」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu

「道」分科会では、「中部圏の中核となる地域基盤の形成」をテーマに、「三遠南信自動車道の整備状況」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	浜松市	市長	鈴木 康友
報告者	浜松河川国道事務所	所長	盛谷 明弘
議 会	豊橋市議会	議長	近田 明久
	浜松市議会	議長	吉村 哲志
	飯田市議会	議長	上澤 義一
行 政	新城市	市長	穂積 亮次
	東栄町	町長	尾林 克時
	高森町	町長	熊谷 元尋
	下條村	村長	伊藤 喜平
経 済	渥美商工会	会長	渡会 一昭
	東栄町商工会	会長	井筒 睦治
	天竜商工会	会長	平賀 丈太郎
	磐田市商工会	会長	野寄 宏之
	御前崎市商工会	会長	阿形 好男
	飯田商工会議所	会頭	柴田 忠昭
	駒ヶ根商工会議所	会頭	山下 善廣
住 民	しずおか街道観光研究会	会長	田中 孝治
	祭り街道の会	事務局長	伊東 直幸

(敬称略)

### ■はじめに 事務局

それでは、ただいまから「道」分科会を開催いたします。

この会の運営は、コーディネーターを鈴木康友浜松市長にお願いして進めます。

### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

本日の予定でございますが、最初に「道」分科会における意見交換の資料である重点プロジェクト工程表につきまして、事務局から説明をいたします。

次に、国土交通省中部地方整備局浜松河

川国道事務所の盛谷明弘所長から、三遠南信自動車道の整備状況についてご報告をいただく予定になっております。

これらを踏まえまして、三遠南信地域連携ビジョンでは、23年度までの4か年を第1期と位置づけており、これまでの重点プロジェクトや推進体制について検証をいただき、また、第2期において、とりわけ優先的に推進する事業等について、ご意見をいただきたいと思います。

それでは、まず、事務局から重点プロジェクトと工程表につきまして、説明をお願いします。

## 事務局

まず、三遠南信地域連携ビジョンにつきましては、平成20年3月、19年度に策定されました。それからことしで4年目を迎えますが、この23年度が三遠南信地域連携ビジョンの評価見直しの年に当たります。

この分科会では、重点プロジェクトの工程表をもちまして皆様に意見交換していただき、評価・見直しを行っていただきます。

それでは、皆様のお手元にございます資料集の30ページ、「道」分科会の重点プロジェクトでございます。

まず1点目ですが、政策の基本方針を、中部圏の中核となる地域基盤の形成としておりまして、その1点目、三遠南信自動車道の整備促進と三遠伊勢連絡道路構想の実現。2点目、三河港、御前崎港、中部国際空港、富士山静岡空港の整備と、高速道路へのアクセス路の整備促進による国際ゲートウェイ機能の充実。3点目、リニア中央新幹線の早期実現と飯田駅設置。4点目、豊橋浜松環状道路を形成するネットワークの整備促進。続いて32ページですが、5点目としまして、県境を越えるマスコミの連携、以上5点が道分野における重点プロジェクトとなっております。

資料の33ページをご覧ください。

こちらは、第1期重点プロジェクト工程表としておりまして、昨年7月のSENA委員会で承認されたものから、進捗状況を踏まえて修正したものです。

## コーディネーター／浜松市 鈴木市長

それでは、三遠南信自動車道の整備状況につきまして、国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所長の盛谷明弘様より、ご報告をお願いいたします。

## ■報告

### 「三遠南信自動車道の整備状況」

#### 国土交通省中部地方整備局

#### 浜松河川国道事務所 盛谷明弘所長

ただいまご紹介いただきました浜松河川国道事務所の事務所長を務めております盛谷です。お集まりの皆様方におかれましては、日ごろより三遠南信自動車道の整備を始めとする国土交通行政の推進にご理解とご支援を賜っておりますことを、この場をおかりしましてお礼を申し上げます。

それでは、三遠南信自動車道の整備状況についてご紹介させていただきます。

お手元の資料集、19ページからをご覧くださいと存じますが、最初に、おわびです。お手元の印刷資料にないスライドをたくさん使ってご報告をさせていただくことになってしまいます。こちらのスライドの内容のほとんどは、先ほどの全体会議が行われました中ホールの前にパネルで展示をしてあります。まことに恐縮ですが、そちらもあわせて、ご移動の際にご覧いただきたいと思っております。

それでは、報告に移らせていただきます。

三遠南信自動車道の事業進捗状況です。

北から飯喬道路の1工区が開通しております。2工区は、用地買収、工事を進めているところであり、3工区は、測量、実施設計等を行っているところです。

それから青崩峠道路ですが、少し表現が舌足らずになってはいますが、青崩峠道路は、事業区間は全体で13kmですが、そのうちこの6kmの区間につきまして、環境影響評価の手続きが終わったところとご理解賜ればと思います。

それから、静岡県、愛知県側に移りまして、佐久間道路、三遠道路は、まず佐久間インターから東栄インターの区間、以降、インター名等は仮称ですが、用地買収、工事着手を行ったところです。その南の区間



の鳳来インターまでの7.1kmは、用地買収、工事の着手の段階に至っております。そして、一番終点側の仮称の鳳来インターから引佐北インターまでの間ですが、平成23年度、今年度の開通を予定しております、その目標達成に向けて鋭意工事を進めているところです。

また、これらの区間のうち、当面現道を活用して早期のネットワーク形成を図るとする区間が、それぞれこちらにお示ししているとおりに、20km余の区間があります。

23年度に開通を予定している区間につきまして、道路の整備効果についてご説明申し上げます。

現在、高速道路のインターまでに1時間以内で到達可能なエリアとしての、逆に言うと、到達できないエリアが白地で示されています。これが、23年度中に供用を予定しております区間が開通した際にどうなるか。ピンクに着色した区間が、そういうサービスを利用可能になる。さらに、三遠南信自動車道が全線開通いたしますと、そのサービスの享受が可能になる区域はこれだけ広がるということです。

このほかにどのような効果があるかですが、奥三河地域の高速道路へのアクセスが改善されることをお示したわけですが、

この奥三河区域は、製造業の集積や規模という点から見ますと、豊橋市等の臨海部とは、少し蓄積は劣っているわけですが、こういう区域の中でも、例えばセリサイトを掘削、精製して化粧品の素材として提供している、ほぼ国内においてはオンリーワンの企業ですが、そうした会社も立地しておられまして、そうした会社の出荷のお役に立てるのではと伺っているわけです。

それから、観光の面ですが、多彩な観光資源が既に存在しておりますが、観光客が減少している傾向にあるのではということもあったわけですが、豊根村におかれまし

ては芝桜まつりや、東栄町における東栄フェスティバルなどイベントに積極的に取り組んでいただいております。

そうした中で、例えばこちらの奥三河地域の観光入り込み客の推移につきまして、この下の図に示すとおり、ぐるっと遠回りしていたところを直結できる。あるいは、このルートを行って、また往復しなければいけないときに、周遊性、回遊性を持たせたルート設定も可能になる。そのような効果が期待できるものと思っております。

さらに、医療サービスを受けるという点での効果ですが、豊橋市民病院あるいは聖隷三方原病院といった第3次の救急医療施設に対するアクセスが飛躍的に向上する。今回の開通区間と、新東名の効果もカウントに入れていますが、この2つの効果が相まって、これらの3次救急医療施設へのアクセスが改善されることは、確実に期待してよろしいと思っております。

そして、これらの中山間地域と浜松市等の都市部との連携強化、そういったことにつきいろいろな声を聞きましたところ、実際にこちらにお住まいの方が、日ごろ足りないと思っているサービスを受けることが容易になるという点での効果も期待してよろしいかと思っております。

さらに、ここでは奥三河地域の花祭りというものを例にとらせていただいておりますが、大変伝統のある行事だと伺っておりますが、なかなか後継者が不足し、実際80年間で7つの集落で花祭りが行えなくなってしまっていることを伺っております。こうした現状を踏まえまして、東栄町さんでは、広域的な交流を通じて、花祭りを広く紹介するための東栄フェスティバルというものを開催しておられると伺っております。

東三河ふるさとガイドという方に今後のいろいろの声を伺いますと、都市におられる方でもこの花祭りに魅せられた方もい

らっしゃる。そうした方が、三遠道路の供用によりまして、一層花祭りへ来られる、また、参加をしていただける。そういった期待をしてよいのではという声も伺っているところです。

今回、23年度中の三遠道路の供用を目前としているという意味も含めまして、さまざまな声を伺ってきたわけです。繰り返しになり恐縮ですが、詳細につきましては中ホール、全体会の会場入り口のパネルでご確認いただけたらと思います。

ここからは現在の事業の進捗状況について簡単にご説明申し上げます。

繰り返しになりますが、飯橋道路の1工区、7.2kmにつきましては、平成20年4月13日に開通しております。飯田山本インターから天龍峡インターまでの間で既に盛んなご利用をいただいているものと承知しております。

それに隣接しております飯橋道路2工区ですが、工事の現況をお示ししております。

仮称ですが、中央インターチェンジの現況であり、さまざまな構造物の工事が進捗している様子が見ていただけるとと思います。

同様に第2工区の工事の状況であります。時間の関係で割愛させていただきます。

3工区ですが、約7.5kmの区間につきまして、測量、地質調査、設計を行っているところです。

次に、静岡、長野県境の青崩峠道路についてです。青崩峠道路は、この間約5km弱をトンネルで貫く計画としています。平成21年度には、長野県、静岡県の両県の条例に基づく環境影響評価の手続を完了させることができました。今年度は、測量、地質調査と並行しまして、トンネル工事に向けた設計を実施することを予定しております。このことにより、現在の152号の通行不能区間の解消が図られることとなります。

次からは、私ども浜松河川国道事務所が

担当しております佐久間三遠道路ですが、ここからは説明の順を変えさせていただき、新東名と接続するジャンクション部からご説明申し上げます。この図でいいますと、右から左に向けての説明になります。

この図は、新東名とのジャンクション部の説明です。それぞれジャンクションに接続する、これはFランプ橋の現在の状況です。同じく、ジャンクションと接続するGランプ橋です。見ていただいているとおり、上部工と申しますが、橋の桁は、10月、今月の段階でかかっている状況です。

さらに進みまして、こちらは仮称ですが引佐北インターチェンジの付近の写真です。こちらは飯田方面から三ヶ日方面を見ておりまして、この左右に走っておりますのが新東名の本線です。

先ほど見ていただきましたFランプ橋、Gランプ橋はこちらになります。飯田から参りまして、この料金所を通り、三ヶ日ジャンクションまで向かう場合は、ここを直進いたします。新東名に乗る場合は、こちらからランプ橋を経由することになります。

こちらは、飯田方面から引佐方面からの乗り口を見ている写真です。

さらに飯田方面に向かうところです。それぞれ工事がこのように進捗しております。舗装等が完了してラインが引いてあるところもあるという状況です。

さらに進みまして、ここも同様に工事が進捗している状況を見ていただければと思っております。

進みまして、5番、6番は、三遠トンネルの抗口をそれぞれ映しております。三遠トンネルは、今回供用する区間の中では一番長い区間でありまして、延長約4.5kmです。中央構造線をこのトンネルで横断しておりまして、工事に5年の期間を要してしまいました。中央構造線を横断していることから、技術的な面で申しますと、破砕帯から

水がわき出してきて、その処理の対策に時間を要してしまったところです。現在は構造としての工事は完了しております。

さらにその先に進みまして、ここから愛知県内に入っております。三遠トンネルなどのトンネルの掘削で発生しました残土を処理した大島の盛り土の状況や、それに続きます名号の高架橋の状況です。

さらに151号とタッチいたします、仮称の鳳来インターチェンジの状況です。

将来、本線はこのように行くわけですが、151号におりるのと151号から乗る橋については、ここまではでき上がっております、下って行かまして151号に接続する、そのような状況になっております。この先が、151号がここを左右に結んでおります。

ここまでの、今年度供用を予定しております区間の状況です。現在151号と257号を使った場合、30分程度かかる区間ですが、15分で通ることができるようになっております。

さらにその先の東栄インターの部分の現在の状況です。

こちらが151号で、151号から東栄インターのランプに向かうための橋梁の構造ができ上がっている様子を見てとっていただけるものと思っております。これからさらに工事を進めていく予定としております。

こちらは、さらに佐久間、三遠道路の始点側になりますが、一番北の部分、仮称ですが、佐久間インターチェンジの建設予定地でありまして、用地買収にご協力いただいた区間の建物の移転などが進んでいる様子が、こちらは佐久間インターをつくる予定地の現在の写真でありまして、まだ工事にかかっておりませんので、ちょっと姿は見えていただけないと思っております。

今回の台風12号、台風15号において、この地域におきましても多数の通行止め等が発生したわけです。三遠、佐久間道路を完

成させることで、この間の確実な交通の確保というものを果たせるようになるということも確信をしております。これに向けて、事業を一生懸命進めてまいりたいと思っておりますので、今後とも引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上で報告を終えさせていただきます。

## コーディネーター／浜松市 鈴木市長

第1期の重点プロジェクト工程表等は事務局から、三遠南信道路の進捗状況については、盛谷所長から説明がありました。

以上を踏まえ、皆様からご意見をいただき、特に1期の検証と、それから2期に向けてどういう事業を推進していくか、ご意見をいただければと思います。

## ■ 議論・意見交換



## 浜松市議会 吉村議長

浜松市議会議長の吉村と申します。実は奇しくも昨日、引佐インターチェンジから鳳来インターチェンジまでの13km、これが今年度内に開通するというところで、現場見学会があり出席させていただきました。会場には、地元の皆さん、近隣の皆さん方も大勢お見えになりましたので、そのような観点から、私から口火を切らせてもらい、発言させていただきます。

道路が開通することによって、生活自体がどう変わっていくのかを、その近隣の方々はもちろんなのですが、浜松だったら

浜松市民全体に浸透をさせていく。そして、例えば要望活動ですと、一部の方々だけがそれに取り組んでいるのではなくて、市民全体で盛り上げていくことが、非常に大事なことだと思えます。

一つの道路が開通することによってどんなメリットがあるのかをきちんと整理して、皆さんに提示する必要があるかなど、そんな思いを持ちました。

今日も基調講演で谷口先生から、この三遠南信自動車道が開通することによって、例えば、救急救命の面で画期的な効果があるとの話がありました。佐久間病院で救急搬送が必要になったとき、3次救急の聖隷三方原病院に搬送されると、今なら75分かかるところが45分程度で搬送可能となり、約30分間の短縮になります。これは救急救命にとっては画期的なことであり

ます。昨日も、住民の皆さん方と話をすることがあり、一つの例としてこの話をさせていただき、住民の方々は大変感心されていま

した。例えば、万一、震災になったときには、日本海側からの救援に対して非常に重要なルートになりえるとか、あるいは三遠南信の250万人の文化とか経済とか、そういう面の交流で多大なプラスがあるということです。そして、もう少し小さなことで見たときには、今お話ししたような救急救命の面とか、あるいは中山間地では時間が短縮されることによって、その場所に住むことができるというメリットが生じ、それぞれの中山間地のコミュニティもしっかり維持され、さらに限界集落もなくなるのではないかと思います。こうしたことをきちんと整理し、それを一つの要望の中に盛り込み、今後、地域住民全体の要望として、国や県に上げていく必要があるかなど感じています。昨日の現場見学会でそんなことを思い

ました。

## コーディネーター／浜松市 鈴木市長

沿線住民、市民にわかりやすいインフラ整備のメリットと、防災、救急とか、しっかりと認識していただいて、全体として盛り上げていくことが大事だというご意見だったと思います。

## 新城市 穂積市長

新城市の穂積です。

今の浜松の議長さんのご意見に全面的に賛同したいと思えます。と申しますのは、私どもも昨日引佐、鳳来間のインターチェンジの開通を前にした開通前イベントを行わせていただきました。

JRのさわやかウォーキングと連携して、一番の隣接であるJR飯田線の三河川合駅から国道151号を渡って、ランプ部分からトンネルを抜け、三遠道路の道路部分を歩いていただきました。そしてヘリポートになる予定の場所で、お隣の東栄の小学校の皆さん、あるいは飯田の合唱団の皆さん、そして我々新城の地元の市民とが、いろんな交流を行いました。演奏活動やあるいは地場の物産の販売であるとか、本当に楽しいイベントになりました。

この道路が23年度中というのですから、少なくとも来年3月までには供用開始になる。そして、その先には、新東名が開通すれば三ヶ日へつながり、また、新東名全体の本線と直結していくということになると思えます。その中で特に感じたことは、今、浜松の議長さんもおっしゃいましたが、住民同士の交流をもっと強めなくてはいけないということです。特に、今回三遠道路ができますと、三遠南信の全体の計画の中では、初めて県境を越える道路の供用開始になるわけです。今までの飯橋部分は、もちろん飯田の皆さんにとっては大変大きな革



命的な変化だと思いますが、同時に三遠道路ができますと、引佐、鳳来間という、お隣でありながら県の境があったがために心理的な距離が遠かった部分が一挙に縮まってくる。そういう意味では、今回の新東名の開通も含めて、三遠道路が供用開始になったことを受けて、住民同士のいろんな交流事業をもっと具体化したほうがいいのではないかと思いますし、また、観光事業者とタイアップして、観光コースの商品開発、これもぜひ取り組んでいきたいと思えます。

私どもは、今、新城と北設楽郡の4市町村で共同して、奥三河の観光開発に力を入れようとしています。豊根村の茶臼山の芝桜ですとか、東栄町さんの花祭り、そして私ども新城市のいろいろな観光資源がありますが、それと遠州地域、そして飯田の南信州の皆さんとのいろいろな連携がたくさん考えられますので、この分科会だけではない課題ですけれども、SENA全体で具体的に住民同士が、地元の人たちに喜んでもらうことを第一義にしながら、同時に外部の観光の誘客もコースを設定するような、そんな事業に取り組んでいけたらと思っています。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

大変重要なお指摘もいただいたと思います。インフラが整備されることによりまして、これまで違った地域あるいは自治体がさらに交流を進めることによって、いろんな相乗効果が生まれてくるだろうと。特に、今市長がおっしゃられたように、観光というのはこれから広域で取り組んでいかなければいけない事業でありまして、そうした取り組みを、三遠道路のように県境をまたいで供用開始できるインフラの整備に準じて、連携をさらに強化していくことで、ぜひこれは三遠南信地域全体の課題だと思

いますので、この取り組みをしていきたいと思えます。

#### **渥美商工会 渡会会長**

渥美半島の先端にあります旧渥美地域の商工会長の渡会です。

私はこういう会議に最近出ますと、大変本当に悲しい思いをするというのか寂しい思いをして、皆さんのお話を聞くわけです。

といいますのは、伊良湖岬から高速道路のインターチェンジに入るまでに、1時間半だとか2時間、そういう単位で時間がかかります。特に豊橋市周辺の道路の抜けるところが大変混雑するというのもありまして、観光客等からのクレームもあります。

先日は、フェリー問題等で皆様方にいろいろ協力をいただきましたが、鳥羽市長いわく、観光バスを渥美半島へ送りたいのだが、観光バスの運転手が、道路が狭くて危なくて走りたくない。そのような話、例えばウォーキング大会をやろうと思っても、国道に歩道がないところがたくさんあり、ここ3年ぐらい前までずっと続いていた100kmウォーク大会が、碧南から渥美半島の先端までありましたが、住民から危ないというクレームが出まして、渥美半島へ来なくなり、碧南から豊橋を往復というような形のウォーキング大会になっているところもあります。

また、これで新東名ができ、伊勢道とつながると、特にフェリーの問題がまた再発してくるのでは、そんな思いをしています。

フェリーといいますと、3連動地震に備えまして、一つ有力な防災の輸送機関になり得るものではと、そんな思いをしております。渥美半島は、道路状況が40年前とほとんど変わっていません。忘れずに半島を三遠南信の一番の海に続く道として考えていただきたいと、そんな思いしております。

### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

渥美半島も大変重要な三遠南信地域ですので、伊勢湾口道路になろうかと思いますが、もう少し道路がよくなるといいなと思うこともあります。

伊勢湾口道路、そして、それと結節をする浜松三ヶ日・豊橋道路等の整備に向けても、これは今度の2期目のまたプロジェクトとして、重点課題として取り組んでいく必要があるかなと思います。

### 渥美商工会 渡会会長

それと、緊急の問題として、伊勢湾口道路といいますと、本当に数十年単位の先の話であると思いますので、その前に、何とか信号を少なくした、準高速道路と言わなくても、ある程度スピードが出せる道路に改良していただきたい。その辺の要望もしていただきたいと思います。

### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

わかりました。

### 東栄町 尾林町長

東栄町長の尾林克時と申します。本年度4月に就任をしました。

去年は、商工会の会長をさせていただいており、この場で発言させていただきました。また、同じようなことを言って申しわけないと思いますが、資料集19ページの東栄町から鳳来町の間が非常に遅れています。上の佐久間から東栄町、これは用地買収、工事着手ということで、もう既に工事が始まっていますが、東栄町から鳳来町、この間がやっとボーリング調査が始まったところです。かなりおくらせていますし、いつごろ完成ですかと聞きましても、皆さん本当にわかりませんとご回答をいただいていますので、何とか東栄町、鳳来町間を早期に着工していただきたい、全線が整備されて

こそ道路の効果が100%上がることで、早期に着工をお願いしたいと、思っています。

今、スライドの中でも東栄町の話がよく出ていました。セリサイトは、日本でも第一の産地であり、世界にも50%ほど輸出をしている絹雲母ですが、これまた有名です。また、花祭りも今紹介されたわけですが、いろんな意味で、私どもはまだまだこれから伸びていく魅力のある町だなと、思っておりますが、残念ながら、今まで道路がなかったために、少し皆様方に不便をかけていたと思うわけで、私が町長に就任しまして、いろんな意味で整備して、皆様方にお越しいただきたいなど、思っております。

特に昨年度も商工会でスタンプラリーをやったのですが、浜松の方からは上の方に向かって来ていただけなのですが、長野県から下の方へ向かっての動きが去年は少なかったような感じがしました。これはなぜかなと思って、昔のように皆さん方が行き来するといいますか、今の経済状況から見ると、人の動きが少し悪いのかなと、こういう感がしています。今回のこの道路を契機に、先程から、話がありますようにますます交流を盛んにし、また私どもも魅力ある地域をつくり上げていきたいなど、思っておりますので、皆様方もご協力の程よろしくお願いいたします。

### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

東栄、鳳来間は、真ん中ですから、ここが抜けては一体的な活用ができません。

所長、状況等をご説明いただけますか。

### 国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所 盛谷所長

事業の状況は、先ほど申し上げたとおりであり、許された範囲で一生懸命やっておりますということしか現在申し上げられな

いことを、私自身も歯がゆく思っています。申し訳ございません。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

ということでありますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思えます。

#### **飯田市議会 上澤議長**

飯田市議会の上澤と申します。

私は、南信州広域連合の立場でお話をさせていたきたいと思えますが、きょう前段で私ども議員の協議会を開催しました。これは、三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路の建設促進議員協議会という組織であります。ことしの6月28日も国交省、民主党も含めて、それから地元選出議員などに要望活動をやってまいりました。

そこで感じたことは、私どもの運動そのものは、三遠南信道路の早期建設の促進と、それから、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期の事業化と財源確保を要望してきたわけですが、その中で、今までも既存の建設促進の期成同盟会がありまして、それに加えて、私ども議員の協議会という形での、同じ要望活動をしたわけですが、行ってみまして、かなりインパクトがあるなということを感じました。三遠南信地域の3県域で28市町村、そして議員数が446名、皆さんに加盟していただいて、要望活動を今進めているわけですが、特に大震災以後、日本海と太平洋側を結ぶバイパス機能を持った三遠南信自動車道はじめ、国も考え方が変わってきたのではないかと感じております。

それと、今までただ単に道だけではなくて、この3県域の広域連携をビジョンも作って推進しているわけですので、もっと強く訴えて、国にもっと認識してもらおう。そして、これからの日本を考えたときに、広域連携というのは必要であるという認識を持ってもらうための活動も必要ではない

かと思っておりますので、ぜひそういうことも推進していただきたい。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

議員の皆様が一致団結をしてご要望いただいたということで、大変インパクトがあったということです。

議長が言われるように、やはりこの道を何で整備しなくてはいけないかということは大変重要なポイントであろうと思えます。日本でも非常に珍しい県境を越えた広域連携、この骨格の道路であるという、その重要な位置づけであることをこれからもしっかり国に訴えていく必要があると思えます。

#### **天竜商工会 平賀会長**

天竜商工会の会長の平賀です。

今、浜岡原子力発電、やるのかどうかでいろいろ問題になっておるのは、皆さんご承知のとおりだと思いますが、私たちの地域には、長野県諏訪湖から流れてくる天竜川がありまして、そこに大きな佐久間ダムを設けております。これは、今、年間35万キロワット、日本一のダムです。これがもう年数が経つことによって非常に堆積が多くなってきていることで、以前に田中長野県知事が、長野県にはダムはつくらないということで、諏訪湖から泥でも何でも全部佐久間ダムへ来て、たまっております。

今非常にダム堆砂についてはいろいろ検討されているようですが、35万キロワットというこの数値は大きな数字です。浜岡がそのような状態ですから、これ以上発電容量を落とすということはできません。やはりダム堆砂を早く今のうちに処理しないと非常に影響が出てくる問題があるわけですし、このダム堆砂を、三遠南信道路を早く佐久間までつけていただいて、夜間にこのダム堆砂を搬出することで、渥美半島、それから、浜松の中田島の辺りへ持っていか、

いろいろ運搬方法はあるかと思いますが、私は三遠南信道路の利用をしていき、また、そういう電力の関係を考えてみても、ぜひとも一日も早くこの完成をさせていただきたいと思っています。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

少し違った観点から、道路整備の必要性についてお話いただきましたが、佐久間ダムは、皆さんご承知のように、水力発電の施設としては日本有数のダムです。建設してから随分たちますので、ダムに土砂が堆積しており、このまま放置しておくともダムの機能が失われていく、新規のダムの建設はなかなか難しい、既存のダムの機能を取り戻さなくてはということで、国でダムの再編事業を行っており、実は佐久間ダムが一つモデル、今その研究対象になっており、調査費等もついているわけです。

我々としては、早くこのダム再編をしていただき、佐久間ダムに砂がたまることによって、実は遠州灘の海岸の侵食が進んでいくという因果関係があるとも言われており、今、平賀会長が言われたのは、ダムの浚渫（しゅんせつ）をして、それを海岸の養浜に使ったらどうだと、いうお話です。そのためにも、土砂運搬のために、三遠南信道路のような基幹道路は必要だろうとのお話と思います。

いろんな意味で、道路は必要だと思いますので、そうした視点も盛り込んでいかなければと思います。

#### **飯田商工会議所 柴田会頭**

飯田の柴田です。

この話し合いが始まる最初に、浜松の吉村議長さんから、引佐、鳳来の開通だけでも相当のいい効果が出そうだと期待のお話がありまして、そこから始まったわけですが、実は7月26日に経済開発協議会

の役員会がありまして、本日の盛谷所長さんのご案内で、私どもは引佐から北に向けて現状を見せていただきました。

その後今月に入りまして、北の飯田山本インターから行けるところまで、県境ですが、どんな状況かきっちり確認したいということでご案内いただき、見て来ました。

もう供用の始まっている飯田山本、天龍峡間とか、あるいは喬木、程野。新しく開いたトンネルを、全部見て来ました。また、工事中の現場も見ました。それから、最後の最後、青崩峠のトンネル前まで。用地買収の予算はついていとお聞きしていますが、それからさらに先の青崩峠そのものが通るのであろう場所も見て来ました。

私が申し上げたいのは、道路というのは、最初から最後までがつながないと十分な効果が発揮できないと。部分的なところでもかなり効果が出てきて、その効果が仮に3だとすれば、最後の3でも全通すれば30になるというぐらいの大きな効果が出るのではと思いますが、その中に青崩峠の現場を見まして、これはとんでもないところへトンネルを開けなくてはならないな、相当の時間もかかる、費用もかかる。従って、トンネルを開けるためのくわ入れがいつできるか、最終的にいつごろ全通するだろうか大きな目標になるのではと思います。

ぜひ、リニアは開いたけれども三遠南信道路は開かなかったことに万一にもならないように、やはりリニアと三遠南信道路のコラボレーションもあって本当の効果が発揮されると思いますので、少なくともこれから7年、8年の間には、しっかり三遠南信道路は開いて、そしてリニアを迎えるというような態勢になるように、私どもも運動をしていかななくてはと思っておりますので、皆さん、ご協力をお願いいたします。



## コーディネーター／浜松市 鈴木市長

長野県側をつぶさに調査していただいたということですが、確かに、道路は最初から最後まできちっと整備されないと、効果は半減どころか効果がなくなってしまうので、しっかり整備が進むように我々も力を注いでいかなくてはいけないわけですが、これからが実際は勝負です。

整備がしやすいところから整備をいただいているわけですが、今、最大の難工事となる青崩峠道路、それからまた、長野県側あるいは静岡県側もありますが、現道活用区間となって、これまた非常に狭隘な道路、こうした整備をしっかりとやらないと、三遠南信道路の一体的な活用をしていけませんので、みんなで取り組んでいかなくてはならないと思います。

## 下條村 伊藤村長

長野県下條村、伊藤です。

私どもの村は、飯田市から豊橋まで国道151号というのが出ております。その南隣でございまして、人口は4,200人ぐらいの小さな村です。

私どもは、南信州広域連合というのを、飯田市さんを中心として、1市13町村で組んでおります。面積は四国の香川県並みですが、林野率が86%。山、川、谷が非常に多いわけで、その中に1市13町村が点在しており、道の重要さは本当に命の次です。

公共交通機関といっても、飯田線がずっと下のほうを通っていますが、これも1時間に1本ぐらい。「乗って残そう飯田線」と、今一生懸命乗ろうとしています。1時間に1本ではどうもまずい。JR東海も、乗らないものにはそんなに列車を走らせないぞという悪循環の中にいるわけですが、先ほど道の持つ医療というようなお話もありました。私どもは、医療も含めて教育からすべて道に頼っているわけですが、道のあ

りがたさというのを改めて感じたわけ。サミットに3時間10分かかりました。私どもは選定を誤ったわけで、151号というのは非常に改良されて安全で通れるものだという意識の中でいしましたが、太和金トンネルという、395mのトンネル、それが、今通行止めで、迂回路を通ってくればよかったのですが、過敏な反応をしまして、というよりどじな反応をしまして、3時間10分かかったわけです。

そのときに感じたことは、道路というのがいつ通っても安全で安心して通れるものだという概念が私たちの中にあることは、まずいことかなということ。その中には、感謝の気持ちもあり、それから愛護の気持ちもあり、常にそうしたものを我々が持ち続ける中で、ない物ねだりでなくて、きっちり私たちのお願いもしていかなければならない、原点に返ったような気がしたわけで、そういう面ではよかったなと思っています。

先ほど20年4月13日というお話がありましたが、私どもの中央道の飯田山本インターから7.2km、天龍峡インターまで供用が開始になりました。たった7.2kmということですが、私どもの小さな村でも非常に大きな変化があったということで、私どもの地域おこしの拠点である道の駅も、ずっと低空飛行を十何年続けており、若干の赤字も出ていましたが、二、三年のうちに大分基金もたまるようになり、村民の皆さんも生き生きとして地産地消に励んでいるわけです。阿南町さんにまで効果が出ていることはありがたいことと思っております。

今リニアの問題も出たわけですが、リニアは長野県を、皆様のご協力によりまして、中央・南アルプスの真ん中を、トンネルを掘って、南信州を、飯田市をかすめて通るようになりました。ところが、今五十数km通る予定ですが、明かりの部分、これが河川の橋梁を除いては約2.2kmだけだそうで

す。あとはみんなモグラで潜っていつてしまうわけですが、その2.2kmの中で、これは何としても波及効果を上げなければならぬと、いかにアクセスをうまくやるか、それで平面として活用しなければいけなく、これもまた道そのものの重要性というのはいやが上にも増してくるわけです。

私どもの地域は、今東京に行くのに4時間かかります。今度それが開くと40分で通るようになる。人口250万圏域の皆さんに大いに使っていただかなければとなると、それは図らずも道であるということで、期待をかけております。今、渥美の会長さんの横に座らせていただきましたが、長野県、海なし村であり、海の家を運営させていただいて、毎年毎年赤字が出ておりました。それはすべて道路状況が悪いということで、最後の最後に大赤字をしまして、清算させていただきました。ご迷惑をかけたことをおわび申し上げ、終わらせていただきます。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

いろんな実感から、道の必要性というものの訴えをいただいたわけですが、飯橋道路の一部が供用開始されただけでも、既にいい効果が出ているということで、さらに促進していかなくてはと思った次第です。

#### **しずおか街道観光研究会 田中会長**

2005年にこのサミットに住民セクターということで入れさせていただき、ちょうど6年が過ぎました。午前中に住民の関係のセッションがありましたが、6年たちまして、具体的な形の見えるところまで行こうというところまで、やっと話が来たという状況です。

連携ビジョンの見直しをという話、評価の話がありました。私も連携ビジョンに少しかかわらせていただいたのですが、作っていた当時と大分状況が変わっているとい

う認識が要るのではと思っています。皆さんのお話にありましたように、3・11以来、道に対する考え方が、これは日本全体がそうですが、随分変わってきているという感じがします。

住民の生活を考えますと、少し言葉がなじまなくて悪いのですが、道路というのが、鉄道を狭義の道路に含めて道路というのと、震災で感じましたのは、熱路という言い方もかもしれませんが、エネルギーの道というのがもう一つ。それから、情報の道という意味では、情路という言い方ができるのかもかもしれませんが、道路と熱路と情路というのが、ネットワークを考えると、この3つが非常にセットになっているというのを、今度の震災の中で非常に感じて、道があってもガソリンがなくて走れないという状況もありましたので、この3つをネットワークとして捉えていくというのも、3・11以後の新しい視点じゃないかなと思います。

もう一点は、リニアの問題も今ありましたし、新東名も、来年の早ければ5月とか6月とか言っていますが完成する。それから、今は三遠南信道、それから静岡のほうでは中部横断道というのがありますが、これは静岡にとってみると、今の海岸線よりかなり北側に通っているのです。ビジョン作成の時と少し違うのですが、我々はどうしても海岸線側なので、北へ地勢的な目が向くという状況が今、非常にしています。

それは、一つには津波のこともあって、海岸線から少し山間地という、高台に志向が向いているということも加わって、リニア、新東名、中部横断道、三遠南信道、それから防災ということがあり、みんなの考える目の向け方というのが非常に北に向いているというのが3・11以後あったのではないかなと考えると、やっぱりビジョンで、道路という、三遠南信道を考える時に、もう一回その変化を読み込んでやらないと、

今までどおりの理屈だけではいけないのではないかと。

それから、もう一つ、地域の道路であることは間違いないのですが、全国がいろいろな理由をつけて自分たちの地域の道の重要性というのを訴えている中では、単にローカルな道という位置づけだけではなくて、やっぱり国家的に重要な道なのだという訴え方もしていかないと、国の考えるプライオリティーの中には入っていかない。これも、新東名を含めて、防災面というのですか、日本の国家安全というぐらいの捉え方で、海岸側の道路と縦軸の、先ほど串という話がありましたが、その道路の国家としての重要性ということまで訴えていかないと、なかなか現実お金のない状況の中では進んでいかないのかなと思います。

ビジョンの中の三遠南信の捉え方の問題の中で、少し新しい視点として織り込んで運動していくことをまずお考えいただければありがたいと思います。

最後に、先ほど基調講演のお話にありましたが、私たちは、道の駅と風景街道をやっております。風景街道も、静岡県は今5ルートあります。長野もたくさんあります。たしか渥美半島もおやりになっていて、道と地域の関係を具体的に考える施策としては、風景街道というのは一つの非常にいい施策だと思います。

それから、道の駅の連絡会というのがあり、その事務局も、実は今年からNPO等に連絡会の事務局が移りました。私どもも、今静岡県の22の道の駅の連絡会の事務局をさせていただいていることがあって、風景街道と道の駅をセットにした、新しい道の駅の概念も入れて、ぜひ三遠南信圏の地域施策の一つとして、道の駅と風景街道をしっかり位置づけていただき、それで3県のそれぞれの道の駅と風景街道の連携を図りながら、そこにうまく住民が関わり、物

が関わることをさせていただければと。

そのような事で、もし評価があるのでしたら、ぜひその辺の視点を入れていただければ大変ありがたいと思います。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

3つのご指摘がございました。

3・11以降、随分と状況変化がありました。道路とインフラだけではなく、エネルギーの道あるいは情報の道、こうした視点も加えて考えなきゃいけないだろうと。

それから、津波の被害から、北に向けて目が行っているということで、そうしたことも視点として盛り込む必要があるということですし、また、地域のローカルの要望だけではなくて、ミッシングリンクと言われるかもしれませんが、国家的な道路の整備の中で、ここが国として非常に重要なポイントなのだと。特に、南北の連絡というのが日本は大変弱いわけでありまして、そうした意味でも、国家的な視点も必要だと。

それから、風景街道と道の駅ということで、そのことも位置づけていただきたいと。

3つのご指摘がございました。それぞれ重要なご指摘だと思います。

#### **豊橋市議会 近田議長**

豊橋市の近田でございます。

ただいま田中さんのほうから、防災について道路の役割という、本当にいいご意見をいただきましたとっております。

この三遠南信サミットが始まったその当初の目的、まず、人の交流とかいう形の中で進んできたと思っております。道ができれば、当然、人、物、いろんなものが動いてくるし、いろんな交流が出てくるだろう。そうした中で、やっぱり住民の皆さん方がいい生活なり、出かけることができる。

ただ、道路ができることは、日本が抱えている災害に対してどれだけの効果がある

かを考えていかななくてはならん。そんな思いがしております。

例えば、先ほど渥美半島の方も言われたとおり、従来から伊勢湾口道路というものはあったわけで、私たちが提唱させていただいた浜松三ヶ日・豊橋道路、これも産業的あるいはいろんな面で、人との交流あるいは防災、そういう面でも全部絡んでくるわけであり、将来的に三遠南信地域がこれを基軸としてどうやって発展していくか。そういうビジョンがあつてのこういう計画だったろうと、そう思っています。

したがって、先ほども言われたとおり、防災も含めた考え方も考えていかななくてはいいけない。そしてまた、ただこの地域の中で生きていくだけの道ではなくて、やはりこれを産業に生かすには、どういう形で何がどこにあるかというものを把握しながらの道路というものが必要じゃないかなと、そんな思いがしております。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

当初のこの道路について我々が取り組み始めたとき以上に、今、防災とか、あるいは、産業にどう生かしていけるのか、そうした視点を強く盛り込んでいく必要があるというご指摘だったと思います。

#### **東栄町商工会 井筒会長**

東栄町商工会会長の井筒睦治と申します。

先ほどは、道を通じていろいろな人のご意見を聞いていたわけですが、私ども商工会の立場として、東栄町に住んでいる私どもが共通するような環境の町は幾つかあると思うのですが、その中で道路が整備されて都会に出やすくなることで、特に私どもがこれから自助努力をしていかなければならない一つの問題として、例えば商業については、どうしても都会の大きなところに、道を使い、車を使ってどんどんお客が流出

してしまうと。そういうことによって、私どもの地域には、商店とかが成り立たない状況が生まれてくるといふ、住んでいる者の立場で言うと、若干デメリットの部分も大きくなるしかかってくるわけです。

その点について、道がよくなってくることは、総体的に見ればメリットは大きいので、これは何としても私どもは、あの地域に住んでいる、またそして、未来に若者にも住んでもらえる地域づくりをしっかりとしていかななくてはという立場で考えたときに、今日は三遠南信の周辺の市町村の首長さんたちも大勢お見えになるので、ぜひお願いをしておきたいと、今感じたわけで、マイクを持たせていただきました。

私どもは、努力はするのですが、何せ持っているパイが小さいということで、どうしても都会の方のご理解とご協力がないと、同じ三遠南信に住んでいる者の中で、どんどん限界集落的な形で消滅していってしまうという状況が何か目に見えるような気もするわけです。

ですから、浜松でいえば北部、愛知県でいえばやはり北部のところと連携し合って、特にこれから高齢化とかを考えたときに、何とかあそこの集落、町で十分な生活が成り立つよという環境を考えていただきたい。都会の方で見れば、道路がよくなれば、ほうっておいても発展につながることは大きいと思うのですが、私どもは、ほうっておくとどんどん疲弊していってしまうという状況になると思うのです。ぜひ、この三遠南信サミットの中で、そういう地域をどう生かすかと。

そして、天竜水系、それから豊川水系、この源は私どもの町に流れてくるわけです。そういう地域を荒廃させてしまうことが、将来に考えて、都会に住んでいる方も、本当にそれでいいのかという部分をしっかりと理解していただくと。地域に持っている役



割は役割としてちゃんと果たしてもらおうかわりに、我々が若干協力をしていかないと成り立たないぞという部分も考えていただけたらありがたい。そんなことを思って参加させてもらっております。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

私は、大変重要なお指摘だったと思います。道路の議論をすると、とかくメリットの議論が先行するわけですが、やはり中山間地の皆様からすると、アクセスがよくなると、どんどん都会へ出ていってしまうのではないかと。あるいは、地域の過疎化が進行するのではないかと等々、そういった問題がまた逆に出てくることで、これは冒頭に穂積市長が言われたように、やっぱり住民交流を盛んにし、例えば観光で連携していくとか、そこが私は三遠南信地域のよさだと思えます。一方で道路整備等の促進をみんなで頑張ると同時に、それぞれの地域の連携をどう果たしていくか、そうした問題が起こらないようにしていくかが、私はとても大事なポイントじゃないかなと思えました。

#### **祭り街道の会 伊東事務局長**

祭り街道の会の伊東と申します。

三遠南信自動車道ができるという話があってから、久しい時間がたっているわけですが、私たちも、この高規格の道路にすごく関心を持って、興味を持って、期待しているところです。

高規格の道ができることは、便利がよくなって出ていく人たちが多くなる。出かけるには都合がよくなるということが大きな問題ですけれども、その反面、地域へ人を取り込むことが非常に難しいということで、どうしたらということで、私たちは祭り街道という会をつくり上げたわけです。

私たちのいるところは国道151号沿線上

の県境の近くですが、県境を挟んで、この付近全体が祭りがすごく盛んで、祭り文化圏と言われ、国の重要無形民俗文化財があるところですので、それにちなんで祭り街道という名前をつけさせてもらいました。

活動している中で、少しずつ認められて、国土交通省から祭り街道という名前をつけてもいいよという許可をいただいて、現在に至っているわけですが、道路の中には、高規格で都市と都市を結ぶ道路も非常に重要ですがけれども、地方の町や村や人の心をつなぐ道路というのが、また重要な部分があるのではないかなと思っております。

先ほども風景街道の話が出ましたが、私たちは、祭り街道を通して、いかに人をここへ取り込むかということも多くの方に問いかけて、祭り文化を中心に活動していこうと考えております。

お陰様で少しずつ知名度が上がってきて、皆さんに理解していただいているところですが、先ほど高規格の道路が、鳳来まで来年度は開通するということでしたので、東栄町のインター、鳳来のインターから国道151号祭り街道を介して、ぜひ皆さんに入り込んでいただけることをお力添えいただきたいと思っております。先ほど下條の村長さんからもお話がありましたが、古戸のトンネルが現在通行止めということで非常に不便をきたしております。道は通れるのが当たり前というなお話もありましたが、ぜひその街道も併せて、そういった地方の街道も整備をしていただきたいと思います。お願いします。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

大きな高規格道路以外に、人をつなぐあるいは心をつなぐ道路が大事だというお話でございまして、祭り街道ということで、そうした取り組みをしているというご紹介をいただきました。

### 中東遠地区商工会連絡協議会 野寄会長

私は、中東遠協議会の会長、野寄です。

先ほど中山間地の産業、それから商業地域の存廃というようなお話があるのですが、我々中東遠地区もリーマン・ショック以降、それから、3・11の東日本震災以降、隣に御前崎の商工会長もおられるのですが、原発の問題。それから、一番大きいことは津波ですね。津波を恐れて、某大手の会社は浜松の都田地区の方へ移動するというような英断をされたわけですが、そういったことが影響しておるのでしょうか。静岡県で我々中東遠地区、それから志太・榛原地区、それから富士・富士宮地区が、雇用対策地域になっております。それだけ産業が空洞化していることだろうと思います。

そういった意味で、先ほど平賀会長が言われましたが、ぜひ佐久間ダムから土砂を持ってきていただいて、遠州灘のところに、高台というのか、かさ上げをしまして、防災対策をしていただけないかなとかすかな願いも持っています。

それから、道ということで考えますと、我々中東遠地区は、東西文化、経済と非常に密接な関係があつて、なかなか南北という意味では、天竜川の東とはいえ、今まで希薄な部分があつたのですが、今回の3・11以降、産業構造の偏在化ということを考えますと、ぜひ南北をこれからより強力に交流することによって、産業の多様性を求めたいと思います。我々の地域は県の雇用対策を打たなければならないところではなかったのですが、そういう状況になっているということを思いますと、経済の多様化を含めながら、雇用の創出ということも、この道に課せられた産業の発展ということも含め、当然そこには雇用の発生もあるわけで、ぜひそのところをお願いしたいと思います。道路、先ほど言いました新東名、

それからリニア等も含めながら、南北の交流をより努めていくために、ぜひ予算化を早期にやっていただければありがたいと思っております。

### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

中東遠地区からの問題提起でございました。この地域はもともと輸送機器を中心に、産業が大変発展していったわけですが、リーマン・ショック以降の景気の問題、そして3・11以降の津波の問題等で、企業がリスク分散、あるいはこの経済危機からの脱却ということで、海外あるいは北のほうへ生産拠点を移転するというような問題が生じております。

私どももそうですが、特定の産業に余りに偏っていきますと、何か危機があつたときに大変に大きな問題が生じるということで、今、野寄さんからお話がありましたように、産業の多様化ということにも努めていかななくてはいけない。そのためにも、今までの東西交流から南北交流、こうしたことにも力を入れていかななくてはいけないということであつたと思います。

我々も同じような悩みを持っておりまして、ぜひまたこの連携の中でも、そうした課題も共有していただければと思います。

### 浜松市議会 吉村議長

1つは、三遠南信自動車道の中に現道活用部分という区間があり、佐久間から水窪までが約30km、飯田市さん側の程野から喬木までが約20kmあります。このうち飯田市さん側の7割はすでに現道整備ができていとお聞きしています。ところが浜松市側の佐久間から水窪までは、実際にはまだ5割しかできていないということで、結局、先ほどから皆さんから出ていますように、一部が整備されても、整備されていないところがあつたら、結果的にそんなに効果が

上がっていかないということになります。

これを、3分の2を国が助成してくれるような直轄事業にさせていただくことを、我々は強く申し入れていく必要があると感じました。6月に三遠南信の議員協議会で国へ要望活動をしたときにも、国の直轄事業にさせていただくようぜひお願いしますと、お話をさせていただきました。

2つ目は、将来、リニア新幹線が開通し、飯田に駅ができるということは、めでたいことだと思います。その結果として、東海道新幹線ののぞみの本数が少なくなるのではないかというような話がよく聞かれます。そうすると、結果的にひかりの本数が多くなると考えられますので、浜松や豊橋に停車する本数も多くなり、これにより人の交流や物の交流も非常に盛んになり、産業の進展も期待できるようになると思います。このようなことについても、三遠南信の要望活動として展開していただきたいと思います。

#### **コーディネーター／浜松市 鈴木市長**

現道部分の整備というのは、実は本当に悩ましい部分でありまして、これは、今長野県側は県が事業主体となってやっていたわけですが、静岡県側は、現道活用を決めたときは、県と国の間で決めたわけですが、今政令市になり、浜松がその事業を引き継いでいるということです。

大きく分けますと、この中で473号と152号と2つの国道があるのですが、473号につきましては、これは大変に今の現道を活用するという状況ではないので、ぜひこれは国の直轄で、できればトンネルで通すのが一番いいと私は思うのですが、概ね今そういうコンセンサスができているわけですが、152号のほうは、我々がとにかく一生懸命整備を今後していきますけれども、国にすべてをゆだねるのではなくて、現道活用の中

の一部大変難工事が想定される部分は、国直轄でやっていただきたいと。今、実はこういうことを国に要請をしているところでありまして、飯田から浜松まで全線供用をしっかりとできるようにするためには、やっぱりこの現道部分の整備というのは大変重要になってきますので、これは我々が一義的には頑張っていきますが、ぜひまたご支援をいただければと思います。

また、リニア効果と申しますか、リニアが供用されると、恐らく実は私どもも大変に恩恵を受けると。東海道新幹線のダイヤが非常に今度大きく変化すると思いますので、リニア供用開始までまだ随分先ですので、それがなるころにはしっかりと、豊橋市さんや浜松と掛川さんもあります。そうしたところに新幹線の停車本数がふえるように、今通過交通がほとんどで、我々もののぞみのために線路を貸しているようなものですので、少し我々にもメリットがあるようにしていきたいと思います。そのようなご指摘でございました。

#### **高森町 熊谷町長**

高森町の熊谷です。

具体的にお話しさせていただくと、高森町は、今日、御前崎市の商工会長さんがお見えですけれども、御前崎市と友好都市の提携を結んでいます。市民レベルの交流も進んでいます。この11月にも、御前崎市の産業祭へお邪魔して、ブースを設けていただいて、リンゴですとか五平餅ですとか、そういったものを販売させていただく機会をいただいています。しかし、時間がかかるものですから、10時の開会式といいますが、高森のほうを暗いうちに出ないと間に合いません。そして、帰ってくるのも夜遅くとなりますので、三遠南信自動車道が開通すれば、もっと交流を進めやすくなる気がします。

それと、9月に災害応援協定を結んだのですが、やはり早く応援に行けたり、あるいはまた、高森のほうで災害があれば、早く応援に来ていただいたり、本当に役に立つのではないかと思います。

それと、高森の小学校5年生は、社会見学で南知多のほうへ行き、潮干狩りや地引き網の体験、そして、トヨタ自動車を見学し、1泊して帰ってくるということをしています。しかし私は、友好都市ですので、御前崎市さんへお邪魔し、静岡へ行ったらどうかということで教育委員会に言ったのですが、4時間かかるからスケジュールを組むのが大変難しいということで没になりました。

三遠南信自動車道が開けば、南知多へ行くのと同じような日程でホンダあるいはスズキを見学し、御前崎市で地引き網の体験をしたりというような、同じような組み合わせができるのではないかと、そんなことも思っています。これから三遠南信自動車道が開いたときにどのように使っていくのか。今のうちから考えていけばいいかなと思っています。

#### コーディネーター／浜松市 鈴木市長

既に御前崎市との交流が行われている中で、三遠南信自動車道ができたら、これを活用していくことを、今から考えておく必要があるというご指摘でございました。

この「道」分科会は、皆さんから活発なご意見が出る分科会でありまして、大変重要なご指摘を幾つかいただきました。

これからこの三遠南信自動車道でありますとか、浜松三ヶ日・豊橋道路でありますとか、あるいは渥美半島の道路でありますとか、この道路整備については、なぜその道路が必要かと。当たり前のことですが、その位置づけをしっかりとしていくと。

また、単に地域の要望だけではなくて国

全体の、今ミッシングリンクと言われますが、道路整備の中で、国として重要な道路であるという、そうした位置づけも必要であろうということ。

それからまた、道路が整備をされていくと、いろいろ地域に課題が出てくると。この三遠南信地域連携の中で、住民交流でありますとか、あるいは連携事業を盛んにしていって、地域の過疎等が生じないようにみんなで努力をしていこうというご指摘であるとか、また、3・11以降、随分と状況が変化してきて、道路に対する意識も大きく変わってまいったと。特に防災面等々、そうしたところをしっかりと押さえて、今後の道路整備にかかっていく必要があるといった点。皆様からいろいろ重要なご指摘をいただきました。こうしたご指摘をもとに、第2期に向けての取り組みに反映させていきたいと思っておりますので、引き続きのまた皆様のご理解とご支援、心からお願い申し上げます。どうもありがとうございました。





## 5 「技」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu

「技」分科会では、「持続発展的な産業集積の形成」をテーマに、「三遠南信発！産業イノベーション」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	株式会社サイエンス・クリエイト	代表取締役専務	中野 和久
報告者	浜松市産業部	部長	安形 秀幸
行政	豊川市	市長	山脇 実
	喬木村	村長	大平 利次
経済	豊橋商工会議所	会頭	吉川 一弘
	田原市商工会	会長	山田 俊郎
	新城市商工会	会長	本多 克弘
	浜松商工会議所	会頭	御室 健一郎
	磐田商工会議所	会頭	伊藤 卓治
	浅羽町商工会	会長	大石 重樹
住民	東三河市民連携委員会	委員長	原田 敏之

(敬称略)

### ■はじめに

ただいまから、「技」の分科会を開会いたします。この分科会の運営につきましては、コーディネーターを中野和久、株式会社サイエンス・クリエイト代表取締役専務をお願いして進めてまいりたいと思います。

### コーディネーター

株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏



本日の予定ですが、最初に「技」の政策

に関する重点プロジェクトをおさらいしまして、次に、浜松市産業部の安形部長から「三遠南信発！産業イノベーション」についてご報告いただきます。続きまして、三遠南信地域連携ビジョンでは、23年度までの4カ年間で第1期と位置づけておりまして、これまでの重点プロジェクトや推進体制について検証していただきます。また、第2期において、優先的に推進する事業等についてご意見をいただきたいと思ひます。

それでは、最初に「技」の政策における重点プロジェクトのおさらいをしたいと思います。

1点目は、三遠南信ビジネスのマッチングの推進です。これは商工会議所、商工会や金融機関の協力によりまして、三遠南信地域での企業間の交流を深めて新規ビジネスの創出を支援する取り組みです。

2点目は、国内外に向けた人材、企業誘致活動の促進です。これは、三遠南信の知

名度を高めるための地域プロモーションのため、一体的な人材、企業の誘致を進める考え方です。

3点目は、特色ある産業クラスター拠点づくりと、県境を越えた事業連携です。農商工連携を中心に、三遠南信の特徴的な産業クラスターを進める考え方です。

最後に4点目ですが、三遠南信地域の大学フォーラムの設置です。三遠南信地域には16の大学と各種研究機関があります。これらの交流連携の機会を創設しまして、将来には県境を越えた大学等の連携へと誘導する考え方です。

それでは、「三遠南信発！産業イノベーション」について、浜松市産業部長の安形秀幸様よりご報告いただきます。

## ■ 報告

### 「三遠南信発！産業イノベーション」 浜松市 安形産業部長

皆様、こんにちは。ようこそ、浜松へお越しいただきましてありがとうございます。

私は浜松市役所産業部長の安形と申します。事例報告ということでご報告をさせていただきます。

最初に、今日のご報告の一番のポイントとしては、今、中野さんからお話がございましたけれども、重点プロジェクト4項目の中の3番目、特徴ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携、ここを中心に事例報告させていただきます。

その前に、実は三遠南信地域連携ビジョンの目的の一つとして、こういうプロジェクトをどういう目的でやるのかということです。ここには書いてありませんが、冊子には記載がございますけれども、昨今の経済活動のグローバル化に対応して、やはり今後は県境を越えた産業競争力の強化を図っていくことが必要であるということで、この4つのプロジェクトを推進するという

ことです。

始めに「三遠南信発！産業イノベーション」という題が記載してございますけれども、この三遠南信地域には、これだけたくさんの方の企業や大学があるということです。三遠南信地域には様々なすばらしい企業がたくさんありますけれども、この地域全体で見えますと、少し資料が古いのですが、例えば工業製品の出荷高は約13兆円です。この13兆円という金額は、全国の都道府県の中の規模からいきますと、当時全国6位の兵庫県よりもこの三遠南信地域の合計額が大きい。これは五、六年前の話であり、最近は少し状況が変わっておりますが、このような規模があるということです。

農業につきましても約3,000億円を超える算出高ということで、これも都道府県と比較をいたしますと、熊本県が全国7位ですけれども、それよりも規模が大きいということで、五、六年前には実質的に第6位の規模となり、県に匹敵するような大きな経済規模を持っている地域だということです。昨今の厳しい経済環境下の中、新たな新技術とか新製品を生み出していく必要があるということで、大変厳しい状況であります。やはり過去にこれだけの企業を生み出した起業家の方もいらっしゃいますし、実績も上げている地域でございますので、今後さらに地域の競争力を高めていくポテンシャルは十分あるということがここからわかると思います。

次に、過去からの産業発展の系譜ですけれども、綿織物や製材、ここから現在の新農業、健康医療、航空宇宙、輸送用機械、精密機械、光産業、エレクトロニクス、楽器等々というような形でこの間推移をしています。資料集には遠州地域、東三河地域、南信州地域でどういうものが開発されたか、写真でご紹介しております。

この中には、ピアノはもちろんですけれ

ども木工機械とか民間旅客機、あるいは写真のフィルム、それから胃カメラ等々、現在我々の社会生活の中で使われている色々な製品で初めてこの地域で開発されたものも多々ございます。こうした先人の皆さんの時代を先取りした成長産業分野が、今までこの地域を発展につなげてきたということです。

しかしながら、先ほど申し上げましたように、こうした産業分野というのも非常に成熟化をしてきているということで、グローバル競争の中でこれからやはり新産業といいますか新成長産業といいますか、そういう創出が喫緊の課題であります。私どもは新たな新産業分野の基幹産業化を目指して、現在、行政、産業支援機関、大学、金融機関等、企業のサポートを行っているところです。

これは、今進めております三遠南信地域連携ビジョンの4つの重点プロジェクトのほかにも、三遠南信地域基本計画、産業クラスター、地域産学官共同研究拠点、知的クラスター、産学官連携拠点、それから地域イノベーション戦略推進地域といったこれだけの国の支援を受けているプロジェクトが今この地域で動いているということです。全ての詳細を説明する時間はありませんが、後ほどこの中の幾つかをご説明させていただきます。

国もこうした多くのプロジェクト事業を実施しているわけです。特に経済産業省と文部科学省が中心になりますが、以前はやはり国も各地域の産業振興ということで平均的な産業施策をずっと行ってきましたが、財政難ということで大分前から選択と集中ということで、各地域の平均的な支援ではなくて、地域ごとに意欲的で、なおかつ小さな地域だけではなくて広域的な地域をまとめた新たな産学官連携事業に対して国は優先的に支援をしますということに変わっ

てまいりました。それは、全く何もないところから新しいものをつくるのではなくて、既にある色々な基盤をもとにした強い産学官の連携体制、それから特色のある地域性を重視して国も採択をするということです。

地域としても、地域ごとにそれぞれ予算をつけて産業支援をしているわけですが、なかなか昨今厳しい状況ですので、地域の中でもやはり国のプロジェクトに積極的に参加して、地域の産業振興につなげていこうという動きがあります。

そういうことで、国と地域が政策的に一致するところがありまして、この三遠南信地域はこれに積極的に参加していこうということで、これだけのプロジェクト事業を今、推進をしているということです。まさに三遠南信地域連携ビジョンと国の政策の考え方が一致しているところだと我々は考えます。

それから次は、これは新産業の育成とかあるいは集積、そういう企業を集めていくことにつきましては、やはり今までどおりのやり方では難しいということで、今回国に出している色々なプロジェクト事業の中でそういう新産業が生まれて育って集まる、持続的なイノベーションといいますか、そういうプログラムを産学官の連携のもと、つくっていこうということがこの図です。一番上にクラスタープロジェクトということで、これが今実施をしているさらに個別の具体的なクラスターの事業ということです。左側のピラミッドですが、これは従来から大手企業を中心とした産業構造自体がこのような形になっているわけです。大企業中心に製品開発や技術などがそのピラミッドの中で生まれてきたということです。

ところが昨今、輸送、医療機器を中心にかなり輸出産業も非常に厳しい中で、新たな新産業を生み出すには新しい仕組みが必要だろうということで、色々な分野の新し

い産業をつくり出していくためには、大企業ももちろんですけれども中小企業、それからベンチャー企業、大学、こういうところがネットワークを強化して新しい地域イノベーションのシステムをつくっていく必要があるということで、こういうものを具体的にどのようにつくっていくかということが光電子技術イノベーション創出拠点、産学官連携拠点です。今年の8月ですけれども、さらにそれを包含、規模を拡大したような浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションという大きな計画をつくりました。これも国の採択を受けていますが、全国で9地域だけということで非常に意欲的な計画であるとの評価をいただいているわけです。

それでは具体的に、新分野というのは何かということですが、飯田市を中心に航空宇宙の関係で技術開発が進んでいる輸送機器用の次世代技術の分野と、健康医療分野、東三河、豊橋市を中心に取り組んでいる新農業分野、それから浜松市を中心に今やっている光電子技術を活用した新しい技術開発である光エネルギー分野、というようなことで、このような仕組みの中でイノベーションが持続的に進んでいく仕組みをつくっていくかというものです。

それから、三遠南信地域全体のことになりますが、平成22年3月25日に国から認定をいただいた三遠南信地域基本計画というものでございます。これは静岡県、愛知県、長野県の各知事、それから浜松市、豊橋市、飯田市の各市長が申請し、参画機関として産学官の皆さんにも入っていただいているわけですが、国の予算を所管している財務大臣、医療関係の厚労大臣、新農業関連ということで農水大臣、それから経産大臣、国交大臣といった各官庁の大臣が同意者となっており、この計画については各省が連携して認定をいただいたという

ことです。計画の概要にもありますように、先ほど申し上げた分野をこれから基幹産業として育成していく取り組みをしていきます。これは、全国でも県境をまたぐ取り組みとしては2例目ということで、非常に注目をいただいている計画です。

それから、次に、今申し上げたような広域の基本計画の申請に基づきまして、三遠南信地域産業活性化協議会というものをつくっております。これは先ほど申し上げた3県と3市、それから3市の商工会議所、産業支援機関、サイエンス・クリエイト、飯伊地域地場産業振興センター、テクノポリス推進機構というような全部で12機関によってつくられた組織であり、今後具体的にどのように事業をやっていくか検討しているところです。まず国の認定を取って、それから今度、国の助成もその中で出てくるものですから、地域としてこれからどのような事業に集中して推進するかということはこの全体で決めていくということです。現在、全部で539社の企業が参画をし、新分野の開拓とか研究開発等を実施しているところです。

それから、プロジェクトの一つ目のビジネスマッチングと関連しますけれども、最近、三遠南信地域におきまして実施しているビジネスマッチングの取り組みの例です。

これは、最初は信用金庫、商工会議所が主催をしておりますビジネスマッチングフェアです。三遠南信地域の先進企業の出展をいただいております、様々なビジネスの場、皆さんの出会いの場にもなり、色々なサポートもこの事業で行われており、商談も随分出てきているという状況です。

次に、ものづくりフェア2010です。これは東三河のほうで開催をいただいておりますけれども、これにも色々な企業が多く出展をされています。

他には、先週、オプトロニクスフェアと



いう光電子関連技術の展示会も行われました。

また、22日土曜日には、信金サミットが浜松で開催されました。三遠南信地域8信金の取引先を中心に物産展と地域おこしの事例発表等が行われ、このようなマッチングが行われております。

それから、地元や地域だけではなく、海外へのビジネス展開ということで、ドイツでの医療機器展、香港でのフードエキスポ、それからフランスでのエアショーということで、いずれも三遠南信地域の企業が参加をしているという状況です。

同様に、企業誘致・企業集積についてですが、企業集積をするには地域から新しい産業や企業を興していく育成していくということと、例えば成長産業分野の企業を誘致するというように外から企業を誘致する取り組みがあると思いますが、今後、こういうものにも共同して取り組んでいこうというものです。

次に、はままつ次世代環境車社会実験協議会ですが、これは昨年5月に浜松地域からスタートしました。次世代自動車の普及と産業化に向けた社会実験ということで、プラグインハイブリッドを浜松市、大学、産業支援機関、企業、こういうところにご協力いただいて実際に使って走っております。電動バイクも含めまして実証実験をして色々なデータをとっています。

これについては、今、第1期が終わりこれから第2期がスタートしますが、第2期からは東三河地域と南信州地域でもこの新しい車を走らせていただいて色々なデータを取り、地域や環境の変化に対応していこうということで、行政にもご了解をいただいているところでございます。

今後、企業あるいは自動車関連業界では、軽量化、電気化、情報化、それから大きなポイントですけれども蓄電池というような

ことをこの技術開発の重要テーマとしていきますので、ぜひこういう技術開発競争の中で地域の企業がどう参画していくかということ、これから皆さんで取り組んでいきたいと考えます。

次に、先ほど申し上げた4分野において実際開発されたものをご紹介します。

スズキの電気自動車。ヤマハ発動機とスズキの電動2輪。それから、バッテリーパックや光通信を活用した次世代交通安全情報通信。輸送機器の延長にございますけれども航空宇宙関連分野の部品の開発というようなものが成果として上がっています。

健康医療関連産業では、浜松医科大学のPET、浜松ホトニクスの手術ナビゲーションとかもう製品化になっているものもございます。

新農業は、東三河で随分進んでいますけれども、LEDを使った植物工場や計測器など新しい農家の事情にこたえるような機械とか、三ヶ日みかんを使ったペースト、これはサントリーとハイボールで契約をしているようですけれども、そういうものが出てきています。

光エネルギー産業につきましては、半導体レーザーやカメラといった部品や製品が開発されています。

それから、先ほどご紹介した計画の中の一つになりますが、今年の8月に文部科学省、経済産業省、農林水産省から、地域イノベーション戦略推進地域に指定されました。これは国際競争力強化地域ということで、海外から人、物、金を引きつける強力なポテンシャルを持った地域であり、計画をこれからも推進していくということで、国に認めていただいたということです。

これは東三河と浜松でこの計画をつくり、認定を受けているわけですが、最初の時点では大学と企業が集積する地域を中心として進めていくという形で申請を出し

ておりますが、当然ながらこれから三遠南信地域全体へこの成果を発揮させていき、広く地域の皆さん方と一緒に推進していくということで皆さんにも共通認識をいただいております。

実施主体機関としましては、浜松商工会議所、豊橋商工会議所ということで、大学、静岡県、愛知県を含めまして、あと特筆すべきは、この中に金融機関に入っております。静岡銀行、浜松信用金庫、遠州信用金庫、豊橋信用金庫ということで、産業支援では融資だけではなくて色々なアドバイスやマッチングということで、非常に多くの情報をたくさん持っていらっしゃいます。協議会もそれぞれの機関から派遣された人が事務局を構成して、具体的に事業開発部と国際広域情報展開部というようにそれぞれの部をつくってその中で事業を展開する予定になっております。

国際競争力強化地域の実現ということでございますけれども、これについても先ほど申し上げた事業の中にもその出口でございます、海外マーケットへの出口戦略の充実と実行ということがこの中に盛り込まれていますので、そのような意味で国際競争力強化地域ということなのです。

たくさんの様々な事業やプロジェクトがありまして、短時間では詳細までご説明できませんけれども、これだけ多くのプロジェクト、それから事業の採択を国から受けている地域というのではないと思います。全国の中でも注目を集めている地域だと思いますし、また、県境をまたいだ地域ということでほかにはない特色を持っています。ですから、行政はもちろん、産業支援機関、金融機関、商工会議所がさらなる連携を強化して、一番やらなくてはならないことは早く実績を積み上げていくことだと思います。実績を積み上げることにより、さらなる次への連携、それから融合の強化が生ま

れてくると思います。

今回は、10年ぐらい前から継続しているプロジェクトもありますけれども、昨年または今年採択を受けて新たに取り組んでいくプロジェクトについてもご紹介させていただきました。

以上でご報告とさせていただきます。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

かなり色々なものに取り組んでいますけれども、この10年の中で特に広域的に提案していかないとなかなか採択をされないというのが1点。それから、各省庁向け、例えば文科省向け、あるいは経産省向け、あるいは農水省向けというようにですね、それぞれ省庁によって力点が違うものですから、ずっとメンバーはそんなに変わっていませんけれども、表現の仕方とかそういうことで非常に三遠南信の場合は上手に国とやり合っ採択をされてきているというのがこの5年間の経過だったのではないかなと思います。

#### ■ 議論・意見交換

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

それでは、第1期重点プロジェクトの評価と、第2期にとりわけ重点的に推進する事業についてご意見をいただきたいと思います。重点プロジェクトというのは、三遠南信地域連携ビジョンに示したものでありまして、優先的に進める事業としたものがあります。資料集の55ページから58ページに4つの重点プロジェクトの工程表を掲載してあります。これは、昨年8月のSENAの委員会で決定した工程表に、現在までの進行状況を記載したものであります。

それでは、皆様からそのプロジェクトの第1期における評価と今後事業を進めるに

当たりまして、とりわけ推進プロジェクト等においてご意見をいただきたいと思いません。

この「技」分科会の重点プロジェクトをもう一度おさらいしますと、一つは三遠南信ビジネスマッチングの推進、これは色々な形で開始されていますし、先週もオプトロニクス会議がこの地域で行われました。二つ目は、国内外に向けた人材企業誘致活動の促進です。それから、特色ある産業クラスター拠点づくりと県境を越えた事業連携ということですが、これは先ほど安形部長が言われましたように、工業という集積でいきますと13兆円もあります。それから、農業では3,000億円あります。農業の場合トップが田原市、4番目が浜松市、6番目が豊橋市でして、1番から6番の間にこの地域の都市が3都市入っているというのは非常にかわったというか特異な場所であるということをご理解いただければと思います。それから四つ目は、三遠南信地域の大学のフォーラムの設置。この4つがこの「技」分科会の重点プロジェクトだご理解いただき、まず地元商工会議所の御室会頭からその辺を踏まえたご意見をいただけたらと思います。

### 浜松商工会議所 御室会頭

それでは私の方から重点プロジェクトのうち三遠南信ビジネスマッチングの推進ということについて、少しお話をさせていただければと思います。先程の浜松市の安形部長さんからのご説明と若干重複すると思えますけれどもご容赦ください。

ビジネスマッチングというのは、4つのこの重点プロジェクトの中では大変具体的にイメージしやすいと思っております、実際の取り組みも比較的活発に進んでいるという印象を持っております。

手前みそになりますが、具体的な事例と

しては浜松商工会議所と、それから浜松信用金庫、そして遠州信用金庫が共同で開催するビジネスマッチングフェアがございませう。事業意欲が旺盛な地域中小企業の皆さんに販路拡大、あるいは受注確保などのビジネスチャンスをご提供するという目的で2007年からスタートをしたイベントでして、今年で5回目の開催となりました。今回の実績といたしましては、出展企業が全部で253社、来場者数が7,400名、フェア当日の商談成立件数は28件、試作見積もり依頼が211件ということで、一定の成果が出ているのではないかと考えております。中小企業におきましては、優れた技術、製品を持っていても、それをPRする機会が乏しい。あるいは、販路を開拓するための経営資源がないということが大きな課題になっておりますので、この課題を解決し、新産業の力を底上げする方法の一つとして、今後も積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

ただ、現在当フェアへの出展企業は、基本的には浜松の企業の皆さんが中心です。浜松市産業展示館またはこのアクトシティ浜松の展示イベントホールのどちらかでやることとなりますが、いずれにしてもキャパシティが小さくて、今のところ250社ぐらいの収容しかできません。我々も本格的にやれば500社ぐらいの収容はできるだけ規模はつくれると思っておりますし、そうなりますと飯田や、豊橋の皆さんを初め、三遠南信のメンバーの皆さんにもご出展いただけるわけですが、会場のキャパシティの関係で今のところ規模的には課題があるのが現状です。

それからもう1点、ビジネス交流の取り組みといたしまして、平成20年から三遠南信地域の商工会議所の会員の皆様による合同人脈交流会を開催しております。主には名刺交換会のような形態となりますが、ご

参加の多くの皆さんから商工会議所会員の連帯感の中で今後のビジネス拡大につながる人脈が構築できたと、高い評価をいただいております。やはりビジネスの基本というのは、お互いの信頼関係の構築にあります。直接顔を合わせて互いに会話を交わすこと、これに勝る交流連携はないと思っております。たとえ非効率であっても、そうして確立された信頼関係こそが地域発展への礎となっていくと考えておりますので、我々会議所といたしましてはその泥臭い部分を支える存在として役割をしっかりと担っていきたい、そんな認識を持っております。

ビジネスマッチングについての具体的な発表としては、以上でございます。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

ビジネスマッチングは、合同でやっている場合もあれば、豊川では豊川信金が単独で行っていましたが、あれもコンパクトなマッチングだなというふうに見ましたけれども、色々な形でやっております。また、豊橋の場合ですと2年に1回合同しながらやっているというのもありますので、多分そういうのを重ねながら、今、御室会頭が言われましたように人の集積につながるのではないかなと思います。

続きまして、豊橋商工会議所会頭の吉川さんをお願いします。

#### 豊橋商工会議所 吉川会頭

それでは、私からは今現在地域の事業者の皆さん方と具体的に取り組んでいること、豊橋商工会議所が独自に考えていることを2点ばかりご紹介をさせていただきたいと思っております。

1点目は、新しい農業ということで植物工場の取り組みについてお話をさせていただきます。

豊橋市におきましては、平成18年に食農産業クラスター計画を策定いたしまして、その翌年にその推進母体となります食農産業クラスター推進協議会を設立させております。この協議会におきましては、食と農に関連いたしました多様な事業者が連携しまして商品や技術の開発を推進しているところです。

このような中におきまして、株式会社サイエンス・クリエイトと豊橋技術科学大学などが申請をいたしました植物工場の実証設備の整備事業が、経済産業省のイノベーション拠点立地支援事業の採択を受け、今後約8,000万円の補助金に自己資金を加えまして、太陽光を利用し、高い収穫量を実現するための植物工場を実現する制御技術等の確立を図っていく予定です。

本事業につきましては、食農産業クラスター推進協議会に参画をしております複数の事業者がコンソーシアムを組みまして、サイエンス・クリエイトや豊橋技術科学大学とともに活動をするにしております。豊橋商工会議所といたしましても豊橋市や愛知県などと一緒にしまして資金面、あるいは技術面での協力を行っていく方向で進めているところです。

次に2点目ですが、豊橋商工会議所が設置いたしました海外展開支援室の取り組みにつきましてお話をさせていただきたいと思っております。

国内市場の縮小から、新たな市場や取引先を海外に求める中小企業の皆様が増えていくことはご承知のことと思いますが、加えまして、現在の長引く円高がその動きをさらに強めるものではないかと考えております。

しかしながら、中小企業におきましてはノウハウや情報、人材の面におきまして多くの課題があります。そのために二の足を踏んでいる事例が多いのではないかと考え



ます。

こうした企業のニーズに対応するために、豊橋商工会議所といたしましては本年4月に海外展開支援室を開設し、最新情報の提供やセミナーの開催、また各種相談業務への対応などを行っています。様々なサポート企業や支援機関の協力を得ながら、個別相談あるいは問い合わせに対応いたしておりますけれども、会議所職員の経験が浅いために、豊橋商工会議所といたしましては取引先が本当に満足しているのかどうか、十分な事例やノウハウの蓄積を進めていく必要を感じているところです。そのために、三遠南信地域には海外で十分にわたり合っていけます高度な技術を持った中小企業の皆様方が多く存在しているわけですので、こうした企業の海外展開支援を行っているそのほかの商工会議所または商工会を広域的に組織化いたしまして、ノウハウの提供あるいは事例を共有することで地域企業のニーズに伝えていくことも一つの実践的な取り組みではないかと考えております。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

1番目の植物工場でございますけれども、実は豊橋、田原というのは施設園芸の日本のメッカでして100年の歴史があります。その施設園芸を農家に提供する企業というのは15社ありまして、この10年間で日本の農業に提供したシェアの6割が豊橋の企業です。そういう経緯があり、温室農業組合がありまして総合農業とは別に温室が独立しています。そのような地盤があるということで、植物工場の取り組みができたと考えます。

ただ、豊橋の場合は、太陽光型、自然光型のものがずっと主流ですので、人工光型LEDを使ったものというのは極めて遅れております。この部分は、浜松の企業のほ

うが3歩ぐらい先に行っております。今回、浜松でもそういうものを1個つくっていかうということですが、やはりこの地域のそういう技術というものをどういう形で形成するかということです。

先ほど海外の話もありましたけれども、海外にもそれを持っていくということで、現在2年目になりますが香港をターゲットにした調査を行っています。香港というのは700万人の人口ですが農業はほとんどありません。ほとんどが輸入です。香港の農水省が去年の10月、日本の施設園芸あるいは植物工場を調査しました。その後、ぜひともやりたいという希望がありまして9月に一度調査をしましたが、建て方はできますが実際の栽培ノウハウはありませんので、そこをどのように取り組むかということが課題になっています。

いずれにしても、施設園芸は一つのボックスになりますけれども、そのものの技術というのは、例えば技科大の技術を使ったりしながら工場製品をつくるがごとく植物をつくっていくと。ただ、植物は生きておりますのでそう簡単にはいかないところがノウハウです。その辺りは少し進んだ農家の方たちの技術が必要だと思っております。

農家の場合は300坪が一つの単位ですが、その300坪の単位でいきますと1万2,000棟が豊橋、田原に建っております。ですから、そういうものをコントロールしているということでご理解いただければ、この植物工場を何故やらなくてはならないのかという背景がわかるのではないかと、ことを補足させていただきます。

次に、豊川市長、一言お願いします。

#### 豊川市 山脇市長

豊川市はご承知のように、東洋一と言われました豊川海軍工廠（こうしょう）があ

りまして、それが昭和20年8月7日の爆撃によって灰燼と化したわけです。長い間廃墟となっていたわけでありますが、東名高速道路の豊川インターチェンジができ、そしてこの海軍工廠（こうしょう）跡地に企業を誘致して、徐々に豊川市も元気になってきたという状況です。

その跡地の中に、新幹線の車両をつくっております日本車輛の工場があります。昨年、生産3,000両達成の記念式典が行われており、新幹線の基地という認識をしております。そしてコニカミノルタではプラネタリウムの優秀な技術を持っており、コニカミノルタに大変頑張ってもらっているという状況です。そして、ぜひ宣伝をしておきたいのは、バスケットボールのプロチームであります浜松・東三河フェニックスです。このチームは豊川市のオーエスジーがつくったチームを母体としており、現在bjリーグで大活躍しています。このオーエスジーは工具メーカーであり、タップでは世界一と言われております。

このように各企業に頑張ってもらってはおりますが、地域経済は大変厳しい状況でございますので、豊川市としても何とか企業誘致により発展していこうと取り組んでいます。平成18年から4年間で3回合併を行い、昨年の小坂井町との合併で宝飯郡4町との合併が完了しました。その中の御津臨海部に企業団地がありまして、一昨年、台風18号によって高潮被害を受けました。豊橋市でもコンテナが流されましたが、御津臨海部に立地している企業が大変不安を感じている状況であり、今年は東日本大震災がありましてさらに不安が大きなものとなってまいりました。そこで、御津臨海部の企業が集まり、災害に強い企業団地を目指して懇話会を設置し、色々な情報交換をしているという状況です。豊川市といたしましても防災対策を推進して、これからも

企業誘致を積極的に進めたいと思っております。

実は昨年新しく企業用地が御津臨海部にできたわけですがけれども、まだ1社も入っておりません。特に東日本大震災以後はもう全然話もないという状況ですので、この辺をしっかりと進めていかなければならないと思っております。

一方、内陸部にも企業用地の造成をこれから始めるということで、企業立地推進部という組織を立ち上げまして、企業誘致を進めていきたいと思っております。そのような中で、やはりインフラ整備が大切となってきます。この三遠南信サミットに参加しますと、リニアと三遠南信道路の整備促進は一生懸命やっているので納得できるわけですがけれども、実は豊川市や蒲郡市にいたしますと国道151号の整備を早くしていただきたいというのが東三河地域の願いです。また、国道23号の名豊バイパスも早期に整備完了すれば、東三河の物流はしっかりしたものとなります。特にこの三遠南信サミットに参加している皆さんにもよくご理解をいただいて、共に国に要望していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

先ほど豊川信用金庫のビジネス交流会の話がありました。今年で7回目でしたが、年々盛んになっておりまして、今回は8,000人の方に訪れていただき大盛況でありました。豊川市としましても、地域のビジネスマッチングにつながればと応援しているところです。

食に関してですが、中日本東海B-1グランプリin豊川を9月24、25日に開催いたしました。静岡、岐阜、三重、長野からB級ご当地グルメの展覧をいただきまして大盛況のうちに終わりました。豊川市からは、いなり寿司を出展して宣伝しました。やはり豊川市の名物にしていきたいと思っております。

ところでは、昨年厚木で行われましたB-1グランプリでは、6位に入賞いたしました。それ以後テレビ取材を百回以上も受けました。テレビに取り上げられるのは大変いい効果があると思っておりますので、これからは宣伝をしていきたいと考えています。

最近、新城市商工会の本多プラスがテレビ番組の「カンブリア宮殿」にとりあげられました。世界のオンリーワンを目指しておりすばらしい企業だと本当に感心していたところですが、地域の仲間としてご指導をいただきながら豊川市も頑張りたいと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

「いなり寿司」の話が出ましたけれども、食農というのはそういう意味でのポテンシャルがあるということ豊川市長からもご提案いただきました。

本多プラスさんの話が出ましたので、新城市商工会から一言お願いいたします。

#### 新城市商工会 本多会長

隣に田原市商工会の山田会長も見えますが、大きな会社の社長で、共通しているところは2人ともたたき上げというところでは、先ほど、浜松の会頭さんが言われた中で、イベントをやっても浜松の企業がほとんどだという話がありましたけれども、我々が東三河で話をするといつも嫌われるのですが、商工会長になつてからずっと浜松のやらまいか精神に学ばまいかって言い続けています。先輩には、余計なことを言うなど怒られましたけれども、浜松と豊橋の違いは何だと、最大の違いは、やらまいかをやめまいかなんですよ。これはどうしてかなと思います。浜松からは世界に冠たるビッ

グカンパニーが何社も生まれています。それにまつわる中小企業でも、独自の技術を持って世界に羽ばたいという企業が何社かあるわけです。

というのは、私の兄が本多電子を自分で始めたのですが、本多電子は浜工の出身なんです。今の静大の工学部。高柳博士に学んで、アメリカの部品を使って豊橋で初めてテレビを作りました。喫茶店に備えていいお金になったそうですが、私どもの新城でも、15センチぐらいの小さなブラウン管のテレビを作ってくれました。

兄から色々な話を聞いていましたがどうして違うのかなと。豊橋が遅れたのは、やはり技術系大学がなかったからだと思いますが、兄が非常に尊敬していた神野さんが全部実現してくれました。技科大もそうです。サイエンス・クリエイトも財団もそうです。色々なことでやっぱり浜松に学べということ、遠州地方の人のやらまいか精神に。これはお祭りに現れるし、子どもの遊びでもそうですが、私は青年会議所時代から浜松の人たちに、本当に学ばさせていただきました。

もう一つは、私は古い話、少し気学を勉強して、新城のまちおこしをした人はみんな遠州から来た人なんです。方角がいいんですね。辰巳の方角といいまして、東南の方角なんです。新城からお嫁さんをもらうのもっといいと思うんですけどもね。これは乾の方角で、大変いい。だから、農業で世界一とはいうものの、ものづくりについてはやはり浜松に学ぶと。

そこで、何かおもしろいものがないかという中で、軽トラ市という話を聞いて、それはおもしろい、見に行こうということになりました。まず何でもいいですから、事業でもそうですけれどもうまくやっているところのまねすればいいですよ。うまくやっている地方のまねすればいいわけです。

から、全国の中でこの三遠南信というのは非常にうまくやっている地域だと思いますから、いずれ道州制の時代が来るでしょうし、こういう震災を受けた後にぜひそれは実現しなくてはならないと思います。

軽トラ市は、衰退の一途である商工会の商業部を何とかしたいという中で、簡単に始められるしおもしろそうだとすることで、盛岡市の隣の雫石町や九州の川南町に行きました。それでこれは非常におもしろいと思いましたが、道路に車を駐車するというのが大変難儀でした。また、スポンサーに、お金がないものですから、スズキ自動車の会長にスポンサーになってもらいたいと言ったら、軽トラ市って何だって言うので、まあ一度見に来てくださいと言って見に来ていただきました。そして、一目見てこれはおもしろい、これだこれだと言って、全国で講演する中で新城に行けといわれたんですよ。そうしたら、今、毎月第4日曜日に開いていますが、昨日は100人ぐらい来ました。観光バスでも来るようになりましてね。おかげで、今、新城市商工会は大変潤っています。2時間ぐらいの間に20万から30万の売り上げをあげる人もいますし、行列が並ぶぐらいになりました。

それと、新城や東三河にとってこれはチャンスなんです、大村知事が東三河県庁なんていうのを突然出してきまして、こんなチャンスないわけですから、そうすればさらに三遠南信問題もやりやすくなるだろうと思います。

そして、リニアの駅が飯田にできると新城は、東京から帰るにはリニアで飯田でおりに来れば1時間で来ますから2時間かからずに帰ってこられる。それと、伊那谷は本当に空気が澄んで、地震も災害も少ないところということですし、人柄も良く、長野県は昔から教育県って有名です。だから、私も次の立地条件として伊那谷を皆さんに

勧めたいと思います。浜松の技術で伊那谷のいい人を使う。そうすると、東三河はちょっと置いてけぼりになってしまうかもしれません。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

山田会長、田原市は空いた土地をたくさん持っているというので、この間はメガソーラーが出てきましたけれども、そういうことを含めて、一言お願いいたします。

#### 田原市商工会 山田会長

農業関係で今まで全国一ということで誇ってきましたけれども、今内容的にはかなり構造変化が起こっております。観葉植物関係も今安くなっており、また、キャベツなどといった露地に戻るかというような動きもあったり、非常に混乱をしているということだと思います。

そしてまた、田原の場合は農協が非常にリーダーシップを持っておりまして、今まで強力に指導してきたわけですが、ここに来てそういうものが少し弱くなったかなと感じています。いろいろな要素というものが出来てまいりまして、先ほどまとめていただいたような方向に進んでいくのではないかと考えております。

それから、様々な方法で企業誘致を行う中で、東京製鐵さんも出てまいりましたが、実際はインターネットで調べたということなのでこれには大きなショックを受けましたが、おかげさまで稼働がでてきました。ただ、まだフル稼働には大変ほど遠い状況でして、本来は20万トンという能力があるわけですが、4万トンとか5万トンぐらいで今スタートしているということです。

メガソーラーにつきましては、ようやく具体的な話になりました。三井石化が80ヘクタールの土地を持っておりまして、ここ



は岸壁も港湾計画の中に位置づけされている港として非常にいい土地でして、港の機能を持ったところが来てくれることが非常に望ましいと思っておりましたけれども、実際はあのような恒久施設的なものが来て、この10年ぐらいのサイクルの中で様子を見ていくのかなと思っています。地元としては、あくまで港の機能を残してほしいということで、岸壁の用地としての変更はしないというお願いもしております。

それから、私ども田原臨海に70社、1万5,000人ぐらいの方が働いているわけですが、先程豊川の市長さんが言いましたように、大変渋滞を起こします。豊橋の方で大分改良されたのでよくなってきましたが、まだ朝晩の渋滞は大変なものです。私どもは、トヨタの田原工場はもう永遠なものだと自信を持っておりました。なぜかという、最新鋭で一番規模的にも大きい、そしてまた港がついているんですよ。外航バースが3バース、内航バースが1バース。同時に船が着けるといことはそんなになんないということで、これは大丈夫だと思っておりましたら、今回、東北に今度エンジン工場をつくるということで、九州工場と田原工場と東北の工場、この3工場の競争が始まりまして、今、田原工場の方も目の色が変わっております。

どういうことかという、部品の輸送効率をどうやって上げるかという問題がありまして、この辺は調達はできやすいけれども輸送が物すごい経費がかかるということで、最新の田原工場がつぶれるかもしれないという話が出てきております。3工場競争をして、それで製造ができないということになれば、これは外国に持っていくということで、田原工場といえどもそのような状況に来ているということです。

また、田原工場の場合は、アメリカの北米向けの重要な基地でして、北米向けの車

は全国から田原工場に輸送されます。輸送方法についてはトレーラー、それから内航船。1,000、2,000台ぐらい乗れる船が着きまして、そこで物流の拠点になっておまして、アメリカの金融不安の前は1カ月に12万台出ておりました。ちなみに、今ようやく5万から6万台ぐらいの台数がありますが、特に豊橋の輸出車の実績というのはトヨタが8割から9割なんですね。数字的には日本一、二と言いますけれども、その内容たるやトヨタのそこから出されるものだというのが実態です。

豊橋の港も小坂井からの23号が整備されれば、もう30分ちょっとくらいで来れるということで非常に輸送コストも下がりますし、昔、豊田市もどちらかという豊橋港のエリアに入っていたわけですが、湾岸ができることによって名古屋港に移されました。輸送の形態が向こうが中心になったということで非常に豊橋も影響を受けましたけれども、道の整備ができることで港の機能が全く変わってくるということになります。

港湾計画でも港周辺がよくても港に通ずる道が整備されなくてはだめではないかという指摘がありまして、港湾課でも同じ認識しておりますが、そういう整備が非常に遅れているということで、田原の場合は豊橋を通らないと外に出られないということがありまして、やはり道路の問題も豊橋としっかり話し合うことがこれから必要だと思っております。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

それでは、磐田商工会議所の伊藤さん。一言お願いします。

#### 磐田商工会議所 伊藤会頭

皆様がいろいろとお考えになっているこ

と、それから、特にこの三遠南信で議題にしていること、これはもう皆さん共通の問題であろうと思います。

今、このようにグローバリゼーションも進んで、そして少子高齢化になりまして、非常に国内の需要が減って、それで海外との距離が短くなって、こういうときにもう県境を越えてということはもう当然の話でありますし、また、力を一緒に合わせてやるというのも当然の話であります。

磐田商工会議所管内の産業構造は今まで四輪などの輸送機に非常に偏った部分がありました。そのお蔭でいい目にあってきた部分もありましたけれども、それを何とか新しい方向へ向けなきゃいけないということで新産業創造の起案を市の方にいたしまして、私どもも今、創造委員会から協議会をつくってやっているところですが、問題の一つはビジネスマッチング、それからもう一つはどういう新しいものをつくってあげばいいのかという点です。今我々が持っている技術にはどのようなものがあり、何が足りないのかということです。

特に、国内の需要に向けて新しい市場を開拓していくといいますか、新しい市場に向けた技に変更していくということと、それからやはり世界市場が非常に大きいですから、どうしても日本がものづくりでやっていくためには世界と競争せざるを得ない。そうなると、海外へ出て行かざるを得ないということが必ず出てくるわけです。

しかし、それだけでは済まない企業が国内にはあるわけで、その人たちはどうやって、価値を見い出して世の中のためになっていくかということになると、国内における便利、安全、安心、養老、それから子育てということに対してのサービス、そのためのいろいろなハードウェアも含めてやっていく必要があります。それから、縦割り行政の横通しをするような新しい形や、農

業の硬直化だとか、それから河川の問題、いろいろなことがまだまだ残っています。これも、やはりもう行政だとか民間だとか言っていられない状況にあって、ある意味では切羽詰まっているということであろうと思いますので、ますますこういう機会を利用していただいで皆様とご交流をお願いしながら、自分たちの身の回りも解決していかなければいけないと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

大平さん、お待たせしました。今まではどちらかというと平野部のことでしたが中山間地という立場でよろしくお願いいたします。

#### 喬木村 大平村長

それぞれの地区のお話をお聞きして、やはり南信州地域は2つの地域の皆さんとは当然立地条件が違うし、いろいろなものが同じというわけにはまいりませんが、当地といえ半生菓子ですとか、飯田といえ水引だとか、そういう面では今までもずっとつながってきたし、これからもそういう産業はまだまだ継続していくし伸びていく部門かなと改めて思っております。

飯田市、それから広域の中で地場産業センターを中心にしながら、いろいろな新しい産業を取り入れながら研究をして進めているようでありましてけれども、ものづくりの拠点というようなことでいろいろな産業が今伸びてきています。先ほどのソーラーや航空機産業など、本当に新しい部門で伸びてきているのが顕著に出てきているようであります。

私どもは山村の小さな村であります、南信州ならではの自然と、そのような澄んだ環境がこれから生かされるのではないかと思います。リニアビジョンなどいろいろ

な計画を立てておりますが、これからがやはり正念場になってくると思っております。

また、新しい農業に関して言えば、果樹地帯が多いわけですが、特に市田柿がこのごろ全国的に非常に伸びてきています。今までは保存食であったわけですが、一つの商品、菓子というようなイメージに変わってきました。乾燥も天日乾燥でずっと続けて一ヶ月かかるわけですが、新しい農法や熱風を使った乾燥により10日から2週間で製品として出荷するという成功事例も出てきています。飯田、下伊那地方としても果樹産業としても、やはり一番伸びの高い市田柿というのを特産品化していくというのが今、後継者が少ない中でそういうものに仕事を課しながら進んでいくというのが一つ大きな流れではないかと思えます。

いずれにしても、企業体質的に見ればまだまだ2つの地域に比べれば弱い面もありますので、その辺が交通革命によって、新しい時代の地場産業の活性化につながっていくのではないかと考えているところです。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

何年か前に大分の平松知事が一村一品運動をやったときに調べたことがありますけれども、一村ごとに機械を全部調達していくんですね。そうして調達した機械というのは全部違う、一個一個違うんです。それも多分2分の1は国からとったと思うんですが、申請書も全部その会社がやってくれて、県内幾つかのところでは新しいものをつくってきたということを知っています。多分山の中は山の中の生き方があるんだろうなということです。

関連して、大石さん。遠州の中でどうやって生きていくかということで一言コメントをいただければと思います。

#### 浅羽町商工会 大石会長

私は海の方からということで、大平村長の方と全く様相を異にするところがあります。袋井市と合併しまして6年たちましたけれども、8万7,000人のうちの2万人というところの小さな商工会です。袋井を代表してお話を申し上げれば良いのですが、そちらのほうには精通していませんので、私ども商工会が担当する部分のお話をさせていただきたいと思えます。

浅羽は、天龍製鋸さんのようなすばらしい企業等をお迎えして、産業的にも過去数十年発展をしてきました。ただ、私どもは今まで海を見るのと磐田や浜松の方を見るしか歴史的に視野がなかったところでありまして、それにより豊かな地域が開けたことも事実ですが、従来型の産業というのが主体でありました。

それから、農業面でも特化してフルーツの王様、日本一のメロンということも抱えております。バブル崩壊以降ずっと長きにわたってメロン栽培農家の方は経営的に苦しんでいることも事実です。有名でありましてもなかなか経営的には大変であり、新しい農業形成が今求められているのですが、やはり立地とか歴史の中でそういう革新的なものがなかなかつくり出していけないということも事実です。

そういう中で、昔から遠州織物の産地を担った一画でありまして、以前は商工会員500のうち150から180の会員が織り屋さんに関連でありましたが、今は確か8事業所ということで一番古い旧来型の繊維産業はないに等しい状態になっており、輸送機関係はそれぞれの旧来型の産業構造の中で生計を営んでおります。

私どもは工業面において新しい産業のあり方を目指していけないわけですが、この三遠南信の中で今までずっと担ってきた位置、事業所が多いわけですから、これから

もそのような形で、このサミットの中でいろいろな動きが起こり、また前に進んで行く中で一緒に歩いていきたいと思っております。

最後になりますが、産業立地、企業立地という面で非常にダメージを生んでしまいました。先ほど高潮の被害のお話もお伺いしましたが、私どものほうは平均海拔2.5mという立地なものですから、地震、津波という問題がありまして、著名な昔の誘致企業さんの多くが海岸沿い、防潮堤のすぐ脇に立地しております。その企業の皆さんは、立派な経営をなされて、私どもの地域に本当に貢献してきてくださいましたが、これからどうするかということで非常に苦悩を抱えられております。それによって私どもの商工会エリアというのは、先行きがどうなるのかという非常に切迫した問題も抱えてきてしまったということもあります。

それから、他の分科会に参加されている御前崎の商工会長さんもそうですが、私どもも浜岡原発から20kmちょっとというエリアにございまして、これから30km指定の範囲に入るということでしょうが、その辺の不安感も抱いております。これからの新しい産業構造、それから皆さんとともに進んでくことを一番に目指していくわけですが、まずは安心した産業が維持できること、企業が立地できることですので、安心して営める立地を少し高台に確保するなど、今までどおり私どものエリアある企業、また中小零細企業含めて、将来共に営めるような環境づくりが最優先ではないかと考えています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

今年の2月に産業観光ということで、袋井商工会議所の豊田会長ほか30名ぐらいで、豊川稲荷に来てお参りしたり、豊橋に戻っ

てきて食の産業クラスターの勉強をして、豊橋はカレーうどんが有名ですので昼間カレーうどんを食べて、その後、中堅工業を見学して帰られたというケースがありましたが、新しいものを吸収しようというところは多分どの地域にもあるんだなと思いましたが、最後、市民団体から原田さん、一言お願いします。

#### 東三河市民連携委員会 原田委員長

午前中に住民セッションを行いまして、そのあたりのご報告を申し上げるべきかと思いますが、いずれにしても、いろんな方々からのご報告あるいはご発言をお聞きして、やはり市民団体のいわゆる個人のレベルでのお話というのは何といてもやはりレベルが違うといえますか、目線あるいは自分の発想の範囲等が全く違う異次元でのお話し合いが行われているということをまず申し上げておかなければいけないと思います。それはいい悪いではなくて、実際、そういう違いが出てきているということです。

そんな中で、どのような声が多いかといいますと、三遠南信という広域の範囲というものを自分たちの問題意識として持っていくときに、どうやって交流を今まで以上に密度濃くやっていくかということに尽きるのではないかなということでした。そのことによって何かができていく。産業における議論にしても、その後出てくる話ではないかという感触です。

例えば、ものをつくるといった場合にも、基本的には食べるものをつくるという話題がやっぱり多いわけです。信州に行くとりんごをつくっている方々もいるわけですが、ものをつくってそれを加工していくという段階までについては自分たちはいろんなものを持っている、持っているはずだと。だけれども、それをどうやって産業にしているのか。つくったものを流通させていくと



いうところで、どうやって一段二段レベルアップを考えていけるのかというところが一つの大きなポイントになっているように受け取りました。

やはりもっと交流をしていろいろな人と知り合って、あるいは、人だけでなくいろいろな組織あるいはいろいろな仕組み、そういうものをもっとよく知っていく。そのためにはやっぱりまた交流というところに戻っていくというような状況が出ております。それでは、どうすればいいかということころまでは、今後議論を重ねていかなければなかなかできないなというような話し合いであったとご報告申し上げます。

それからもう1点、これは私が個人的に思っていることですが、今、東日本大震災の関係からいろいろな対応策等含めたお話が出てきているということですが、若干福島のほうの人たちとの連携のような話もしているわけです。その中で復興というのを私なりに考えてみますと、地域のコミュニティというものがなくていけない。コミュニティというものがもとにあるからこそできていくというのをつぶさに感じる気がいたしました。

それに対しまして、いかに都市がだめかというのを痛切に感じております。あの震災のときにもちょっと揺れただけで東京はもうがたがたでした。都心の人たちは避難する場所もないということで、本当にどれだけ弱いかということがよくわかったわけではありますが、そういうときに、やはりこの山間部と言われている地域をもっとしっかり大事にしておかないといけないと思います。例えば、今後、東南海地震というのはもう避けられないと言われているわけですので、そういう意味ではもっとその山間の地域に蓄積を持っていくということです。積極的に、意識的に山間の地域に厚みを持たせておかないと、いざというとき

に全然だめになってしまうのではないかなと思いますので、この三遠南信の地域の中でも、その山間の地域の位置づけというものは大きく変えなくてはいけないと思っています。

#### コーディネーター

#### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

少し違う視点になりますが、東海道が横にはずとつながっているけれども縦にまだ弱いのではないかとされた方がいます。原田さんのことを聞いていてすごくそう思いました。その意味で、三遠南信というのは非常に広がりがあるところですので、そういうことを含めた連携がここから出てくるのではないかと思います。今日の時間の中で第1期の評価と第2期の事業推進についてご意見をいただきましたが、冒頭の基調講演でお話がありましたように、やはり変化のとり方をどうとるかという、これは本多会長や山田会長のほうからも指摘がありましたけれども、今までの成功体験というのはもう通用しないということではないかなということでございます。

それから、安形部長から報告がありましたが、色々大きなプロジェクトが動いております。それらを具体的にどう進めるかをこれからやっていかななくてはいけないと思います。その中できちんとした連携あるいは今回のテーマの融合、そういうところが必要になってきます。実際に現場でやっていかなるを得ないということではないかと思えます。あと、本多会長から話がありました「やめまいか」ですが、最近「ええじゃないか」という言葉を使っているみたいですし、少し変わってきているのではないかなということだけ添えて終わりたいと思います。

「風土」分科会では、「塩の道エコミュージアムの形成」をテーマに、「地域資源を生かして地域と人を元気にする取組」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	財団法人阿智開発公社	理事長	羽場 睦美
報告者	三遠南信アミ	理事	中野 眞
行政	設楽町	町長	横山 光明
	湖西市	市長	三上 元
	飯田市	市長	牧野 光朗
	松川町	町長	深津 徹
	天龍村	村長	大平 巖
住民	地域づくりサポートネット	理事長	山内 秀彦
	てほへ	副理事長	大脇 聡

(敬称略)

## ■はじめに 事務局

それでは「風土」分科会を開会させていただきます。

この会の運営につきましては、コーディネーターを財団法人阿智開発公社理事長の羽場睦美様をお願いして進めてまいります。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長



今日の分科会の内容ですが、大きく3つに分けて進めてまいりたいと思います。

最初に、第1期のプロジェクトのおさらいを行い、三遠南信地域連携ビジョンの23年度までの4カ年の第1期の位置づけを振り返りたいと思います。

2つ目に、基調報告といたしまして、三遠南信アミの中野眞理事様より、この問題を考えていく上で、参考になるご報告を賜りたいと思います。

それから、3つ目ですが、第2期に向けて皆様のご意見をいただき、分科会としてのまとめを模索したいと思っております。

それでは、第1期のおさらいをしてまいります。様々なプロジェクトがありますけれども、その中で最も重要なプロジェクトを4つにまとめてこれまで推進してきました。1番目は、塩の道風景街道の体制づくりということで、風景価値を高めるための地域連携・発信活動、地域資源の掘り起こし、自然、歴史、伝統文化、暮らしを学び、伝える活動を行っていくということでした。

2番目ですが、地域資源を生かす鉄道の

有効利用ということで、飯田線や天竜浜名湖線あるいは路面電車等を活用した展開がなされたものというふうに理解しております。

3番目ですが、そうした内固めをする中で、海外への観光情報発信あるいは外国人の観光誘致を促進するということでした。国は観光立国を宣言しておりますけれども、地域においてこれらを進めていくということです。これらも自治体や経済界あるいは地域の方々が地道な活動を進めてこられたと理解しております。

それから、4番目ですが、三遠南信アンテナショップの開設ということも課題として挙がっておりました。この辺も検証していきたいと思えます。

P D C Aサイクルのような形で、ビジョンで定められた計画を実行し、それを今日、チェックしながらまた次のアクションを起こしていくことになるとイメージしております。

具体的には、今、振り返った内容の工程表、プロセスをご覧いただき、パネラーの皆様には、どのような経過があったか、それらも踏まえながら、全体を見渡してご意見をいただきたいと思えます。

それでは、2番目のパートとしまして、基調報告をいただきたいと思えます。報告者は三遠南信アミの中野眞理事さんです。よろしくお願ひいたします。

## ■ 報告

### 「地域資源を生かして地域と人を元気にする取組」

#### N P O 法人三遠南信アミ 中野理事

N P O 法人三遠南信アミの中野と申します。風土の分科会ということで、ご報告をさせていただきます。

私どものN P Oは、「三遠南信アミ」という名前がついており、「アミ」という

のは仲間とか友達という意味ですけれども、三遠南信地域のさまざまな人とのネットワークを生かしまして、地域あるいはそこに住む人たちが元気になるようにということで、さまざまな事業をやらせていただいております。

私どもN P Oがやっていることは、本当に地域にあるニーズを捉えて、自分たちの力でできることを取り組もうということなものですから、非常に事例としては小さな地道な活動をこつこつやっておりますということですが、その先に、三遠南信地域全体を捉えて、地域課題の解決に向けていろいろなヒントがあったらいいなということで、報告をさせていただきます。

これは天竜川の風景写真になりますが、飯田、浜松、龍山村のあたり、阿南町の和合川、正式には和知野川と言いますが、こんな天竜川の流れの中で、三遠南信地域が、南北の交流の中で、文化、経済の交流があるということです。塩の道というテーマで言うならば、塩の道は物流の道でもあったかと思えます。私どもが今行っている活動は、新しい物流、三遠南信地域の中の小さな物流をつくっていこうという取り組みになります。

次に伝統文化の写真ですが、阿南町の念仏踊り。これは遠州の大念仏と非常につながりの深いということです。いろいろな交流があることが見えます。あと天龍村のお祭りの様子です。

三遠南信地域の特徴というのは、天竜川水系ということが1つあります。東西が経済の中心になってはいますが、南北という非常に重要な長い歴史を持った交流が大きいということで、実は東西南北の経済文化の結節点といいますか交差点、それから標高0 mから1,000 mぐらいまでが、二、三時間の中にあるという非常におもしろい地域であるとか、桜が1カ月楽しめる地域

だとか、色々な見方があると思いますが、その中から何か事業を展開できないだろうかと考えています。

地域資源を生かすということですが、地域資源は4種類に分類できると思います。自然や風景、歴史や文化、物と事、それから人と技。こういったものがこの地域に数多く存在します。それらを今生きている我々がどう捉えて、どう生かしていくかというのが大切なことではないかと考えております。

新しい価値をつくっていきこう、高めていきこうということで、見つけて、磨いて、見せて、伝えるプロセスを踏むことが大切だろうと考えています。自分たちのまち、地域にあるものを再発見する。それから、それを今の人たち、住んでいる人たち、あるいは観光の人たちの視点で見て、磨き上げる、品質を高める、そういったことが必要だろうと思います。当然ですが、そのためには協働だとか連携というものが大切になってきます。それから、見せるという形でも消費者の感性に合った形に見せるということが大切です。あと、情報発信であったり、情報共有であったり、あるいはコミュニティということで、私どもは「共感のマーケティング」なんて言い方をしていますが、伝えるというところが大切です。この繰り返しをしていきたいと思います。と考えております。

三遠南信地域の地域資源を生かした取り組みということで、三遠南信アミとして今までやってきたことを踏まえて、これからやっていきたいこと、やるべきではないだろうかと思っていることを簡単にご紹介させていただきます。

三遠南信地域の魅力をどう捉えるかというのは、いろいろな捉え方があるかと思いますが、とにかく豊かな自然環境。天竜川を背骨に、豊富な水資源、日本有数の日照

時間とか様々なすばらしい自然環境があります。それから、標高ゼロメートルから1,000メートルまでを、二、三時間の中で行き来できます。それから今、私どもが感じているのが、現実的な経済といたしますか、小さいけれど、物が動いて、お金が動く仕組み、それが地域の人たちにきちんと還元され、循環していくという経済の仕組みをつくることの大切さです。それが元気のもとだろうと思っています。そして、まずできることが、農産物とか食文化ではないかと思っています。遠州、東三河の海、砂地でとれる作物、それから遠州の大地だとか東三河の赤土でとれるもの、それから山合いでとれるさまざまな野菜、果物、野草、そういったもの、あるいはそこにある食文化というものがすばらしい地域資源だろうととらえております。それから、コミュニティを源にした伝統文化というものも大切な魅力として捉えています。

次に環境の変化ということですが、大きな都市、市民の価値観、ライフスタイルの変化ということがあろうかと思っています。田舎に対する憧れもありますし、昔ながらの自然の中で暮らすライフスタイルというものも見直されています。それから、環境保全への対応、エコロジーというのが大切なテーマであるということです。

先ほどの全体会でもお話がありましたように、三遠南信道路の一部開通、それから来年、静岡県内では新東名が使えるようになるということで、この道路のインフラ整備を大きな環境変化としてどう生かしていくかというのが大きなテーマになるかと思っています。

この辺の環境変化をどうしていけばいいのかということですが、そのときの捉え方として、自立・自律した地域づくり、安心・安全な暮らし、それからこの100kmぐらいの中の地域文化経済圏として考える



ことが大切ではないかと考えております。人が、二、三時間で移動できる範囲というのは、人と人がつながれる、あるいは知り合える、物が動きやすいという範囲ではないだろうかということです。この地域内の経済というものをきちんと確立することも必要だと考えております。もちろん、グローバルな大きなビジネスはもう一方で重要なテーマですけれども、やはりこの地域の中の経済圏というものを確立することも大切なテーマではないだろうかと考えております。

ここから先は、こんなことをやっていくべきではないか、やっていこうよということですが、山間の加工力を生かす連携による地域ブランド商品づくりです。南信州、奥三河あるいは遠州の山間部というのは、過疎化、高齢化という問題を持っているわけですが、実は豊富な食品加工、食文化が非常に素晴らしいものがあって、それが連綿とつながってきている。それから今いらっしゃる方々のおいしいものをつくる力。もちろん設備としての加工場、そういったものも非常に充実しております。

一方、三河のほうは、結構、食品加工業が盛んですけれども、この遠州地域になりますと食品加工業というのは非常に弱く、せっかくすばらしい農産物がとれても、それを地元で加工し、付加価値を高めて、6次産業化あるいは農商工連携ということを考えたときには、実は地元で加工する力が非常に弱いということで、山の加工力、山間部のすばらしい食文化と、この遠州、東三河の農産物が連携できればすばらしい地域商品ができるのではないだろうかということです。

それから、それをもっと進めていくためには地産地消の実現ということで、三遠南信の交流市場、B to Bということですが、実は私どものNPOもコーディネー

トさせていただきながら、浜松の駅周辺の商店街で軽トラ市というのを今年の1月から毎月第2土曜日に開催させていただいています。この地域では新城市が先駆けて始められた軽トラ市ですけれども、浜松の街中でも開催しております。

農家が街にやってきたというコンセプトで、田舎の村から、農家が浜松の駅前の中心街に軽トラに乗ってやってきて直売するという形でやっています。その中に三遠南信というテーマも入れまして、実は遠くからも来ていただいています。これはB to Cという言い方になります。business to businessではなくて、business to consumer、要するに一般消費者向けの販売の機会をつくっております。

ただ、それをさらに一歩進めるためには、事業者間の取引です。もっと需要の大きな取引が始まらないと地域の経済の活性化にはつながらないだろうと考えます。飲食店とか問屋とかスーパーとかもう少し需要の大きなところと三遠南信地域の農家や食品加工場、そういったところが結びつく場づくりをする必要があるのではないかとというのが三遠南信交流市場の提案です。

あと、私の仲間が言った言葉ですが、「帰っておいでよ、三遠南信に」ということで、都会で疲れた人たちもこの三遠南信地域においでよということで、観光ということもありますが、半定住あるいは定住ということにつながっていく話だと思います。そういったコーディネート機関や事業が必要ではないかなと思います。

もっと具体的に言うと、桜を1カ月楽しむという三遠南信ならではの企画ができませんかと思っています。これは一つの例ですが、浜松あたりですと、3月の終わりごろに桜が満開になります。その後、北上してきますが、4月の終わりごろまでの約1カ月、三遠南信地域では桜が楽しめるとい

うことです。しかも、三遠南信地域にはすばらしい桜の木が、数多く存在します。私どものNPOでもお手伝いさせてもらっている長野県の売木村にも、しだれ桜が十数本ありまして、すばらしい地域資源であると思います。このような切り口もあるのではないかということです。

それからもう一つ、全てできるかどうかは別として、東日本大震災の後、自然再生エネルギーが注目されています。南信州、飯田の方では、もう先駆けとして太陽光発電の事業が非常に活発ですけれども、もう一つ考えてもいいなと思ったのが小水力発電と地中熱利用ですけれども、特に今私どもで勉強会をやっているのは小水力発電、水車による発電です。

山の方へ行くとおじいちゃんたちから50年ぐらい前はみんな水車を回していたという話を聞きますけれども、非常に現実的で、実は技術的にも安定したものだそうです。こういったものを見直してもいいのではないだろうか、今、実際にやろうという話も出てきておりまして、そのサポートをしようと思っていますが、この辺の自然再生エネルギーあたりも三遠南信地域ならではのものがたくさんあると思っています。三遠南信アミが提案する事業というのは、今このようなものでございます。

続いて、具体的な事業のご紹介ですけれども、できるだけ三遠南信地域のものが、この地域で、物流で回るよう、少しでも都市部の消費者の方を買っていただいて、お金が山に戻るように、そういう機会をつくらうということで、小さいながらも色々な取り組みをしています。山と里と海を物でつなぐということですが、私どもは物でつなぐということが今大事ではないかと思っています。小さな地域経済圏、小さいけれどもこういったことから始めないといけないのではないかということによっておりま

す。南信州の凍み大根ですが、浜松とか豊橋ですと、この凍み大根を食べるという食文化はあまりないのですけれども、びっくりするほどおいしい食品なんです。これは、やはり冬の間、野菜がとれない南信州のほうの知恵だと思います。天日干しができるというすばらしい自然環境を生かした生活の上での知恵ということで、市田柿、干し柿はもちろん有名ですけれども、野菜も天日干しをするということを知りました。南信州ですと、それほど大根がたくさんとれるわけではないという話を聞きましたが、浜松では実は大根がたくさんとれます。浜松駅から北へ6、7km行くと三方原という台地がありますけれども、そこでは冬の間とてもたくさんの大根がとれます。私の知り合いの売木の農家の方に言って、浜松の大根で凍み大根をつくってもらいました。去年は、少しだけ、300kgぐらいだったのですけれども、僕は、つくったものを浜松でPRしたくてお願いしたんですが、3月になっても連絡が来ないものですからどうしたかと思ったら、全部、信州で売れちゃったと言われました。今年は浜松でPRするからということで、その何倍かを予定していますが、とりあえず2トンぐらいの浜松の大根を南信州へ運んで加工して、おいしいこの食文化を知っていただく機会をつくろうという取り組みをしています。ほかには、浜松の山の方の春野町の七茶めぐりというのと、それから遠州紅茶セットというのを三遠南信アミの企画でやらせていただきました。これは、山のお茶農家が、とても経営が厳しい状況にあるということで、春野のお茶にも様々なお茶があることを知っていただくこうと10グラム入りのお茶のセットをつくってPRしました。NPOとしての役割は、そのコーディネート、つなぎ役だと思っていますので、商品を知っていただく機会をつくることにより農家を応

援しようと、このようなことをやらせていただいております。

また、浜松の商店街にある地産地消のスーパーに三遠南信コーナーを設置したり、先ほど言った軽トラ市、新城でやっている田舎暮らしのための体験ハウス、岐阜県の石徹白へ小水力の視察などを行っています。

最後にコンセプトとスタンスという形でまとめさせていただきますけれども、現場で地域ニーズをきちんと捉えて、小さなことから始めるというのがNPOの役割だと思っています。先駆けとしての役割がNPOであり、ここから本当に地域経済に大きく展開できるものを発展させていただければと思います。三遠南信アミとしての取り組みは、小さなところからこつこつと地域ニーズに合ったものを事業化して、それを発展させていこうということで取り組んでいます。

以上、小さな取り組みですけれども、ご参考にしていただければと思います。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございます。地についた活動の中に様々なヒントがございました。天龍村の大平村長さんにご意見をいただきましたと思います。お願いいたします。

## ■ 議論・意見交換



## 天龍村 大平村長

全部言いますとたくさんになりますので、私からは2点だけ問題として提案をさせていただきます。田舎のものを都会の人にも知っていただくとか、あるいは今まで知らなかったことを覚えていただくというような取り組みはこれからもしていかないとはいけません。今までも行ってはいますが、なかなか地についていない。

そこで、1つは、郷土の祭り、郷土の文化、これを題材にして今までもいろいろやってまいりました。私が教育長時代には、この三遠南信の祭りを1カ所に集めて、皆さんに見ていただく行事をやったことがありましたが、以後、立ち消えになっております。まず祭りの捉え方ですが、祭りというものは、各地域にそれぞれのお祭りが伝統されております。

これは、神への感謝の気持ちを祭りであらわしていたもので、いわゆる観光ということにかけては全然意識していませんでした。1年間安全に暮らせた、そして穀物がとれた豊穰、そういった気持ちを神に感謝することによって祭りが生まれたものでございまして、それをある時期から、観光に利用したいという話があって、そこから始まりました。それはそれとして、今の時代にはいいわけですが、本来ならば、たとえ人が少なくとも、信仰とその中で行われた祭りですのでやっていかななくてはならないわけですが、高齢化とか継承者がいないということから、どうしても皆さんに見てもらふことによって若者に祭りを継がせたいという気持ちもあって、観光として力を入れてまいりました。

実は、祭りこそ、その現地で、その日に、その場で演ずることが一番大事であって、単なる観光でやることは、私は反対だったわけですが、現在としては、このように集めたやり方もやぶさかではございま

せんが、そのこともひとつ考えた上でやっていただきたいということが1点です。

もう一つは産物です。産物も同じことです。田舎で食するものは各地にあるわけではありません。その地域独特のものです。作物でもその土地でなければできないものもありまして、必ずしも、それをほかへ持って行って作物をつくっても、同じものができるとは限りません。例えば、上村に芋の有名なところがありますが、この芋を私の村へ持ってきてつくっても、同じものできません。現地へ来ていただいて、それを食べることによって、その地域を知っていただくということは大事なことだと思い、今もそういったことには力を入れております。暖かいところでゆっくりした生活の中で食べるのと、厳しい生活の中で食べるのでは、同じ食物でも味が違ってくるということもございます。ぜひ体験の上でそういったものを食べていただくような構成にさせていただければいいかなと思っております。

そういった食文化につきましても、あるいは郷土の芸能文化につきましても、できるだけ現地で経験していただくこと、年に一回なり二回なり、そういったことに参加することでいい感触が出るのではないかと思います。祭り、文化、ほかにも水力発電とかいろいろ問題提起していただきましたけれども、祭りと食文化、これについては、現地の実情も合わせて、ぜひこれからもかけ声だけじゃなくて本当に実現できるような計画をお願いしたいということが私からのお願いでございます。

#### **コーディネーター**

#### **財団法人阿智開発公社 羽場理事長**

その土地やオリジナリティを大事にしなから事業を考えていくということが大事だというご指摘かと思えます。

それでは、横山町長様、お願いいたします。

#### **設楽町 横山町長**

今、天龍村の村長さんがおっしゃられたように、祭りというのは、その土地、その土地に即した伝統あるそういういわれの中で行ってきた行事ということですので、それをひとつの観光として生かす方法や多くの人たちに見てもらえるような場面をつくるということについては、私も村長さんと同じことを感じているわけですが、しかし、地域にあるものを広く発信するという意味では、これも一つの方法なのかなと理解しております。

村長さんは天竜川水系の祭りのお話でしたが、私どもは豊川水系上流ですが、やはり祭りという文化とあわせて、もう一つはお盆の行事というのがあります。以前、設楽の町の中で、イベント事業という形で、設楽の盆という銘を打って、この行事を行いました。そのときに、設楽の盆はもちろん、天竜川水系、また近在する市町村の方々に声をかけて、各地区で行われる盆行事を一堂に会してイベント事業として行ったわけです。

旧学校のグラウンドで行いましたが、各地から盆行事を提唱していただいて、実践してもらいましたが、ものすごい大勢の人が集まりました。これは1回で終わってしまったのですが、なぜ1回で終わってしまったのか考えなくてはいけないと思います。要は、大勢の人が集まり過ぎて、運営が大変であったということが一方ではあったという事実があるわけです。

しかし、それだけ大勢の人が集まる機会をみすみすやめてしまうのもいかがかなということも一方では思っております。これを何とか三遠南信地域としての一つの売りの行事として生かすことができればどうか



ということも一つの案として考えます。

そして、中野先生から山村の加工品の地域ブランド化という話がありましたが、私どもも、常々、何か地域の商品売り出しでいきたいということがあるわけです。それは何かという中で、獣害対策で獲ったものの肉、イノシシとかシカ、そういったものをジビエ風にして、広く高級料理化してブランド化を図って売り出しができないかと考えました。これには、獲ってくる人、肉をさばく人、流通していく人、流通ということは、食品衛生法も全部クリアできて、そういう組織化をきちんとこの地域で図れて、定着できるような体制ができること、このことは、各市町村、この山間地域はみんな悩んでおりますので、これをうまく使えるような方法ができないかなということ、今うちの町でも研究をしているところです。何か良い使い方があればと思っています。

そして、もう一点は花を強調した地域観光ということで、私どもの町も、従来から一般の人たちが自分の家庭で管理してつくってきた花木があるわけです。春になると地域で一斉に咲き誇るというような場面ができてくるわけですが、私の町にもしだれ桃を地域を挙げて育ててつくっているとこもあって、その花を見たくて大勢の人が観光として来てくれるような実態ができております。私は、町全体で花を売りとした観光資源として、これを広くPRしていますが、うちの町だけではなく、三遠南信地域、新城以北から飯田市までずっと地続きで、どこへ行ってもシーズンになると花があるとか、そういう花のチェーン化を図って、観光資源につなげていけるような地域となっていけばいいのではないかと思います。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

それでは、三上市長さん、お願いいたします。

### 湖西市 三上市長

私が感じたのは、何か交流をしようと思ったときに、やってみなければ、どうもうまくいなくてやめてしまったものと、交流が発展して、つながりがどんどんできていくという2つが生まれると思いますが、やはりやってみないとわからないということです。いろいろなことをやってみて、それがうまくいくのかどうかという問題で、たくさんチャレンジしてみればいいかなと思います。

あちこちに自分たちの食べ物を広げようとしても、なかなかうまくいくものといかないものがあるという話がありましたが、考えてみると、ビールというのはドイツのどこかで始まったのが世界のビールになったんですね。私の女房の実家は松本ですが、松本に煮イカというイカを煮た料理があります。松本の人にはみんなうまいと言って食べますが、私にはあまりうまいと思えません。そういう意味では、あちこちに波及するものとしらないものがある。しかし、それはやってみなくてはわからない。

カボスが四国のまちから全国に大変ヒットしたという話も聞きましたし、何かの商品が、あれっという形で伸びていくことがあるかと思います。昔、遠州では納豆のことを糸引き納豆と言っていました。水戸納豆のことです。遠州には浜納豆というのがあります。浜松の納豆ということなのか、浜名湖の納豆ということなのかはわかりませんが、浜納豆は、大徳寺納豆です。京都にも似たようなのがあります。醤油で煮詰めて干からびさせ、しょっぱい味がしますが、そっちを私は食べていたから、糸引き

納豆は食べられないと思っていましたが、糸引き納豆のほうが日本全国を制覇したわけです。残念ながら、浜納豆は知られていません。そういう意味では、こっちのほうはどう考えてもポピュラーだと思っけていても、そうじゃないほうがポピュラーになってしまうということがありますので、私はいろいろやってみるべきじゃないのかなと思ってます。

最近、私は、原発はやめろと言っけていますが、ここは水が豊富ですから、佐久間ダムに任せておいてあとは何にもやらないということではなくて、ぜひ小水力を発展させていきたいなと考っけています。湖西市には高い山がなく、ちよろちよろしか流れませんので、中水力というのものもあるらしいのですが、飯田市は太陽光で既に名を上げていますが、小水力に注目しているところではす。

祭りについては、浜松は凧揚げ祭りが有名になったのですが、もう一つ、浜名湖の周辺には大太鼓まつりというのがあります。これは、うまくやれば世界の人たちが集まってくるのではないかという気がしています。手を血だらけにしてたたく直径2m40cmの大太鼓というの、なかなか迫力満点でおもしろいなど。ぜひ一度、10月に見に来ていただきたいと思っけております。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

どんどんイメージが膨らんでまいりました。牧野市長さん、よろしくお願ひします。

#### 飯田市 牧野市長

飯田市長の牧野でございます。

先ほど、アミの理事さんからもお話がありましたけど、地道にできることからという姿勢は、いかにも私どもの三遠南信地域らしいなと思っけております。

もう一つ、視点として私が重視したいと思っけているのは学びでして、三遠南信地域というの、非常に学びの要素がたくさんあり、これをまた、地域の皆さん方が学んでいこうという姿勢を持っている地域だと思っけています。その中で、過去の先人たちもこの地域から数多く輩出されてきているところでありまして、そうした学びの風土というものを生かして、これからのこの地域、まさにエコミュージアムというの、そういった考え方が入っていると思っけています。

南信州は、グリーンツーリズムではかなり全国からも注目される取り組みを進めてきております。体験教育では、中学生を中心として、大体2万人ぐらいの子どもたちに体験教育の場を提供してきています。最近、ここ4年間ぐらいでそれをさらに進めて、大学あるいは大学院のフィールドスタディにつきましても、裾野を広げてきているという状況です。

今年度から初めましたので実績はこれからではすけれども、それをさらに企業人の研修まで持っけていくことも始めております。これは、この地域の学びの風土の中で、先ほどからお話がありましたように、本当に体験して初めてわかる、そういったものを学んでもらうことによって、この地域の価値を知ってもらい、また何度も来てもらえるような地域であるということを知ってもらい、そんなことをやっけてきているところではす。やはりこれから、こうした考え方で、まさに地道な活動の中にこそ学びの要素があるということをもっと情報発信していければと思っけております。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

では、深津町長さん、よろしくお願ひいたします。

## 松川町 深津町長

松川町長の深津でございます。地域の宝、地財を再発見、再認識し、発信していきまうというのが私の大きな公約の一つですが、自分の町には、果物、そしてきれいな環境等があるわけですけれども、それを地域の人たちが再認識するべきだと思います。地元の人たちは自分の町がすばらしいんだとプラスに発想をすることが苦手です。どちらかというと、マイナス思考に考える。人口減少時代の中で、いろいろな状況下の中でマイナスに考えてしまう。私は、どちらかというとプラスに発想していく人間でありまして、それを今、町長という立場で、住民の皆さんにアピールをしているのが現実です。プラスに捉えて、それを考えて発信していこうと。

それから、人口減少時代の中で、交流人口を増やしていきたいということが大きくございます。人が動き、物が動き、お金が動き、情報が動くという考えがありまして、そういう考えのもとで、地域の宝、地域の財産を発信していくというのは、その交流人口を増やし、そして活力を生み出していくということです。

もう一つ、少し違った方向から話しますと、地元の商店街で、300メートルぐらいを歩行者天国にしまして、「ぺっかん楽市」を行いました。これは10年ぐらい前になりますけれども、私が商店街の会長をやっているときに、空き店舗を使いまして、ペットボトルと空き缶を回収する機械を置きまして、そこで商店街がボランティアで回収をして、つぶされたペットボトルや缶を業者へ運んだわけですが、それが名前の由来となっています。それ以降は、お年寄りのバスを待つ間とか、交流の場として利用しています。

始めましてから、もう6、7回目ぐらいになりますけれども、伊那谷グルメサミッ

トというように銘打ちまして、北海道物産展あるいは姉妹都市であります牧之原市の皆さんがお茶を売ってくれたり、富士宮の焼きそばや高森からどんぶりが来たりいろんな形の中で行い、非常に多くの人が集まりました。このように交流を目指したイベントは行っていますが、今、話を聞いておりまして、今は、自分の町、地域の人たち、近隣の人たちにアピールをしてやっているわけですけれども、その輪を広げて、今度は、南信州、そしてまた三遠南信という形の中で、そうしたイベントあるいは交流というものをどのような形に取り入れていくのがいいのかなと思いました。今、自分の町のことで正直なところ手いっぱいという感じですが、それを今度は、南信州、そして三遠南信に広げていくには、どのような形に持っていったらいいのかなということをお願いしながら皆さんのお話を聞いていた次第です。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

それでは、地域づくりサポートネットの山内様、よろしくお願ひいたします。

## 特定非営利活動法人

### 地域づくりサポートネット 山内理事長

私は、今回の住民セッションの取りまとめ役として、住民セッションで議論した2つの内容を報告させていただきます。

まず、1つ目は三遠南信ビジョンの振り返り、もう1つは、住民セッションの中で3つの提案とそこでの議論を紹介させていただきます。

まず1つ目のビジョンの振り返りでは、住民団体が主体的に関わるプロジェクトとして「塩の道風景街道の体制づくり」があります。塩の道、すなわち、塩の道自体を言っているわけではなくて、南北軸の川筋

とか街道を通じた連携軸のことを総称しているもので、風景街道による官民一体の体制づくりというものです。風景街道は、道路でつながる地域が地域の資源をうまく活かしながら、磨き上げ、それを後世に伝えるという国土交通省の風景街道の施策です。中部ブロックのエリアを見ると長野県の南信地域には比較的たくさん登録されており、木曾、伊那、南信州では、実は7ルートも設定されています。その中で、秋葉街道や遠山郷のまつり古道の風景街道などが登録されています。南へ下がり、愛知県三河、さらには静岡県遠州というのは、浜名湖を除いて現在は風景街道の取り組みはありません。同じ静岡県を見ますと、伊豆地域、富士山の「ぐるり富士山」。静岡市内の東海道宿の「東海道2峠6宿」。大井川流域の南アルプスへの道という「お茶街道」。あとは、こちらの遠州地域では、浜名湖のサイクリングロードが登録されています。

しかし、三遠南信の南北軸・川筋、秋葉街道とか豊川筋などについては、なかなかそのような連携軸がありません。三遠南信の連携軸のプラットフォームとしてこのような風景街道も手法の1つであるということではありました。この風景街道の体制づくりというのは、ビジョンの中では市民団体等を中心に事業内容を検討することになっておりましたが、そこまでは至っていません。風景街道とは何か？というようなところの話し合いも緒についていないという状況です。

今年、浜松市制100周年の記念事業の中で、静岡県側の天竜川の川筋だけでも何とかならないかということで、私たちが、天竜川ネットワークをつくる取り組みを始めています。また、県の事業として「川筋の往来文化」を街道観光につなげていく調査も行っています。昨日も、その事業の一環として天竜川エコツアーを実施して、北遠三

霊山をめぐる旅、それから中央構造線を学ぶ旅を行ってきました。大変に好評で、参加者からも非常に高い評価をいただきました。同じ圏域の飯田市で行っているグリーンツーリズムや体験教育の先進的な取り組みを学び、遠州の自然や歴史文化を活かしながら、うまく観光にもつなげながらその風景を情報発信して、そこに人を呼び込んでいく、そのような仕組みを地域の中でつくっていく必要があります。これは国土交通省の施策でもあるので、住民団体だけでなく、国や自治体、道路管理者も関わらないとできない仕組みになっていますので、それはこのようなサミットの中でもしっかり議論していく必要があるのかなと思っております。天竜川筋、あるいは豊川筋の連携軸ができると、この塩の道エコミュージアムのプロジェクトに合致してくるのではないかと思います。南信州では「秋葉街道信遠ネットワーク」ができ上がっているのです。そこにつながっていくことも可能かと思えます。まず、それが1点です。

それともう一つ、実は住民セッションができて今回で3巡目に入ります。これから3巡目の3年間の中でどうするかということで、今までの自分たちの活動を知り合うところからもう一歩進めて、実利があがるビジネスにつながるような取り組みをしながら、自立できる活動にしていけないといけないうような考えのもと、仮称ですが「ローカル商社プロジェクト」という形が提案されました。中でも三遠南信アミの中野さんから特産物や農産物をBtoCとか、あるいはそれを流通や販売などにつなげ、外へ発信していく提案がなされました。それを三遠南信の中で、やりたい人たちが、この指とまれ方式で、自分たちの責任も含めてやっていく。それでないと、みんなで一緒にとってもなかなか進まないから、とにかくやる気のある人たちだけで進める方針です。



先ほどの湖西市長の話と同様に、とにかくやってみるということで、まず今回はプロジェクト提案がなされました。

全部で3つのテーマによるグループに分かれました。もう一つは、グリーンツーリズムやエコツーリズムなど、「着地型観光」の仕組みを三遠南信の圏域の中でもうまく連携していくプロジェクトです。資源はたくさんあるので、それをどうやってつなげていくかというような議論がありました。飯田では「南信州の魅力お勧めスポット」という冊子もできていまして、これを三遠南信に広げていって、協賛店など負担金をもらいながら作って紹介していくということです。5つのテーマによるシリーズでつくっていききたいという提案もありました。それから歴史文化を活かした「観光まちづくり」もやっていこうということで、これもこの指とまれ方式で、次に会合を持とうと話しました。

それらを進めていく上で一番重要になるのがやはり「情報交流」です。月並みですが、ブログで三遠南信のいろいろなものを紹介していく、あるいはそれぞれが紹介し合う。ITも活用しながら、アナログの情報誌みたいなものも活用して三遠南信のいいところ、地域の取り組みを紹介していく、そういうものやっけていこうじゃないかということです。何をやるかとか、うちの町はこうだとかということは今までずっと議論してきましたので、今度の目標は、やる気のある人たちで連携して、とにかく事を起こしていこうと。

どの程度までいつまでというところまでは至っていませんが、住民セッションの報告をする機会がないので、ここで時間をいただきまして、住民セッションの議論を参加者皆さんにも知ってもらうため私が紹介させていただきました。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

貴重なご報告ありがとうございます。午前中私は大学セッションの方に出たのですが、こちらにも報告の機会がないということで、少し残念に思っています。

さて、では、てほへ副理事長の大脇様、お願いいたします。

### NPO法人てほへ 大脇副理事長

私は、奥三河の東栄町でNPO法人てほへというものをやっております大脇と申します。

この「てほへ」は、和太鼓の「志多ら」が拠点を奥三河に22年前に移して、20年たったときに自分たちの活動の足元を見て、20年間奥三河に住んで活動している中で、この地域が抱えている色々な問題を目にしたときに、何か自分たちが、和太鼓の演奏グループとして、また地域の住民として何かできないのかなということをグループのメンバーと話し合っ、地域の人に協力をお願いして、NPO法人てほへを立ち上げました。基本的には、奥三河というか東三河、三遠南信、このエリアを元気にしていこうと。私たち、仕事が太鼓打ちなので、お祭りとか太鼓とか、そういう伝統芸能みたいなものを生かしながらできないかなということで立ち上げたNPOです。

私も含めて「志多ら」のメンバーは全員Iターンです。住民票を移して、東栄町民になって活動しています。それで、今、私たちの集落は30軒ほどしかないんですけども、本当に過疎高齢化で、若者がほとんどいない状態のところへ入らせていただいて、色々な関わりを持つ中で、花祭りというお祭りにも参加させていただきながら、私ももう人生の半分以上は東栄町民ですので、半分よそ者で、半分地元の者としてそのお祭りに関わらせてもらっています。そ

ういう中で、やっぱり奥三河とかこの三遠南信地域にはすごくいいお祭りがたくさんあって、そのお祭りというものを地域活性に生かさないと手はないなと思っていますけれども、それイコール観光ではないなということもずっと思っていて、どうやったらそのお祭りを観光という概念に当てはめられるのかなということは課題であると感じています。

すごい大勢の人が来てくれればありがたいですし、お祭りも盛り上がるとは思いますが、地元の人たちの声を聞くと、やっぱりそういうお祭りじゃなくて、自分たちが、この地域で生きてきて、この大地や自然にいらつと言われる神様とかいろいろなものに感謝しながら、そこの村の人がまた一緒に次の1年を頑張ろうというのが本来のお祭りであるということです。その誇りを持って、地元の人はやっているんで、外から来る人にも、理解してもらふ必要があると思います。この地域には町場と比べると不便なところがいっぱいありますけれども、もっと大切なものがあって、そういう地域のお祭りがずっと何百年もこの三遠南信の天竜川水系にいっぱい存在し、それが続いていると思っていますので、そういうものの大切さをきちんとわかってもらって、見に来てもらえるような形ができればいいなと。イベント的にいろいろ祭りを集めて大勢の人に来てもらって、そこで祭りをうまくPRして、地元のお祭りを本当に理解してくれる人や、そういうことに興味がある人が見に来てくれるように、何かコーディネートできないのかなと思っています。

あと一つは、私たちのメンバーの子どもたちとか東栄町の子どもたちが花祭りの会場へ行くとすごく熱い論議をしています。子どもたちは、ふるさとの誇り、自分の誇りだと思っています。そういう子どもたちが、これから外へ出るんですけれども、帰っ

てきて地元で働けるような提案など、こんな町にしたい、町が将来こうなったらいいなというようなことを大人だけじゃなくて、子どもたちとも共有していくと。例えば、将来自分は、調理研究家になって、シカの肉とか、そういうものをうまく生かしたものを自分のふるさとの奥三河でやりたいとか、子どもたちが夢を持てるような種まきをしておかないといけないのかなと思っています。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございました。Iターン者の生の声をお聞きすることができました。どこも人口減少に苦しんでおります。若者がいなくなる限界集落などをいかに守っていくか、大変な問題だと思います。

そろそろ、第1期から第2期に向けて重点プロジェクト、この塩の道エコミュージアムをどのような形で考えていくかということに入りたいと思います。

皆様からいただいたお話の中で、非常に大事なポイントがありました。大平村長さんからは、祭りや植物のオリジナリティが大事ということで、本来、神様にささげるものを観光にすることの難しさ、現地に育ったものをよそで食べさせることの難しさに関するご指摘がございました。横山町長さんからは、いいお祭りをたくさん集めたところ、パニックになってしまったので、その継続が難しいというお話がございました。湖西市の三上市長さんからは、いろいろあってもいいじゃないかと、どんどんチャレンジすることが大事ではないかという大変元気づけられる発言がございました。

牧野市長さんにお伺いしますが、飯田市の山間地の人口減少に悩む地域には、花祭りと同じようなタイプの国重要文化財の小さなお祭りがあり、一方街にはたくさん人

が集まる大きなお祭りが存在します。それから、世界との交流ということでは、ヨーロッパを中心に交流されております。そういう状況から見て、お祭りのオリジナリティを大事にしつつ、観光に生かしていくことに関する市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

### 飯田市 牧野市長

大脇副理事長さんからお話があったように、お祭りを地域の宝として、誇りとして大事にして、それを継続してやっていくという考え方は非常に私も大事なことだと思いますけれども、一方で先ほど大平天龍村長さんが言ったように、高齢化が進み、後継者不足になってくる中で、そうしたお祭り自体もなかなか維持できなくなっている中山間地域の状況もあるわけです。

遠山郷の霜月祭りも、この数年、だんだんと担い手の皆さん方が高齢化して、そうしたものがなかなかやりにくくなってきているというのは実際あるところなんです。そうした中で、どうやってこれから継続的にやっていくかということ、どうしても外のＩターンの皆さん方のような、そういったお力もお借りすることは、やはり必要になってくると思います。伝統文化芸能としての重要性はもちろんあるわけですが、担い手がいなくなることにより、そうしたものが廃れていってしまうのもやはり大きな問題です。これをどのような形でバランスよく継続した文化として次の世代に継承していくかということ、非常に重要なことだと思います。

私は、そういった地域の文化とか風土というのは、その地域のまさにアイデンティティ、その地域らしさに直接かかわるところだと思っていますから、中山間地域や、あるいは他の街中でもそうですけど、そういったものを継続できなくなるとい

は、その地域らしさが失われていってしまうことに直結すると思っています。やはりそうしたものをどのような形で継続していくかというのは、行政だけではとてもできることではありませんので、まさに多様な主体で、みんなで考えてやっていくことが必要だと思っています。

それと、羽場さんからもお話があったように、世界に向けた発信ですが、そうしたものをどのように情報発信していくかということは、三遠南信地域では、実は余り得意な分野じゃないのではないかという気がしています。みんな奥ゆかしいものですから、自分たちの宝は自分たちで楽しめばという部分を持っていらっしゃると思うんですけど、やはりいいものは情報発信をして、その価値を幅広く知らしめてこそという部分があると思います。そう考えると、もちろんたくさんの人に来てもらって、祭り自体が壊れてしまうようなことがあってはならないですけど、ああ、あの地域はこういうことをやっているんだねということ、みんなに知ってもらえるような、こうした試みというのはやはりやっていく必要があると思っています。

そういうことを通じて、さっき申し上げたような、外からそういったことに関わっていききたいというＩターンの皆さん方も出てくる可能性もあるわけですし、地域の中だけで縮小的な、均衡的な形になるよりは、むしろそうした情報発信を高めることによって、U、Iターンの皆さん方にもこの地域に来ていただいて、できれば定住化につながっていけばと。まさに地域の魅力に引かれて、新しいこの地域の将来を担う人材が、そこに呼び込まれるような仕組みを三遠南信の中につくっていければという思いを持っているところであります。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございます。

ここから先はオープンにしたいと思えます。今まで、さまざまなポイントが指摘されているかと思えますので、ご意見のある方、お願いいたします。

### 湖西市 三上市長

1つぐらい、これだけは合意しましたというのがあったほうがいいかなと思います。今日は、一番最初に祭りから始まって、最後、東栄町の祭りで終わるといった形になったわけですが、話を聞いていて私もご近所の割には行ったことがないなと感じていましたので、せっかく三遠南信で交流するのなら、まずは祭りを見に行こうと。みんなで見に行こうというのを来年、1回はやりましょう。とにかく祭りを見て、ここに今度集まるときには、自分はあることあるその祭りを見たぞというような会合にしても良いのではというのが私の提案です。みんなでご近所の祭りを見してみようじゃないかといって、最低1年で5カ所以上は見るとか。同じ日にいっぱいやるということはあるんだけど、5カ所ぐらいなら見られるかなと。本当はできれば2桁見たいと思えますけど、少し大変かなと思ながらの提案であります。

### 設楽町 横山町長

今、三上市長さんが言われたように、我々が、地域においていろいろ議論はするのですが、実際に地域のことをみんな知っているかということ、案外知らないものもあるのではないかと思います。やはり自分の地域で悩んでいることは、隣の町でもその隣の村でも同じなのだろうと。

そういう中で、三遠南信でこれだけお祭りがあるということだったら、みんなで外

国の方々にも発信していこうじゃないですか。これは一緒になってやる話だろうと思っておりますので、海外へ向けた発信を行いながら我々自身も確認をしていこうというような提案でありますので、これは同意ができる話であると思えます。

## コーディネーター

### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

事務方で細かいことはもう少し詰めていく必要があるにしても、首長の皆さんとしては、一緒に祭りを見に行こうじゃないかという呼びかけについて、決議しておいたらどうだろうというご意見ですが、いかがでしょうか。

### 松川町 深津町長

大変いいんじゃないかと思えます。やっぱり現場に接するという事は非常に大切なことだと思います。

### 地域づくりサポートネット 山内代表理事

この地域は、伝統芸能、民俗芸能も含めていろいろな祭りが盛んで、こういう文化が、まだ脈々と続いていると思えます。先ほどおっしゃったように、どこのまちや地域でも、その祭りの担い手をどうすべきかそろそろ過渡期になっている部分があります。浜松の山村部の民俗芸能でもそうですし、町なかのお祭りですらそういう部分もあります。浜松の勝坂神楽なんかはよそから担い手を受け入れたりしてやっているので、今、私どもで指定管理をやっている市民協働センターで、担い手を募集して、都市と山村の交流をしながら、できれば定住まで結びつけばということで取り組みを始めています。そういった担い手というのにも少し焦点を当てて見に行くということがまちづくりにもつながっていくかなと思えます。



## **NPO法人てほへ 大脇副理事長**

「志多ら」も、大体いつも全国ツアーとか海外に公演に行ったりするのですが、その最後に「花まつり・志多ら舞」という花祭りをモチーフにした演目を必ずやるんですね。それは、この会議室ぐらいのスペースの、真ん中に釜があって、湯がたいてあって、たくさんの人が入って、歌を歌いながら、笛の拍子と太鼓に乗って踊るんですが、和製ディスコじゃないですけど、すごく一体感が生まれます。「志多ら」の公演のときにも、ステージの上にお客さんにも上がってもらって、一緒に祭りの本当の一体感を感じてもらえるような演出をしながらずっとやってきたんですけども、ただお祭りを見るだけじゃなくて、体感してもらおうというのはすごくおもしろいなと思います。海外にツアーに行っても、海外の人も、やっぱり本物を見たい、本物を体験したいという思いがすごくあるので、2年ぐらい前に20名ぐらい、海外から1週間ぐらい「志多ら」のけいこ場に泊まってもらいながら、本物のプロの練習をやってもらいました。本物のお祭りを見たい、苦労してもいいから来たい、大変でもいいから体験したいという、そういう思いの人たちも多いのではないかと思います。実は私も、なかなか都合がつかなくて花祭り以外のお祭りに行ったことがないので、そういう機会をつくってもらえるとうれしいなと思います。

## **コーディネーター**

### **財団法人阿智開発公社 羽場理事長**

この分科会の事務局でもございます飯田市の牧野市長さんに、皆さんのご意見を踏まえまして、これから第2期に向けて塩の道エコミュージアムを形成していくためにどのように考えていくか、それから三上市長さんからの具体的なご提案もございましたので、まとめていただきたいと思います。

## **飯田市 牧野市長**

本当に大変貴重な意見交換の場になったと思います。三上市長さんからもご提案がありましたけど、こうした意見交換をこの場限りで終わらせるのはやはりもったいないと思います。来年に向けて、やはり継続的な取り組みをしていくことが2期の推進事業にもつながっていくのではないかとということで、まずはそれぞれの祭りを見に行こうというお話をいただきました。

特に、実際に祭りの中心でやっていらっしゃる大脇副理事長さんからもお話がありましたけど、得てして自分のところに一生懸命になってしまって、ほかのところがどのようにやっているか、実は、学ぶ機会が少ないというのはよく聞く話で、本当は、そういったところでお互いに学び合って、いいところを取り入れ合って、それぞれの祭りに活かしていくということができたほうが本当はいいのですが、何かのきっかけがないと難しいと思うんですね。三遠南信の中でも、そうしたまさに主体になってやっている皆さん方が、それぞれのやっていることを学び合うような、そういう仕組みをつくっていくことが非常に大事であると思います。

それから、先ほど中野さんのお話の中に出たことで、意見交換の中で余り触れられませんでしたけど、小さな経済をつくっていくというのは、これは非常に大事なことで、祭りにおきましても、私は担い手の話と資金の話と両方あると思っていて、やはりお金がきちんと回るような仕組みも、あわせて考えていく必要があると思っています。昔ですと、いわゆる旦那さんたちがいて、みんながその所望を出してくれて、それでその祭りが成り立っていたということがあったと思うんですけど、その旦那さんたちがもう今ほとんどいなくなっているわけです。商業をやっているらっしゃる深

津町長さんはその辺りは痛感されていると思いますけど、そうすると資金が回らなくなってくるという話が出てくるわけです。この資金をどうやって回すかということもあわせて考えていかななくてはいけない。そういったものを例えば環境産業のおひさまファンドでやっているような形で、市民や地域住民からファンドの形で集めて、そしてこの基金をつかって、そこからこういった風土を守るような事業に展開するようなことも、これから考えていかなければいけないかもしれない。人材と、それから資金、お金の流れ、これが両方うまく回るような仕組みをぜひこの分科会から発信していくことができると、思ったところです。

#### コーディネーター

##### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

ありがとうございました。皆様のおかげで大変活発な議論となりました。

最後に、牧野市長さんのお話を受けて、総括をさせていただきたいと思います。

まず、最初のパートですが、第1期の振り返りということ、4年間やってまいりまして、うまくいったこともあったけれども、難しいこともあったということでした。特に、祭りとかその地域にある食べ物等を外に広げていくことについては、難しさがあるということでした。うまくいくこともうまくいかないこともあったということですが、チャレンジしていくことが大切であるという力強いご指摘もありました。

それから、学びを一つの資源にしていくということが大事なことであるというご指摘もありました。さらには、少子高齢化が課題となっていますが、UターンやIターンで人材が地域に戻ってきてくれる、あるいは来てくださる、それによって地域が活性化するというのも特に中山間地域では大事ですし、あるいは都市そのものがそれ

で成り立っているということですので、そういう方々に来ていただけるような情報発信というのも非常に大事であるということです。

それで、三上市長さんの提言ですが、様々な仕掛けがあるかと思しますので、また事務方の皆さんにぜひ頑張ってくださいと思いますが、例えば、桜の花見に首長さんは首長さん同士で呼んで花見の会を開くとか、あるいは民間の皆さんは民間の皆さんで、アーティストはアーティストの皆さんで交流会を開いて、そのお祭りに席を設けるとか、様々な方法があるかと思いません。ぜひお互いにパーティーを主催していただいて、招待状をしっかりと出させていただくというようなことが今日の決議ということでよろしいでしょうか。反対がなかったので、「決議」としておきたいと思います。

それから、小さな経済をつくるということが指摘されました。特に原発を受けて、私たちの試みは非常に大事なものになるかと思しますので、これも考えていきましょう。それから、いかに人材バンクをつくっていくか、そして、地域ファンド等の方法を使ってお金が動いていくようにすることが提言されました。これらを進める中で、ビジョンに掲げられた塩の道エコミュージアムの確立に向けて着実に進めてまいりましょう。具体的に一つずつやっていきたいと思います。

## 7 「山・住」合同分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu

「山・住」分科会では、「①中山間地を活かす流域モデルの形成」「②広域連携による安全・安心な地域の形成」をテーマに、「東日本大震災から学ぶこと」の報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

コーディネーター	豊橋技術科学大学	教授	大貝 彰
報告者	浜松市危機管理課	課長	松永 直志
行政	豊橋市	市長	佐原 光一
	豊根村	村長	伊藤 実
	阿智村	村長	岡庭 一雄
	根羽村	村長	大久保 憲一
	売木村	村長	松村 増登
	泰阜村	村長	松島 貞治
	豊丘村	村長	下平 喜隆
	大鹿村	村長	柳島 貞康
経済	森町商工会	会長	山本 充喜
	鳳来商工会	会長	片桐 幸信
住民	浜松市市民協働センター	センター長	長田 治義
	NPO法人びすけっと	前代表	福沢 千恵子

(敬称略)

### ■はじめに

コーディネーター

豊橋技術科学大学 大貝教授



豊橋技術科学大学の 大貝と申します。22年度まで5年間ほど、三遠南信地域を対象にした中山間地域の定住の問題、天竜川の

土砂管理の問題、さまざまな環境絡み、定住絡みの調査研究を進めてまいりました。その関係もありまして、本日コーディネーターを務めさせていただきます。

本日はまず、三遠南信地域連携ビジョンの山・住における重点プロジェクトについておさらいをしたいと思います。

続きまして、浜松市危機管理課の松永直志課長から、「東日本大震災から学ぶこと～三遠南信地域における防災連携のあり方～」についてご報告をいただきます。

それからビジョンでは、23年度までの4カ年を第1期と位置づけております。これまでの重点プロジェクトや推進体制について、ご検証をいただいて、24年度以降、第2期に優先的に推進する事業等について、

ご意見をいただければと思っております。

それでは、重点プロジェクトについて説明をしたいと思います。

山のプロジェクトの1点目が「健全な水・物質循環」の構築に向けた共同プロジェクトの推進です。これは、国土交通省や県、市町村あるいは住民レベルで、ダム再編や海岸侵食、水質浄化など各種事業が進められています。これらを三遠南信地域の広域連携の中で活用するという考え方になっております。2点目は、「上流域と下流域の自治体が連携した流域定住の推進体制の整備」ということです。空き家や貸し家、遊休施設を活用して、流域定住や二地域居住など、都市住民の中山間地域へ誘導する取り組みを示しております。3点目は、住の政策、「医療分野の県境を越える連携の促進」です。公立病院の広域利用や県境地域の医療施設の情報発信、ドクターヘリの県境を越えた活動支援などで、住民生活の安心を確保するための基本となるものです。4点目は、「三遠南信地域内住民に対する公共施設の広域利用推進」です。地域住民均一の利用料金の設定や、県境を越えた広域利用の促進する情報発信について示しております。5点目ですが、「県境を越える防災体制の強化」です。現在、三遠南信災害時相互応援協定を締結しており、それに新たな必要項目を追加するほか、道路機能を充実させ、緊急輸送路をしっかりと確保していこうという考え方が示されております。それでは、浜松市の松永様より「東日本大震災から学ぶこと」についてご報告をいただきたいと思っております。

## ■報告

### 「東日本大震災から学ぶこと」

#### 浜松市 松永危機管理課長

浜松市危機管理課の松永でございます。三遠南信地域における防災連携のあり方、

東日本大震災、昨今の台風15号と、それらへの対応の中で、今感じていることについて発表させていただきます。

まずは、東日本大震災の特徴、広域複合大災害とありますが、今回の震災をとらえてつけた名前になっています。被災地域が、東北3県、関東の広い地域におよびました。

それから、地震、津波、原発、いろいろな災害が複合したことによって、さらにその被害を拡大させています。

また、阪神・淡路大震災のときには、神戸が中心でしたが、避難地域が全国各地となっています。最大値1週間で38万6,000人ほどの方が避難者となっており、これは現在も続いている状況です。死者、行方不明者も1万9,000人を超える方が犠牲になっています。

そうした中、知事会などの要請によって、全国の各市町村から物資を集めて提供しています。また、人的支援についても、発生日から緊急消防援助隊などを派遣し、6月末までに延べ5万6,923人の自治体職員を派遣しています。

そして、災害ボランティアセンターが、各県において設置され、多くの方が被災地に足を向けて頑張っていただいています。

また、これは今までになかったことですが、被災地から浜松市に被災者が避難をされおり、同様の例が全国で見られます。9月22日現在、全国で7万3,249の方が避難をしております。被災者に対して、独自の支援を構築している自治体もございます。浜松では、3月22日に浜松市被災地支援対策本部会議を立ち上げ、市の公式ホームページにも、東日本大震災専用ページなどを用意させていただきました。また、3月24日には先遣隊を被災地へ送り、4月5日には、情報の一元化という目的のもと、被災地・被災者支援センターを開設しました。

では、三遠南信災害時相互応援協定につ



いてですが、これは平成8年に締結されました。三遠南信地域内に災害が発生した時に、職員の派遣、資機材や物資の提供、貸与、救援物資の提供、被災者の一時受入れ、こういった支援を行っていくということです。内容を見ると、東日本大震災という広域災害が起こっても、同様の対応ができるという状況になっているかなと思います。

ただ、現実の対応としましては、過去に2例、平成11年のときに豊橋市で竜巻の被害があったときに、浜松市からビニールシートをお送りしたことと、昨年7月に飯田市で起こった豪雨があった際、そこに給水活動で各市町が応援に駆けつけた、という例がございます。まだまだ具体的な対応というのは、経験値がないということになろうかと思えます。

それから、三遠南信地域のデータですが、面積5,733km<sup>2</sup>、人口は200万人、広大なエリアの中に、多くの人口を抱えています。資料集に80%を超える森林面積と書いてございますが、正確には85%を超えていると思えます。ということは、土砂災害の危険は、現在の異常気象の状況の中では、気をつけなければならないものであると考えています。

そうした中、平成23年9月21日に台風15号が浜松市に上陸し、中部電力が戦後最大の停電を起こし、浜松でも8万世帯規模の停電がございました。

資料集にあるのは消防ヘリの「はまかぜ」の調査で判明した被災状況です。9月21日の4時ごろですが、こうした情報は、私たち災害対策本部を設置している危機管理課のほうには、情報としてそれまで入ってこなかった状況です。

ですので、消防ヘリの活用が功を奏して、被害状況の把握ができたこととなります。

資料集に掲載しているのは、春野地区ですが、土砂崩れ、道路崩壊、いろいろなも

のが発生しています。

そして、災害対応の課題ですが、土砂災害が起こると、停電、河川氾濫、道路の損壊、土砂崩れ、孤立集落の発生等、様々な問題が生じます。現在も浜松市において、2世帯3人の方がほぼ孤立に近い状態になっていますが、地域の方の支援で、生活をしている状況です。

そして、こういった災害が起こると、指揮命令が混乱をしまして、初動の遅れにつながっていく状況がございます。

浜松市は、自然が非常に豊かな街です。天竜川、浜名湖、遠州灘があり、日常では自然豊かな街ですが、面積だけでも全国で2番目の面積を持っていますから、津波の心配があるところ、土砂災害の心配があるところ、河川の洪水の心配があるところ、都市型災害の心配があるところ、いろんな顔を持っています。その一つ一つを考えた上で災害への対応をしていかなければいけないという状況がございます。

そして、浜松市の現状ですが、東日本大震災以降の取り組みとして、地域防災計画の見直しの中で、防災施設、資機材などの見直しや非常配備体制の見直し、そして津波対策の見直しも、取りかかっている状況です。また、地域防災計画にかわるものとして、市民の皆さんにわかりやすい形で7つの区版の避難行動計画を策定する準備をしています。

それから、行政だけの力ではなくて、企業、住民の皆さんの力を借りて、みんな一つになって対策を考えていくということで、こういった体制の構築を目指していこうと考えているところです。

今後の防災連携のあり方ですが、住民、経済界、そして行政、この3つが、危機管理やコミュニティづくり、自主防災組織の育成、地域貢献を図っていくことが重要になると思います。

そして、この防災連携を現実性のあるものに変えていくための鍵は、防災力の強化にあると思います。住民の立場からは、水や食料、簡易トイレの備えですとか、家屋の耐震補強や家具の転倒防止など、ご家庭でできることをしっかりやっていただく。そして、地域内の点検、実践的な防災訓練の実施、こうしたことを一生懸命考えて、それを実践していただく。

企業の立場からは、東日本大震災のように、企業が被災しますと、雇用の問題、また産業の空洞化等の問題が生じますので、BCP（事業継続計画）の策定、それから防災訓練の実施をしながら、地域との連携を図っていただく。それぞれの防災力を改めて検証していただいて、本当の意味の防災連携が図れるような体制をつくるのが大事と思っています。

以上で報告は終わらせていただきます。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ただいまの報告内容について、何かご質問があればお伺いしたいと思います。

#### 質問者

ご説明の中で、ヘリが飛ぶまで状況がわからなかったとありますが、それは、通信網が遮断されたからですか。

##### 浜松市 松永危機管理課長

はい、1つは通信網の遮断というのがございます。本来ですと、いろいろな河川の状態がわかるセンサーがあるのですが、そのところには、そういったセンサーがなかった、停電によって電話連絡がつかなくなってしまい、そういった情報が入ってこなかった、というのが大きな原因になっています。

#### 質問者

今の最後の対策のところ、BCPというお話があったのですが、その説明をお願いします。

##### 浜松市 松永危機管理課長

災害が起こったときに、企業はその存続を図っていかなければいけません。

また、災害時と平常時という違いの中で、普段やっている業務の中で、優先順位を決めて、どこかを削って、災害対応として当たっていくかという、そういった行動計画をあらわすのがBCPです。例えば自治体で言いますと、新型インフルエンザが流行して、職員がインフルエンザにかかってしまったときに、どんどん人は足りなくなっていくしますので、平常時における業務をどう削って、自治体の活動を維持させていくか、ということになるかと思います。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

行政、大企業では既にBCPを策定しているかと思います。問題は、中小の企業が、災害が起こったときに、どれだけ早く業務を再開できるか、にあると思っています。

また、防災のときの情報をいかに速やかに、正確に収集していくか、これは一番大事なことですが、いざ災害が起こると、そういう問題がどうしても起こってしまう。どれだけ事前の備えをしているかというのは、極めて重要な話だと思います。

#### ■ 議論・意見交換

続いて、重点プロジェクトについての話です。山・住合同分科会では、合わせて5つの重点プロジェクトが掲げられています。

第1期におけるプロジェクトの評価、議論をしていきたいと思いますが、お手元の資料集に、今の5つのプロジェクトの第1

期工程表というものが掲載されております。これは、昨年8月のSENA委員会で決定された工程表で、現在までの進捗状況が記載されています。

これをもとに、プロジェクトの評価と、第2期で優先的に推進するプロジェクトについて、ご意見をいただきたいと思っております。

### 豊橋市 佐原市長

まず、健全な水・物質循環のところですが、一つ大きな目標として掲げておりました三遠南信流域都市圏の活力向上プロジェクト、これは、中部圏広域地方計画にリーディングプロジェクトとして載せていく方向となりました。

国へ皆で働きかけた結果、選定をされたということで、目標を達成したと思っております。それから、東三河においては、水の問題については、設楽ダムが一番大きな課題になっていると思っております。現在検証作業中ですが、一体となって、国に、必要性、そして再検証の過程での意見を述べさせていただいているところでございます。

水について言いますと、水に恵まれているところと、恵まれていないところと、それぞれ感じ方が違います。

東三河も、豊川用水によって渥美半島の農業が先進的農業に変わったことを感じている地域、それから洪水等の心配を感じている地域、それぞれで違ってまいります。

私どもの街は、生活用水に関して言うと、非常にいい水を飲んでおります。山のお蔭で、こんないい水が飲めているんだよ、ということを知ってもらうために、水道水をペットボトルにして販売したところ、大変好評でございました。一方では、保存期間も長い水ということですので、災害時にも普段飲んでいる水で生活ができてよかった、ということになるものと思っております。

それから、上流域と下流域の自治体の連

携の推進関係でございます。東三河では、東三河シニアリフレッシュ事業、極・奥三河というのを展開させていただいております。2泊から3泊の地域体験プログラムを実施し、参加者から好評を博しております。21年度から始めておりますが、22年度は、これを10日から30日と、短期から中期、それから長期へと目指しております。地域産業支援プログラムという形で実施しておりますが、今年は養殖漁業という形で4名の方が参加されております。

住の方で申しますと、一番大きく取り上げられるのは、医療と県境を越える防災です。防災への関係で、航空消防応援協定というのを結ばせていただきました。これは、浜松市の持つておられるへりを利用していただくということで、東三河、そして南信州広域連合で提携し、県境を越えての住民の生活の安全・安心を守るため、大いに役立っております。

それから、2番目の公共施設の広域利用については、平成21年度から浜松市と飯田市と豊橋市、3つの市が持つております美術館の連携事業を行っております。三遠南信交流展を開催することで、着実に文化面での交流が進んでいると思っております。

あとは、それぞれの地域が持っている公共施設をどうやって統一して利用していくか、そんな仕組みづくりに、これからはうちちょっと力を入れなければいけないかな、と思っております。

### コーディネーター

#### 豊橋技術科学大学 大貝教授

山・住含めて、これまでいろんな取り組みが行われてきているわけですが、その評価について、ご意見をいただきます。

### 豊根村 伊藤村長

佐原市長から、平野部からのコメントが

ありましたので、一番上流部の豊根村からお話をさせていただきます。中流域、下流域、上流域の相互理解はもっと深めていかなければいけないと思っております。

今、愛知県の森と緑づくり税という大きなプロジェクトの中でいろんな事業をさせていただいていますが、やはり行政の壁をどうやって乗り越えるかというのが大きな課題と思っております。

上流域の役割をしっかりと果たしていく、中流域も役割をしっかりと果たしていく、それぞれ市町村でやるんですけども、行政の枠を超えた取り組みがないと、なかなかうまくいかんだろうな、と思っております。流域一体というなら、その壁をどうやって乗り越えるか、また、国にそこをどういうふうに訴えていくかというのは、ダムの問題等を考えるときに、そのことが1つ進めば、クリアできるのかな、と感じております。評価というより、そこが一番問題じゃないか、と思っております。

#### コーディネーター

#### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございます。行政の枠を超えて、民間、地域住民も含めた、特に水の問題ということで理解しました。

#### 根羽村 大久保村長

長野県の根羽村です。矢作川の流域、最上流が根羽村でございます。すぐ隣は愛知県豊田市、下流に安城市とあるわけでございます。この流域は、上流、下流の長い歴史を持っており、行政と民間、自治体同士がいい関係で地域づくりをしています。

その中で、上流としては、こんなことをしたいから、下流の皆さん、応援していただけますかとか、下流の皆さんは、こんなことをしたいから、上流の皆さん、応援していただけますかという、お互い要望する

ところを素直に出して、できることを助け合う仕組みが大分できたかな、というのが現状でございます。

特に、流域連携については、まず一つの川が連携して、それが今度は圏域のようところで連携していくと、また大きな仕組みになるのかな、と感じておるところでございます。

それから、住の医療の関係ですが、根羽村はちょうど愛知県、静岡県の間ですので、ドクターヘリとか救急ヘリは、長野県の佐久と松本からも来るようになりましたけれども、どうしても遠い場合は、愛知医大か浜松からも出ていただいたことがございます。非常にありがたいな、と感じているところです。

#### 阿智村 岡庭村長

阿智村の岡庭でございます。

山の問題ですが、実質、中山間地域問題の最大の課題というのは急激な人口減少なんですね。嫌な言葉ですが、限界集落と言われるような集落の壊滅、そういう状況に立たされているわけです。

平成12年に、根羽村、平谷村、阿智村で西部山麓災害というのがあったのですが、非常に大きな災害で、今まで荒れたことのない山が荒れる状況がございました。ああいう災害が一度起きれば、山の崩落というのは、止めることができなくなるのでは、と非常に危惧しておるわけです。

そういう点から、水系ごとにどういう形で連携ができるかということが重要で、この3圏域全体というよりも、水系ごとの連携ということが大切になるのではないかと。

根羽村の大久保村長のお話がありましたように、矢作川水系の連携というのは非常にうまくいっています。豊川の水系のお話もございました。天竜川水系は、どうもうまくいっていないと思います。というふう



に、重点プロジェクト工程表にあるような形では、上流域と下流域の連携、共有化というのが、進んでいないのでは、という気がしています。これからの課題は、水系ごとの連携共有化をどういう形で進めていくかということ、重点的に考えていかななくてはならないのでは、という気がしております。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございます。今のご指摘は、今後について大変重要なご指摘かと思えます。三遠南信という枠組みに捉われずに、もう少し幅広く問題を捉えていく必要があるのかな、と思います。

#### 泰阜村 松島村長

下伊那郡泰阜村の松島でございます。天竜川水系に泰阜ダムがあり、その下が平岡ダムで、その下が佐久間ダムです。

一貫した土砂管理、堆積土も含めた活用の話が、三遠南信サミット開始当初から言われてきていますが、いろいろなハードルがあって難しい。こういった計画の中で、少し具体化できるようになるとうれしいなという感想です。

それから、豊川の水系の皆さんが豊川水源基金というのをつくっておられて、山の整備にお金を出していただいております。

最近、山は国で言うほど、そんなに大事にされてなくて、投資しても返ってこない、ということもあります。山に投資できないと、間伐とか除伐とか、いろんな手入れが、投資する人が限られているため、せっかくの基金を、昔のようにうまく使うことができないということがあります。したがって、ご理解が得られるのなら、矢作川水系の根羽村さんが上手にやっておるように、水源基金みたいなものをもう少し拡充して、山

村が本当に使える、使い方の議論ができたらどうかな、と思っております。

それから、流域定住の話は阿智村長が言ったとおりでして、山村に住む人が減る危機的な状況で、どんな情報提供をすれば、上流に興味を持っていただけるのか、暗中模索の状況です。ここまで積み重ねられてきた三遠南信の連携というのは大変にすばらしいものだと思っておりますが、私どもの南信州定住自立圏構想だけではなく、もしSENAが広域連合等を将来的に検討するのであれば、そういう広い中で、定住自立圏のような考え方ができていかなのかな、と思っております。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

豊川の水源基金というのは、どんな仕組みか説明いただけますでしょうか。

#### 事務局

主に豊川水系の恩恵を受けている下流域で基金を募りまして、それを上流域に還元するという考えのもと、間伐、除間伐等に使っています。林道整備であるとか、除間伐を行う人材育成等、水源林の保全に役立つものに使っています。

#### 鳳来商工会 片桐会長

鳳来商工会の片桐です。豊川水源基金のシステムは、矢作川の例が、モデルになっております。まだ十分だとは思っていませんけれども、山林のいろいろな整備に使ってはおります。湯谷温泉で言えば、温泉施設「ゆ〜ゆ〜ありいな」、名号の「うめの湯」の整備、そういうものに幅広く使われております。これからもっと整備して、使い勝手のいいものにしていただけたらいいな、と思っております。

それから、この前の台風15号のときに、

奥三河も厳しい状況にさらされました。山へ入りますと、風倒木が風の通り道に全部ばたばたと倒れております。特に、国道151号が豊根村へ入る手前のトンネルは崩落している。あるいは、新城市から作手に上がる301号が不通になっている。それらの復旧も、3月、4月はめどが立たない。奥三河は、今、交通が寸断されている状況であります。

この前の出水を見てみますと、上流にある宇連ダムは、洪水調節能力がないので、台風が来る寸前でも、ほぼ満水状態です。雨の一番ひどいときにダムを越流して流れる水と合わさって、ものすごく高い水が出るわけですね。

その点、東三河で目標としています設楽ダムは、洪水調節能力が2,000万トンございます。豊川水系では、設楽ダムの建設がこれからの大きな課題だし、実現したいものだな、と考えております。

### **大鹿村 柳島村長**

水問題で1つ。天竜川は、山地からの土砂の供給が非常に多い川です。大鹿村のすぐ下流に小渋ダムがあるのですが、100年の予定が50年でほぼ埋まってしまうという、土砂の流出が非常に多いところです。

国土交通省で、ダムの土砂を洪水時にそのままダムにためないで、ストレートに流すという大工事をやっています。工事に4年、5年かかって、それから運用が始まるということです。数十億円の費用がかかるけれども、砂が天竜川に供給されて、治水に役に立つという考え方でやってくれます。洪水調節用のダムとして、しっかり小渋ダムの機能を発揮してもらおうという考え方のようです。

上流域、下流域で根羽村さんのような関係を持つとしても、大鹿村へ来るまでに、ダムが4つも5つもあると、どうしても縁

が切れてしまうのかなというイメージは持っております。

それからもう一つ、長野県は、森林税として、住民税に500円上乗せして徴収しています。それが森づくり、治山治水関係にも使われていますが、山地の荒れを防ぐところまでは、いっていないというのが現状だと思っております。

天竜川上流の三峰川では、排砂トンネルの運用を2年ぐらい前からしています。大量の土砂が出たときに、そのまま下流に流す対策をとって治水能力を高める努力をしているということは、下流域の皆さんにも、ご理解をいただきたいと思っております。

### **コーディネーター**

#### **豊橋技術科学大学 大貝教授**

ありがとうございます。天竜川の土砂管理問題は、豊橋技術科学大学の青木先生が研究されていて、上から下まで総合的な土砂管理をどうやっていくのか、なかなか難しい問題のようです。問題は、管理主体がそれぞれで異なっているところで、海岸はそれぞれの市町村、港湾は国の管理なので、管理者が異なるところで、それぞれが個別に頑張っているけれども、なかなかうまくいかないのではないかと、主体が連携をして、トータルでよりよい方向に向けたマネジメントが必要ではないか、という指摘はされているのですが、具体的にどうするかは非常に難しい問題のようです。

#### **森町商工会 山本会長**

静岡県森町商工会の山本と申します。森町は、太田川に注ぐ水源にあるわけですが、昔、やはり山の手入れが悪くて、大変な災害をもたらしました。山というのは、適正に手入れされ、土や植栽された表面、地表が緑に覆われていれば土は崩れない。だけど、手入れがされないために、地表の草も

低かん木もない状況になり、自然の中でさらされた土砂が、風や雨によって下へ流れる。それが、大量の雨によって、土砂崩れの基となる。こういう経緯で大きな災害があったわけですし、今回の奈良地方における災害も、やはり山の営利を追求する余り、現況では手が入らない、そういう中で起きた災害ではないか、と思うわけです。山というものは、手入れがうまくいっていないと、そういう災害を起こすということ、雑木あるいは草木がこれらを防ぐ一方で、水源を涵養しているということが、忘れられてしまっているのではないかと思います。それを思い起こし、山の原点、水源涵養は何だということを考えて、施策を講じていく必要がある、と改めて思いました。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございます。

最近の水害等が起こるにつけ、そういうことを改めて考え直します。中山間地域、山の役割というのは、日本の国土そのものを保全する重要な役割を果たしてきたわけですが、どうも最近少しずつ、いわゆる地球温暖化の影響、集中豪雨等で、逆にそれが明らかになってきているということだと思います。

##### 豊橋市 佐原市長

豊川水源基金を運用していて、一番困っているのは、お金の問題ではなくて、実際やろうと思ったときのオペレーションの問題です。土地の所有者が、東京へ行っていてわからないとか、もう分筆されていて、どうなっているかわからないとか、いろんな権利問題を整理しなければならない。

それから、物理的にそこに入っていったときに、間伐、除伐が困難な山になっていたりとか、色々な問題があります。

さらには、商売にならないから、手放したいという人が結構いるそうです。そういう人たちから、例えば豊根村さんでは、村で引き取ってほしいと、言われるのですけれども、引き取った途端に、民間の管理以上の管理を役所に求められるのです。

単位面積にかかるコストが全く違ってきて、とてもではないけれども、維持管理ができない。実はお引き取りしたくてもできない山というのもたくさんある。たくさん問題がある中で、私たちの水源基金はやっています。矢作川水源は比較的うまくいっているというお話がありました。山の形が違ったり、歴史が違うところとか、あるのですけれども、良いところから学んでということですね。そこで一番難しいのは天竜川です。利権の絡み方が複雑で、ダムもたくさんある。一步一步前に進めることを重点プロジェクトの中でやっていくというのは、すごく良いテーマであるし、豊川水源基金が悩んでいることでもあるので、一緒になって考えていきたいと思っています。

##### 豊丘村 下平村長

下伊那郡豊丘村です。三遠南信地域は、古来、特に天竜川を中心に一体化した場所じゃないかと思うんです。天竜川は信仰の川と言われます。古代は荒玉河、平安時代は天中川と呼ばれて、それが今の天竜川のもとじゃないかなんていう話もあります。かつて、この地域を天竜川沿いに野武士や修験者が切り開きながら流域を開発していったとも言われております。

飯田が生んだ柳田國男研究の第一人者、後藤総一郎先生は、天竜川のことを神の通り路と表現されました。そのくらい文化的に流域沿いにつながっているということでもあります。

学生時代に私も感じたのですけれども、

浜松の人たちは「ぶしょったい」と言うんですよね。飯田は「びしょったい」と言うんですよ。それとか、「何をとってくれ」というの、「何さらとってくれ」「さらさらとってくれ」と言うんですね。静岡の人たちと非常に言葉も似ています。

川を使っただけの経済的なつながりもありま  
すし、すべて文化も経済もしっかりつな  
がっていたのが、時代が変わってきて、道  
だとかダムができ、それが寸断された、と  
考えられるのかなと思います。

三遠南信自動車道ができることによって、  
もともとあった文化や歴史を共有する地域  
が、再び一緒になることができる。そうい  
うように捉えていきますと、上流域と下流  
域の交流の切り口というものが、また違う  
形であらわされるのではないかと思います。

一例として、豊丘村に、幕末の女性国学  
者で今年生誕200年を迎える、松尾多勢子  
という者がおります。彼女は歌の練習のため  
に、当時火防の神様である秋葉様へのお参  
りが盛んだったものですから、浜松から来  
られた秋葉様のお参りの人をお願いして、  
浜松の歌の先生のところへ歌を携えて行っ  
てもらっていました。歌の先生にも同じよ  
うに返してもらって、年に1度とか2度だ  
とか、ゆっくりしたペースではありますけ  
れども、地域の本当の交わり方、連携を完  
成していた。

上流と下流、水のこと、かつての信仰の  
こと、文化のこと、歴史のこと、そういう  
ものを再度この三遠南信道が、本来の文化  
の近いもの同士の手を結びつける、そうい  
う認識を持って、さまざまな問題に対処し  
ていくことが、三遠南信の広域の自立共有  
圏だとか、そういうものの基礎になるん  
じゃないかなと思います。

#### コーディネーター

豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございます。

市民代表のお二方、今までのプロジェクト  
について、評価、ご意見があればどうぞ。

#### NPO法人びすけっと 福沢前代表

長野県飯田市や高森町で福祉系NPO活  
動をしている福沢です。

昨年住民セッションの中で、三遠南信地  
域の交流や情報発信をきちんとしていこう  
と南信州交流の輪ができました。

それで、南信州はもちろん浜松や豊橋の  
方々にご縁ができ、いろいろな活動がある  
んだなということを知りました。

お祭りや道の賑わいを扱っているNPO  
の方、食材を加工して食文化につなげてい  
こうと活動されている方、地域おこしの形  
で地域の人たちにエネルギーを与えている  
グループ、南信州をもっと地域外に伝えよ  
うと一生懸命活動されている、そんな団体  
の方たちとめぐり合いました。

そんな方たちが、お互いのことを知る中  
で「実際に活動しているところで、地域の  
様子を見ながら、話し合いができたらいい  
ね」ということで、この2月に私たちの天  
竜川沿いの事務所に来ていただきました。

その日は大雪が降ったのですが、伊那谷、  
売木村、天龍村とか、私たちの地域からは、  
1時間、1時間半くらいかかる地域からも  
足を運んでいただきました。また、豊橋の  
方からも足を運んでいただきまして、会場  
が熱気にあふれて、ああ、これが本当の交  
流なんだな、と実感を得ました。

中山間地の暮らしというのは、どちらか  
というと後ろ向きに捉えがちです。けれど  
も、地域で活動している方たちは、本当に  
生き生きと、マイナスがあるんですけども、  
それをプラスに生かしながら、発信し  
ています。その姿を目の当たりにして、す  
ごいなと感じました。

顔が見える関係性をつくっていくという



ことが大事で、災害とかといろいろなお話がありました。小さな地域のちょっとしたコミュニケーションがとれているところは、避難や助け合いで強い力を発揮した、と聞いたことがございます。

やはり地域の活動からお互いを知る、こういう関係性ができているからこそできる災害時の支援体制というのがあるんじゃないかな、と思います。これからも、この南信州交流の輪を軸にして、遠州、東三河の方々と交流ができれば、と思っております。

### 浜松市民協働センター 長田センター長

浜松市民協働センターの長田です。NPOや市民団体を中間支援していくことがセンターの役割ですが、市民活動を担う次の人材を育成する役割もあります。昨年、20代から30代の前半の人を中心にそういう講座をやったのですが、浜松市民の中で、ほとんどの受講者が、船明ダムより北へ行ったことがないというのが現実です。

その人たちに、三遠南信という言葉投げかけたときに、知る人はだれもいません。そういう中で、さらに信州とか奥三河に目を向けていくためには、まずは天竜区、それから北区を知ってもらうことから始めないといけないな、と感じているところです。

行政のようにダイナミックな活動はできませんけれども、少しずつ風穴をあけて、北に目を向ける人材を育てていく必要があると思います。

今年から浜松市の中山間地域ボランティア交流事業という委託事業をいただきました。民間の機動力を使って、定住者を何とか大都市圏から持ってこようと、ポスターを東京のすべての区民センターに配っていただきました。

天竜区のすべての自治会や協議会、婦人会、商工会、観光協会を訪ねまして、同じようなポスターで、人が足りないところ、

手伝ってほしいものをどんどん登録してくれ、というお願いを始めたところです。

これが、資料集に有る浜松市中山間地新興計画の推進事業になってくると思います。

春野町の勝坂神楽からは、間もなく継承者がなくなってしまうので、「県外から継承者の募集をかけてくれ」という依頼がありました。「移住してくれる人は、なお歓迎しますよ」ということです。

それから、春野町で芸術活動を行っている家族と一緒にアート村実行委員会を立ち上げて、市民協働センターから全国へ、一緒に山をアートの森に変えてくれる仲間を募集しています。ただ、北遠地域からはたくさんのご要望があるものの、協力者は見つからない状況です。

そこでセンターでは、水窪町で紅葉の下に彼岸花を植えよう、というごく簡単な活動から、北へ目を向かせるツアーを計画しました。これは、少しずつ参加者が集まっているところでございます。

小さなアクションかもしれませんが、中山間地のファンを1人でも2人でも増やして行って、市民レベルで三遠南信という言葉を理解してもらうように進めているところです。

1つだけ、来年はいい報告ができると思うのですが、本田技研の下請で、社員が250名から300名ぐらいの会社がございます。この企業から、CSR（企業の社会的責任）として、「中山間地の交流ネットワークに参加をさせてほしい」、「ある程度の資金の投入も考えている」というご相談をいただいています。協働相手は、行政のみでなく、企業にもあるということをお話していきたいと思っています。

### コーディネーター

#### 豊橋技術科学大学 大貝教授

やはり民の力がないと、こういったこと

はなかなかできないかなと思います。

重点プロジェクトの評価としては、水の話、特に上下流でどう連携していくんだという話にポイントが絞られてきたと思います。住の方の医療分野の連携、あるいは公共施設の広域利用、あるいは防災体制の強化についてはどうでしょうか。

### **豊根村 伊藤村長**

医療分野について、お話しさせていただきたいと思います。豊根村はまさに三遠南信の真ん中にあり、北は長野県、東は天竜川を境にして浜松市と接しております。

医療問題には、新城以北の4市町村で北部医療圏という圏域を組んでいます。浜松まで1時間半ぐらい、飯田市まで1時間強、それから信州路まで1時間ちょっとですね。全部同じ距離感ですが、住民は、飯田市とか浜松の聖隷病院にかかることが多いんですね。医療圏の枠を超えておるわけですが、もう少し機能的にいくのがいいのかなと思っています。行政の枠というのは、やはり住民の生活には関係ない、都合がいいほうへ行けばいいんだろうということを感じております。そういったことを、もう少し進めていけたらと思っています。

一昨日、三遠南信の鳳来インターで開通前のイベントがありました。開通によって、浜松に30分ぐらい近くなるということで、今以上に目的が進むことを望んでおります。

### **コーディネーター**

#### **豊橋技術科学大学 大貝教授**

どうもありがとうございます。

それでは、第2期、これからどこに重点を置いていくのかということで、ご意見をいただけたらと思います。

### **売木村 松村村長**

長野県下伊那の売木村です。私の村は、

全国で離島を除けば人口が少ないほうから5番目です。山・住ということで分科会が進められておりますが、間に「に」を入れれば、山に住むということで、山に住むということは、そこで生活ができなければだめだと。そこに住むことができなくなってきたということは、やはりお金がとれないというのが一番なんですよ。

5つのプロジェクトが上げられていますけれども、やはり都市部、下流部・上流部で形態は違っても、所得が上がるようなプロジェクトにしていかないと、いずれにしても山に人が住めなくなってしまう。これからのプロジェクトの中で、とにかく山に住む、住んでそこでなりわいができる、そういう形の事業が進められていけばいいかなと思っています。

それには、先ほど151号の太和金トンネルの通行止めの話がありましたが、通行止めになったから、車で来られないわけじゃなくて、10分ぐらいで迂回できるようになっています。そうした情報提供をしていくことが重要です。また、豊川水源基金のお話もございましたけれども、今は山林を育てていく、ということで使っていますが、人を育てるような使い方、もう少し私どもも一緒になってやれるようにして、下流域からお金が上流域に上がってくるような形がいいのかな、と思っています。

それから、売木村の愛知県との県境、茶臼山の山麓に県営の南信州広域公園という公園がありまして、東三河、浜松の方に多く利用していただいております。

お隣の豊根村さんには、芝桜のすばらしい公園ができております。これを南信州地域の自治体にも開放していただいて、大きなイベントを開催するなど、共同的な事業が進んできております。そうしたことを継続しながら、何とか下流からお金が上がってくるような方法を講じるプロジェクトが

欲しいな、とっております。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございました。山に住むためには、所得の向上、一番望ましいのは雇用の場の確保だと思うのですが、そういった意味では、林業の再生というのも非常に大きな問題かと思うのですが、どうでしょう。

##### 鳳来商工会 片桐会長

最近、小規模の水力発電ができないかな、と山の連中はよく言うんですが、その時に問題になるのはやっぱり水利権だよと。上下流の相互理解が進めば、地方自治体等が仲立ちして、小規模水源を使った発電を、山の住民に提供できるというような方法が、一つのテーマになるじゃないかなというように話をしています。

#### コーディネーター

##### 豊橋技術科学大学 大貝教授

一つのご提案がありましたが、何かそういった取り組み、こんなことをやっているよというのがもしあれば。

##### 豊橋市 佐原市長

皆さんの地域で持っている力で、素晴らしいものは、たくさんあるのですが、普段から馴染んでしまっていると、それに気がつかない、ということがあるのではないかという気がしているんです。

東三河、奥三河で言うならば、花祭りというのは、典型的な事例だと思います。すばらしいことだけれども、いつもやっているんで、地元の人にとっては普通のことになっている。地元で多少おもしろいな、おいしいな、楽しい行事だなと思っていることの中に幾つか埋もれていると思うのです。

例えば豊根村には、この空気、この水で

ないとできないと信じて、ドイツパンをつくっている方がいたり、他にも色々な方がいます。そういったことを形にできる仕組みがあると、1,000人も2,000人も来ないかもしれないけれども、10人、20人から進んでいくことは可能ではないでしょうか。

私たちの東三河でやっているシニアリフレッシュ事業等も、そういった方向に向かっていかなければいけないのではと思っています。ご意見がある方がいらしたら聞かせていただければと思います。

##### 根羽村 大久保村長

まさしく今おっしゃられたとおりでと思います上流、中流、下流地域それぞれ人が住み続けることによって、国土が成り立っていくのですが、上流の山の中が成り立ちにくくなっているというのが現状です。人、物、お金が動くことによって、そこにいろんな産業ができ、人が住み続ける仕組みができると思いますので、長田さんからご説明がありました、いろんな方をご紹介していただくというのは、大きなポイントになると思います。特にそれをやる時は、山の中の人たちは、こういった部分をしっかりやってほしいんだよとか、下流から応援に来てもらう人は、こんなことをやるんだよ、ということがうまく結びつくという結果になると思います。

それから、山本会長のおっしゃった、山をしっかりつくって、土砂崩壊とか、表面の土を流さないようにしなきゃいかんというのは、まさしくそのとおりでと思います。そういった部分にもいろんな形で皆さんの支援をいただきたいと思います。また、異常気象によって想像できないような深層崩壊が起こり、奈良の方は山が崩れています。現状防ぎようがないものだというお話を聞きますので、そういった危険情報をもう一度それぞれの町村で把握しながら、全体で

も把握しておかんと、仮に大きな川でそんなことがあったときは大変なことになると思います。ですから、そういった情報も共有する必要があるのかなと感じたところでありませう。

### **豊橋市 佐原市長**

これからのことですが、三遠南信地域が、新たな地域連携を模索するということです。ここで忘れてならないのは、住の問題にしても、防災の問題にしても、都市機能を中山間地域へ提供するという点では、非常に安心だし、今後もこれを強化していただきたいと思います。ですが、ともすると三遠南信全体の連携は、都市間連携に傾倒していく危険性があるのではないかと感じるわけですね。

先ほど水問題でかなり時間を割いたということは、実は中山間地域に暮らす人たちにとっては、水問題は、暮らしの問題なのです。そういう点から今後の三遠南信の連携を考える場合には、都市間連携をしながら都市的機能を強めて、ポテンシャルを上げていくということも大事ですが、もう一つ、三遠南信の中山間地域の持続可能性を、どうやって全体で支えていくのかをプランの中に入れて連携する必要があると思います。

そういう点では、長田さんのお話は大変参考になります。私は、浜松市が合併して、天竜市とか水窪とか、厳しい状況にあるところがどうなったのかと、非常に関心を持っています。

そうすると、浜松市で長田さんがおやりになったようなことを、三遠南信全体でコーディネートする人がいて、三遠南信全体の中山間地域の持続性や交流、定住を、やっていただくことができれば、これはかなり違って来る。山を守る人が出てくれば、必然的に水問題も解決してくるのではない

かと思っています。そういう両側面から地域連携の問題意識を高めていただくと、三遠南信の今後の発展につながっていくのではないかと考えております。

### **コーディネーター**

#### **豊橋技術科学大学 大貝教授**

ありがとうございます。非常に重要なご指摘だったと思います。今の話に関連して。

#### **浜松市市民協働センター 長田センター長**

豊橋市長さんのおっしゃったことに関連するのですが、仕事を山間地につくるということをしています。例えば、水窪にあるおいしいコンニャクですとか、天竜川漁協がすばらしい無菌のアユを育てているということ、浜松の都市部の商業者は全く知らないんですね。

呉竹荘という結婚式場に、それらをご紹介したことがあります。すると、コンニャク屋さん、たった1カ月間で1年分を売り上げたり、天竜川漁協に一度に呉竹荘から500kgのアユの注文が入ったりするんですね。

それから、講習会で、水窪の方に鹿肉を提供していただいたんですが、我先にみんな食べてらっしゃいました。浜松市内のイタリア料理店に、鹿肉がどこかから手に入らないかという相談も受けています。また、森林組合の方に、チェーンソーを持ってきてもらって、格好いい姿を見せてもらったんですが、女性の参加者でアメリカンフットボールみたいな防護をつけて、間伐レディース隊を結成したいとおっしゃった方もいました。

豊橋市長がおっしゃったとおり、地元の方にとっては普通なんですけれども、そんなアクションをこれからも進めていって、長野県や奥三河にも交流を進めていきたいな、と考えているところです。



## 豊丘村 下平村長

リニアモーターカーの話でございますが、上流にも、水窪だとか、本当に厳しい山のそのものというところと、飯田の周辺、豊丘、喬木、高森、松川あたりの穏やかで段丘の広いところがあります。そこへ16年後にリニアモーターカーの飯田駅ができます。品川から38分、名古屋から、17～18分と言われております。直通だと、東京、品川、名古屋間を40分ですから、どこでもドアが、飯田と東京、東京と名古屋の間にあいたようなものです。

片や2,000万、片や1,000万の人口がいる中で、飯田・下伊那というのは17万人です。ですから、穴があいた瞬間に、都市部からの圧力で、たくさんの方が飯田・下伊那に出てきてしまうと思うんです。

その中で、私たちは何を守っていかなければいかんかといったら、やっぱりこの飯田・下伊那、天竜川沿いの、天竜川水系の自然ですよね。アルプスに囲まれて、段丘があって、天竜川があって、農業があって、林業があって。それを今からしっかりと、行政としてお金をかけて守りながら、自然と農業が織りなす日本人のふるさとの風景、そういうものをしっかりと守りながら、そのときをじっくりと待つ。その中で、三遠南信も入ってくる。新たな飯田・下伊那のあり方もあろうし、三遠南信のそれぞれの市町村のあり方もあろうかと思えます。

未来は非常に明るくて、飯田・下伊那の方に、どんどん向かっていくぞ、というような地域になるように頑張ります。そうした時、長田さんがやられているような運動というのは本当に素晴らしいことなので、ぜひ教えていただきたいと思えます。

## NPO法人びすけっと 福沢前代表

南信州の交流の輪には、南信州では何で

もなかったようなお祭りや食材を生かして、地域発信している、そういう団体がたくさんあります。売木村でお米をつくって、150人くらいの方がお田植えや稲刈りとか、そういうことで楽しまれている。南信州で暮らす私たちは、何でもないことですが、豊橋の方も、そういうお田植えのときに、「わあ、楽しい」と言いながら、喜んでいただけることが、お迎えする私たちも楽しいなと思っております。

そして、定住となったときに、そういう方たちをきちんとお迎えして、そこで暮らしていただけるように、私たち地域の住民が、いち早く情報をキャッチしながら、お互いにネットワークをつくっていくことが大事かなと思っております。これからも南信州交流の輪を生かしながら、アピールしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 豊橋市 佐原市長

最後に医療の話でございます。救急関係で東三河は、徐々に豊橋市の救急情報センターに一本化して、市町を越えて運営しています。県境を越えるというと、なかなか簡単ではないのですが、実際は湖西の人たちも豊橋の医療機関にかかっている。近いところ、設備が整っているところ、医者がいるところにかかっています。

今はまだ産科でしかやっていないのですが、好きな病院にかかるばかりではやっていけない状態になっています。お産ですから何カ月か先に、どこの病院で産むかがある程度分かる。できるだけ希望も聞きながら、それを当てはめていって、それでもやっぱり最後は、場合によってはあっちで産むしかないという「振り分け」をやるんです。お医者さんの状態とか、ベッドの状態とか、いろんなことを情報共有して、さばいているところまで来ています。

今後、医療制度がどう変わるかわかりませんが、もっと厳しい状況になった場合に、救急医療などは、三遠南信という広域の枠の中で、常に情報共有して、指示を出せるようにする、ということが必要になってくると感じています。

ちょっと勉強しながら、そんなこともやっていきたいなと思っているところです。

## コーディネーター

### 豊橋技術科学大学 大貝教授

ありがとうございました。

まとめですが、評価については、水の問題、そして上下流の連携の問題、いろんなご意見、評価をいただいたと思います。

具体的には、天竜川の土砂管理の問題がなかなか進んでいないということ、山にお金が出る仕組みとして、豊川の水源基金等をもっと拡充していけないかというご意見もありました。

三遠南信は、天竜川流域と豊川流域が主体なわけですが、それぞれの流域の中で連携を考えていく必要がある。その場合、SENAとの関係はどうするのかという、これも一つ問題になると思います。

また、第2期についていろんなご意見をいただきました。重要なことは、情報共有ということですね。防災の話でも、災害リスク、土砂災害に関する情報の共有をすべきであるとか、あるいは小規模な水力発電の取り組みはどこかないだろうかという話がありました。この地域の中で、それぞれすばらしい取り組みが行われているんですけども、なかなか横につながっていかない、皆さんと共有できていないところがあって、情報共有をもっと図っていく必要があると思います。

山に人が住むという基本に立ち返ったときに、その情報共有をどれだけ進めていくかが1つ重要なことだし、もう一つは、人

を育てる、人材育成です。SENA取り組んでいるインターンシップ事業では、1,000人近くの方が研修を受けています。その受け皿となった各地域のNPO等の中で、自分達と同じような取り組みをしている団体が、ここにもあるんだ、という横の結びつきが出てきていると聞きました。

もちろん、十何年、昔からの三遠南信地域でのさまざまな活動はあるわけですが、市民レベルでの新たなネットワークが形成されているような気がします。

そういった中で、長田さんから、中山間地域でのいろんな取り組みを紹介していただきました。そうした取り組みを、浜松市だけの取り組みではなく、三遠南信全体の取り組みとして拡充していくのが、極めて重要な今後のテーマかなと思いました。

もちろん、医療分野の連携であるとか防災体制の強化、公共施設の広域利用、この辺についても、今のような取り組みを進めていく中で、いろんな可能性が見えてくるのでは、と考えております。大変活発な、内容の濃い意見交換ができたと思います。以上をもちまして、この分科会を閉会いたします。どうもありがとうございました。



## 8 三遠南信地域住民セッション 要旨

San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu

### ■開会

NPO 法人地域づくりサポートネット 高木敦子副理事長の司会により住民セッションが始まった。

### ■開催地あいさつ

NPO 法人三遠南信アミ 松田不秋理事長より、三遠南信サミット住民セッションの開催に際して、住民団体が集まって議論できる場ができたことを喜ばしく思っている。長らく活動してきたが、次なる世代につなげていきたいと述べた。

### ■住民セッションの経緯

NPO 法人地域づくりサポートネット 田中孝治副会長より、今までの経緯を説明した。流域圏と交通圏が大きな圏域。連携ビジョンの将来像を議論しようと、サミットが回を重ねた。2005 年に流域圏や交通圏を考えると、行政や企業もあるが、住民も大きな担い手。住民の参加があるべきと、住民セッションが加わるようになった。行政、企業、住民の三位一体で進めることになった。

今回から三巡目に入った。この中で、連携の具体的なあり方、具体的な形をどのように作るかの段階に入った。理念については同意が得られた。自立していくために、どうしていけばいいかの提案を組んでいく。三巡目には、それぞれに分かれて、解決策がすぐに出るわけではないと思うが、活発な議論をよろしく願いたい。

#### ●住民セッション（1巡目） 2005～2007年

経緯：三遠南信道の活用を産官民が一体で取り組むため「住民セッション」の設置  
目標：住民セッションにおいて住民団体の活動を知り合う、プラットフォームを提唱  
内容：3圏域での交流やそれを目指す住民団体が活動報告・紹介

#### ●住民セッション（2巡目） 2008年～2010年

目標：プラットフォームについて話し合う（圏域ごとのプラットフォームの構築）  
内容：1～2巡では、団体の活動や課題を把握し、事業の仲間をつくる  
三遠南信地域連携ビジョンの普及

<エリア別プラットフォームができあがる>

- 東三河：東三河市民団体連携委員会
- 南信州：南信州交流の輪
- 遠州：遠州市民プラットフォーム（再構築が必要）

サミット用の組織に  
なっている！？  
求心力の低下

#### ●住民セッション（3巡目） 2011年～

##### ○目的

- ・住民セッションは、連携事業の進捗を報告、新たな連携事業を提案する
- ・サミット分科会は、行政や経済界にも報告と連携・協働を提案する

##### ○目標：個別の連携事業を目に見える形で展開していく

⇒三遠南信市民連携のプラットフォームの形成となる

<遠州からの呼びかけ>

- ・ゆるやかな連携 ⇒ 団体が自立できるための事業（融合）：プラットフォームイメージ 組織づくりより具体的な事業を提案し実行する“場”
- ・自立して活動を継続する ⇒ 「市民レベルの社会的事業ソーシャルビジネス」を創る

##### ●2011年遠州の住民セッションの方法

“この指とまれ！”形式の市民ビジネスのプレゼン&活動マッチング

脱：活動を知り合う  
↓  
実利のある連携事業をつくる

## ■目的の共有化

NPO 法人地域づくりサポートネット 山内秀彦代表理事より説明。昨年飯田でのサミットにて、プラットホームの連絡会が必要であるという意見がでた。前回（3年前）遠州の会議の中で、プラットホームの組織は何をやるかが問題だという話になった。三遠南信道路、新東名などインフラが開通（一部）する節目の時ということもあり、具体的な目標を掲げながら、連携するプロジェクト一つひとつを立ち上げ、それらがプラットホームとなり、進めていくべきではないかと考える。

そのため、「社会的事業を起こす」ローカル商社のようなプラットホームを考える。

## ■住民セッション3巡目・3年間のプロジェクト提案

連携を形にして活動資金を稼ぎながら自立・継続することを主眼に置いて連携プロジェクトを進めます。3年間（3巡目）のサミットでは、そのプロジェクトの進捗状況の確認や次なる目標を定め、新たなプロジェクトの提案を行います。

1つひとつのプロジェクトを推進する場がプラットホームということになります。

### ローカル商社（仮称）プロジェクト

市民レベルの社会的事業（ソーシャルビジネス）の連携により、各地域・各団体の活性化を図ります。

#### ① 物産の物流と地域商品づくり（地産他消）

- ・圏域の製品の共同販売
- ・小ロットの物流システム
- ・地縁店のネットワーク形成
- ・都市住民にも受け入れられるマーケティング研究

#### ② 着地型観光（歴史観光まちづくり）

- ・歴史文化や自然を楽しむエコツーリズム、都市農村交流グリーンツーリズムの実施による着地型観光の連携
- ※南信州では、前回サミット以降、歴史文化・自然の学びのプログラム（フィールド学習）を連続開催しています。

#### ③ 情報交流

- ・メーリングリスト、ブログ、フェイスブックなどのIT活用による情報受発信
- ・情報誌（協賛店クーポン付きなど）の制作・発行



## ■グループディスカッション

提案をもとに、3つのグループに分かれて参加者と意見交換を行った。

## ■Aグループ

地産他消連携（物産・物流・地域商品づくり）

ファシリテーター

NPO 法人地域づくりサポートネット

高木 敦子 氏

### 「地産他消連携提案」

NPO 法人三遠南信アミ 中野 真 氏

モノでつなぐ仕組みや山のモノを都会へ出す仕組みとして、軽トラ、地産他消のスーパーをつくる。中心市街地で圏域のモノをPRできる場（アンテナショップ）をつくる。三丁歩の米等をつくり、都会で売るなどが提案された。

### 「売木村の取り組み紹介」

ネットワークうるぎ 後藤 由行 氏

山あいの“加工力”を発信するとして、魅力的な加工、都会の材を山で加工する。売木村のみょうが、甘酢など。クルミは高級なお菓子、寿司に入っている。当たり前のようにクルミを使っている。売木村はみょうがで有名。商品名もある。これら発信していく。

### 「中山間地域における生産現場の声」

天龍村柚餅子生産者組合 関 京子 氏

柚餅子（ゆべし）とは、天公鬼＝冬まつり。自力家族の応援がないと商売は大変。柚餅子は武士の携帯食であった。次世代へ伝えるための資源が食品となった。食べて感動する“食”がある。食にするためのノウハウ（手続きほか）があるといい。

生産現場はお金がない。若い人も来る補助金が必要。クライנגアルテンに住んで協

力してもらう。宿泊＋農で若い人が定着させる。「年間7日の労力で米1俵をプレゼントということをやった。育て隊」と称して、年間7日手伝ってもらう。冬に雇用できることを模索中。

名古屋豊橋へのPRとして中日新聞で宣伝。

## ■意見交換

・山間部を主役にしたい。やる気と自信を持ってほしい。若い世代につなげていく。

・2027年にリニア中央新幹線飯田新駅ができると交通の流れが変わる。災害によりトンネルが通行止めになった。そのためにも「道」は重要。しかし、現在道路など3県の情報が入らない。したがって、静岡・愛知・長野の連携が必要。

・都会の人を呼び込む仕組みとして、食と物語を売っていると人がやってくる。祭りの食文化を客に出す。特産と食べ方を紹介する。景色と食の発信などという意見が出された。

・地域の人が残る仕組みとして、嫁が外へ出られるようにすべき。家庭と畑を守るための仕事を確保して都会の人が住むなどという意見が出された。

・一品ではなく、米と紅茶セットで販売する。

・高遠地区は、果樹生産地であり、台風で被害があり、果物の加工をしてみた。阿南町のみょうがを静鉄ストアで販売した。スーパーマーケットと地域が集まる場をつくることなどが議論された。

・今後は、三遠南信地域で地域の産物だけでなく、来てもらうために地域、人を売っ

ていき、地産他消による流通や販売のネットワークづくりに取り組んでいくことを話し合った。



## ■ Bグループ 歴史文化の観光交流・エコツーリズム連携

ファシリテーター  
NPO 地域づくりサポートネット  
山内 秀彦 氏

### 「歴史観光のまちづくり提案」 NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと 三宅 淳子 氏

奥浜名湖観光まちづくりネットの概要を紹介した。その中で、「食と旅の文化」を楽しく発信する活動を紹介した。

三遠南信地域の資源を活かして、地域が主体となって着地型観光を進めたい。魅力ある地域づくりに取り組み「観光まちづくり」の活動として取り組むことを提案した。その中で、観光交流をテーマとするコミュニティビジネスの事例を紹介し、自立して活動できる仕組みづくりに対して提案された。

今回は、売木村でプロジェクト会議を持ちたいと考えている。三遠南信は、人や地域をつなげることができていない。地域の取り組みも発信できていない。集まった人が満足できることや、連携のメリットが見えることが重要である。

### 「秋葉街道による連携と南信州の取組み」

#### 秋葉街道信遠ネットワーク

木下 利春 氏

秋葉街道信遠ネットワークの活動を紹介した。まちが栄えるために、秋葉山への道でつながって連携活動をしている。みんなで共有できる人材が必要で、ネットワークもサポートも必要と思う。秋葉街道信遠ネットワークでは、月1回行政と民間と会議を持っている。

現在、秋葉街道の沿線でマップを作り、焼酎を作って販売している。モノで通じることも必要。地域の人が販売のために動き、情報発信する。

南信州では、5つのテーマによる情報誌「ここが楽しい事典」を発行している。これは魅力あるお勧めのスポットをつくることを目指して発行している。観光だけでなく、文化・福祉・暮らしなどの紹介もしており、福祉が入ることで大切なものが見直された。薬草の会、桜名人などもある。これらの冊子は、団体等から負担金をとって制作していく。この取組みも三遠南信地域全体に広げていけたらと考えている。「(社)南信州ここだに」を設立する予定。

#### ■意見交換

・新城では、案内人養成や軽トラ市を開催している。もともと塩の道で馬が活躍し、賑わった。軽トラ市は、馬を「軽トラ」に変えて商品を運び、販売している。このように昔栄えた歴史をもう一度復活させることを考えている。

・音楽に関わる仕事をしており、地域の祭りに女性が参加して家族総出により祭りが賑やかになっている。女性の参加が大切。

新野高原では、クライנגアルテン(20棟)を作ることになり、ゆとりの時間を農村で自然や文化とふれあう場を提供している。

農業体験をできることが大切である。

・豊橋で観光ボランティアをやっている。豊橋の情報発信ができていない。街道の魅力を観光に活かしていくことが大切である。

・三遠南信地域を学ぶ会では、南信州で勉強会を重ねている。南信州、三河、遠州が1つになって活動するべきである。

・田原市では、どんぶり街道と称して、食による連携を進めている。各地の食材をどんぶりで紹介し、地域活性化につなげる活動を三遠南信に広げて行けたらよい。

・合併によって行政の関与を見直す動きがでている。観光協会はその影響を受けている。地域文化の伝承が合併によって失われている。ただし、地域が自立していくためには、住民意識を高めることが必要。

・東栄町のNPOてほへは、和太鼓集団でIターンの若い人たちが構成し、地域に根をはって活動している。住んでいる人の心が豊かになることが一番である。



## ■ Cグループ 市民連携の情報交流

ファシリテーター

愛知大学 平川 雄一 氏

## 「ブログによる情報発信」

NPO 法人三遠南信アミ 水島 加寿代氏

住民セッション用のブログを立ち上げた。当日は、参加者から出た意見などをタイムリーにブログ「三遠南信LOVE」で紹介。



<http://sanennanshinlove.hamazo.tv/>

情報チームに加わった団体などのHPやブログなどのリンクを貼り、携帯から情報をアップする方法などを紹介。その場で、このブログに投稿する人もいた。

## 「紙媒体の情報提供」

みらい企画 矢澤 律子 氏

紙媒体の動きを紹介した。南信州交流の輪が発足した。会員のプロフィールをまとめた。

すると会員同士の交流がスタート。

現在、直接出かけて、研鑽する活動を始めている。何がわかってきたかというところ、あいまいだったものが明確になりつつある。顔の見える事業を、1人ひとりの観点でとらえられたことが収穫。

その延長線上で提案したいのが、三遠南信全域に広げること。そうすればどんどん変わっていくはず。「知る人しか知らない」日本のどまん中。伝統芸能の宝庫である。

植物の集まり、全国の60%の植物が存在する。

日本の歴史上、秘境駅の魅力、ポテンシャルが意外に一般の人にわかっていない。この三遠南信の1人ひとりがまず知ることが、会員同士の交流と同じように、子供からお年寄りまで、この地域の素晴らしさを知ることが第一歩ではないか。

それから次の活動を起こしていくことが大事ではないか。フリーペーパーがあるけれども、その追跡がされていない。そこで、冊子の提案をする。5シリーズのテキストを作る。店、事業、文化、などを一般向けに冊子を作る。そのものが何をやっているかを明確化する。そして読んだ読者が評価をつけられる形にする。

### 「SNSを使った情報交換」

#### i. Dinfo & Company 今泉 隆 氏

SNSを使った情報交換が提案された。常に恒常的に交流ができるものが必要だが、地理的、時間的な制約を超える必要がある。それにはSNSがぴったりではないか。実験サイトにグループを設定。今の段階では、メンバーの公表はしていないが、それらを核にして伸ばしていければと考える。三地区で運営していけたらと思う。存在のある状態。個人アカウントで広げていくことができる。

グループ機能もできた。フェイスブック

ページに情報を公開していくものと機能の違いがある。それらを提案してはどうか。アカウントがなくても、インターネットにつながる人なら閲覧することができる。より広範に見てもらえることができるのではないか。ブログやツイッターで追加していくことができそうである。

### 「映像の発信」

#### NPO 法人志多ら 映像担当

奥三河の人にスポットをあてて制作。15分番組をつくって、てほへ(志多らの応援団体)のHPで紹介。ケーブルテレビにより豊橋、豊川でみられる。それらを遠州や南信州で見ることができる。それらをつないでいくと面白いと思う。

### ■意見交換

・NPOの中間支援をしているが、遠州では他の人と手を結ぶ意識が薄まっている。三遠南信と連携している時に、後ろ向きの浜松市民をいかに取り込んでいくか。輸送機器、楽器の地域が、自分の本業が落ち込んでいくと、法人格をとったのに、法人格的動きができないものもある。その人たちを巻き込むことで情報が上がってくるし、活用するヒントが出てくるのではないか。どうやって浜松市民をまきこんでいったらいいかな、と思う。市民協働センターが果たす役割とは何かを問い続けている。





・南信州に住んでいながら、現地に行っていない。そこで何が行われているか、関心もない。売木村での田植え体験をした。つみくさの料理を食べた。南信州の高齢化、祭の継続の難しさ。呼び込む力がうすい。しかし物語がある。物語をつくって売る必要がある。山間地の困っていること。ここに呼び寄せる知恵があるのではないか。

・地方を再認識。地域の活性化の情報を利用していく経営力が落ちている。経営、事業は情報を分析して、考えていくと、何かが掴めるはず。中心部が沈滞してしまったのが、収集はできても、分析して、行動することができない。

・フェイスブックやブログなどで情報発信していこう。それらの手法は、顔と顔が見える。知り合いの関係ができてからは、円滑な情報交換を深めることができる。輪の外の人にどう興味をもってもらうのが、輪を広げていく課題になるのではないか。

小学生の家庭教育学級があり、年に1回、研修で出かけて、子供たちに教育する上で、母親が学んでいく。最近山の中で体験プログラムなどもあるので、そこにつなげていくのもいいのかも。

・個別に学校教育の中へ体験学習をもっとやってもらいたい。子供たちの経験が少ない。

・浜松出身だが、南信州に出掛けることがない。パンフレットの良さ。連携の難しさ。三遠南信のポータルサイト。るるぶなどのツアーの紹介。個々の紹介とともに、ツアーコースなども考えていけるのではないか。

・DVDの整理をしていて、三遠南信エリアには素晴らしい芸能がたくさんあることを

知った。興味ある人たちに広めていきたい。三遠南信の言葉を初めて知った。いろいろな地域が連携しているんだと思った。

情報発信の情報がありふれていて、選択するのが難しい。その中で、これからは情報をいかに相手に伝えていくかが大事。それにはインパクト。固いような名前とか、いままで形式にとらわれていたことではなく、香川でもやっていたが、香川は名称をかえて、「うどん県」にするとか、ユーモアのあるものが三遠南信地域で発信しても武器になるのではないか。

・情報（冊子）は目的別にわかれていると面白い。冊子作りを、どう進めていくか。東三河では、「どすごいネット」を行政がやっている。登録したい人は自主的に登録する形。それらの情報などを活かしながら、人づてにいくと、情報が偏っていくと思うので、ネット上にのせていくことも必要で、更新していくことが大切だと思う。

・鳳来と引佐がつながっていない。三河にいと、引佐の情報が伝わってこない。道がつながっているのに情報がつながっていない。チラシなどが県境を越えて置いていない。その人たちの意識。情報をつなげようという意識がない。情報は使う人の意識を高めないといけない。

・三遠南信は、いいところだが、道が悪い。対応ができない、そうした現実を売れるもの、全体をどのように商品化するかをみんなでき取り組まないといけない。「三遠南信」ってなあに。それが伝わっていないのが現実。意気込みや文化は発信できない。お金を生み出していきたい。そのためにどうするか。

## ■グループミーティング報告

### Aグループ 「地産他消連携」の報告



各地で地産地消を進めている人たちが三遠南信で連携し、山のものを都会で売っていく仕組みづくりの意見が交わされた。具体的に顔の見える物産・地域・人を売っていくネットワークの仲間づくりに取り組むことになった。

### Bグループ

#### 「歴史文化の観光交流・エコツーリズム連携」の報告



事業の企画には至らず、まだまだ活動紹介のレベルの議論であった。しかし、三遠南信でグリーンツーリズムを展開していくための議論をした。

サミット終了後に「着地型観光」の連携のため、具体的な話し合いをする会合を開くことが提案された。とにかくまず動こう！ということであった。

### Cグループ 「市民連携の情報交流」報告



情報チームでは、まずは「冊子」を作り出すことを決定した。また、南信州の「交流の輪」の冊子などをベースに、矢澤さんが描いた土台冊子を基盤にして、三河と遠州の協力者を募り、進めていく。

## ■総括

以上、3つのプロジェクトをやりたい人がこの指とまれ方式で集まって進めていく。その取り組みを三遠南信全体で情報の共有化を図り、プラットフォームの構築に向けた検討に入ることを確認した。今後のサミットでは、各プロジェクトの進捗を報告し、新たな提案をしていく場としていくことを確認した。

最後に次回開催地の東三河を代表し、東三河市民連携委員会の原田委員長が締めめのあいさつを行った。サミット当日だけでなく、事前の話し合いを重ねながら進めていくことが必要であると述べた。



報告会では、各分科会のコーディネーターがそれぞれ議論された内容を報告し、浜松市長がサミット宣言を行った。また、豊橋市長が次回開催地域を代表してあいさつをした。

## ■「道」分科会

### コーディネーター 浜松市長 鈴木康友

それでは、第1期のプロジェクトの検証等を踏まえて、第2期に向けてのそれぞれ皆さんの思い、視点ということでご意見をいただきました。

1つは、震災以降、道路に対する認識が大きく変化してきたのではないかと、言う点から意見が交わされました。3・11の震災以降、防災の面、地域の連携あるいは相互の協力等の面で「やはり道路というのは大事なんだ」という認識が、また芽生えているのではないかと。また、これまでは東西の道路が中心に整備されてきたのですが、沿岸と内陸を結ぶ南北の軸が大事だという、道路に対する意識が変わってきた。そういう点を我々も捉えて行かなくてはならないのではないかと、そういった意見が交わされました。

2点目として、単に道路の整備をしていくという要望ではなく、何故この道路が必要なのか、ということも改めて踏まえて要請していかねばいけない、という点から意見がありました。三遠南信道路が整備されると、防災の面、あるいは救急搬送等の時間が短縮されるので、命の道路として非常に大事ですし、観光や産業の面でも、交流が促進されます。

特に、この地域は三遠南信の連携をしているわけですから、その広域連携の骨格の道路であるということを再度認識して、今後、整備の訴えかけをしていく必要があるというご指摘もございました。

また、基調講演で講師の谷口さんにもご指摘をいただきましたが、単に地域にとって必要な道路というだけではなくて、国としてミッシングリンクを解消していく上で重要なんだ、という点を訴えかけていく必要があります。南北軸の道路というのは、国全体の道路網の中では、今まで忘れ去られていた部分でありますけれども、そうした国全体の中での三遠南信自動車道等の位置づけが必要であろうということです。

3点目として、道路が整備をされていくと、いい面ばかりではないぞ、という指摘もございました。例えば、中山間地域などは、道路がよくなって便利になると、どんどん人が都会に出ていってしまい、過疎化が進行して地域が寂れていく心配がある、という意見もありました。ですから、道路を整備すると同時に、住民の交流、あるいは観光における連携など、そうしたことへの配慮、広域連携の中での観光施策というものが重要だ、という認識がされました。この三遠南信地域は、単に道路をつくれという要望ではなくて、広域連携の中での道路の活用というものを考えているわけですので、その良さを生かして、インフラの整備と同時に、住民交流、地域交流というものを促進していかねばいけないというご指摘もございました。

最後に渥美半島の道路整備、あるいは浜松三ヶ日・豊橋道路といった、未着手の事業について、引き続き重要なプロジェクトとして取り組んでいくべきという要請もございました。

たくさんのご意見いただきましたことをご報告して、道分科会の報告とさせていただきます。

## ■「技」分科会 コーディネーター

### 株式会社サイエンス・クリエイト 中野氏

「技」分科会から、重点プロジェクトに対する評価・意見を報告させていただきます。

まず、浜松市の安形産業部長から「三遠南信発！産業イノベーション」について報告していただき、それを受けて、浜松商工会議所の御室会頭から、ビジネスマッチングフェアについて、出展が253点、約7,400名の参加があり、商談成立が28件、試作・見積もりが211件である、という報告がございました。同時に、合同人脈交流会を複数の商工会議所で開催し、会員同士の親交を進めているということがございます。

それから、豊橋商工会議所の吉川会頭からは、特に植物工場への取り組みについて報告いただきました。もともと豊橋というところは施設園芸100年の歴史を持っております。サイエンス・クリエイトも申請者の一員になっていますが、豊橋商工会議所も資金面でご協力をいただき、この7月に経産省の採択を受け、来年6月には植物工場研究棟が建ちます。この研究棟を活用して、新しい技術を磨きながら打って出る、という報告をいただきました。それから、海外展開の支援が今年から始まりまして、事例のノウハウであるとか、複数の商工会議所で広域的にグループを組んで対応していく必要があるという報告がございました。

豊川市の山脇市長からは、特に日本車両の新幹線、コニカミノルタのプラネタリウム、オーエスジーのタップ、そういった企業の持つ優れた技術を活かして、技術面で新しい展開をするという報告がございま

した。同時に、東三河5市が一緒になって、懇話会の事務局を置いて、企業誘致というのをずっと継続してやっている。御津臨海団地の整備をして、ここに企業誘致したいというご発言をいただきました。ただ、震災以後、防災への対応をしていかなければならない、ということがございます。

それから、新城商工会の本多会長から、浜松のやらまいか精神に学びたい、というご報告をいただきました。また、先進的な事例として、軽トラ市（のんほいロット）を開催しており、全国から非常に多くの視察が訪れているということがございます。また、東三河県庁という話がございまして、これに乗らない手はない、という報告がございました。

田原市商工会の山田会長から、田原というところは農業産出額が約730億円、半分が花でございしますが、こういう花、特に観葉植物が苦境に立っており、露地栽培に戻るのも出ているという報告がございました。それから、工業団地に東京製鐵が100ヘクタール進出したということですが、まだまだフル稼働にはなっていない。最近では、80ヘクタールで、メガソーラーを展開するというようなことが出ているということです。また、トヨタ自動車が一番大きい田原工場がございしますが、東北と九州の工場、3つの工場の競争になっているということです。国内競争に敗れますと、海外に出ざるを得ないということで、必死に頑張っている、という報告がございました。

磐田の伊藤会頭からは、ビジネスマッチングを継続しているということで、特に既存の企業の高齢化についてご発言がありました。

喬木村の大平村長からは、リニアの開通に期待しているということと、それから農業について、市田柿の生産は、昔は天日干しでしたけれども、今は機械で生産してい



るという報告がございました。

浅羽町商工会の大石会長からは、浅羽町は優良企業が継続していて、地域の産業が栄えたところでありますけれども、今までのやり方ではできない、次の展開にいきたいということと、マスクメロンの栽培が非常に盛んなところがございますが、これも継続的に新しいものにしていかない限りは生産が滞ってしまうという、そういう発表がございました。それからもう一つ、平均海拔が2.5メートルですので、高波等に関連して、立地の面で非常に障害を負った、その対策をしていかなければならないということがございます。

東三河市民連携委員会の原田委員長から、住民セッションの内容についてのご報告がありました。震災があったということもあり、山側と町側の関係で、町側は、もうちょっと山の方を活用して、上手な連携をしておいた方がいいのではないかという指摘がございました。

これら意見を踏まえて、「技」分科会では、2期目の展開に当たり、産学官から金融というところを加えた産学官金という枠組みは一層強化すべきだという点、それから、三遠南信地域大学シンポジウムが午前中ありましたが、大学がどういう形で参加していくかというところの見直しがあったという点、が重要になってくると思います。それから、これは補足になりますけれども、SENAは、内閣府の地域社会雇用創造事業を実施しています。トータルで7億、インキュベーション事業とインターンシップ事業2つの事業がございます。これは3月に終わりますが、このノウハウを次につなげていくということが大事じゃないかということでもあります。

私の感想としては、基調講演にあったように、変化にどう対応するかが重要で、変化から逃げない、ということにもとづいて

展開をしていく、ということだろうと思います。そこから、この三遠南信という枠組みの中で、大きな目標を持ったプロジェクトが起こっております。そこに、それぞれの市町村がどういう形で加わりながら全体に連携、あるいは融合していくかというところが今後の進歩につながるのではないかと、思っております。以上で報告を終わります。

## ■「風土」分科会

### コーディネーター

#### 財団法人阿智開発公社 羽場理事長

風土分科会の内容をご紹介したいと思います。塩の道エコミュージアム構想をどのように進めていくかということをめぐり、3つのパートから検討をいたしました。

最初に、三遠南信アミの中野理事から報告をいただきました。地域資源を生かして、地域と人を元気にする取り組みということで、アミが取り組んでおられるさまざまな方策についてご紹介をいただきました。

続いて、第1期の重点プロジェクトについて、評価を行いました。そして最後に、第2期をどのように考えていくか、という点について話し合いました。

第1期の評価では、特にお祭りとか、それから地域の食材等のことについて話題が続きました。地域でとれる昔からの野菜、地域の振興、コミュニティのつながりを束ねていくお祭り、こういったものを観光とリンクさせるのが難しい、という話が相次ぎました。横山町長からは、ある場所では、たくさんのイベントを集めた結果、そのキャパが対応し切れなくて、大変困ったというようなお話がございました。しかし、湖西市長からは「失敗、いいじゃないか。どんどんチャレンジしてやってみたらいいじゃないか」というご意見がございました。

飯田市は、たくさんのお祭りを集めたイ

ベント、海外発信などもやっていらっやいます。そういった観点からお答えがございました。それから、特に中山間地の中には、地域に伝わってきた学びの資源があるのではないかというご指摘もいただきました。

第1期の評価を受けまして、第2期に向けてどのように考えていくかということについて話題が進みました。

まとめますと、地域社会は、少子高齢化の中でも、人が地域に入ってきてくる仕掛けをいっぱいつくっていくべきだ、という意見がありました。NPO法人てほへの大脇さんからは、和太鼓のプロの方々が地域社会に入って感じたことを発表していただきました。高齢者が増えて、限界集落化して、お祭りもできなくなってくる中で、一つのヒントを与えてくださったわけがございます。人材バンクをどのように地域の中につくっていくか。そして、お祭りを伝えること、それを通じて、学びを生かし、その地域で生じるエネルギーをどのように生かしていくかということが議論されました。

そのようなことを行政、経済界あるいは住民の皆様あるいはNPO・NGOの団体、そういったさまざまなセクターが、どんどんと自主的に進めていくことが大事じゃないかということなのです。

湖西市の三上市長から、「各論はともかく、実際何かやろう。1つくらい決めたらどうだ」という話が出まして、実際に地域のお祭りを見に行こうじゃないかという話が出まして、随分と景気がついたところでございます。実際には、招待状をいただかないと行けないよというような話もございますが、事務方の皆様、あるいは住民の皆様にもお願いをしまして、民間は民間で、あるいは経済は経済の皆様で、あるいは行政の皆様は行政の皆様で、それは、ごちゃ混ぜにして、企画されたいんじゃないか。そういうことを議決できるように、第

2期に向けて、具体的な展開をしようということで、合意をして閉幕となりました。

以上、風土分科会の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## ■「山・住」分科会

### コーディネーター

#### 豊橋技術科学大学 大貝教授

山・住分科会の報告をいたします。

この分科会は、山は「中山間地を活かす流域モデルの形成」、住は「広域連携による安全・安心な地域の形成」という、三遠南信地域の暮らしの問題を取り上げている分科会かと思えます。

まず、浜松市の松永危機管理課長より、「東日本大震災から学ぶこと」、三遠南信地域における防災連携のあり方ということでご報告をいただきました。

その後で、重点プロジェクトとしては5つのプロジェクト、それぞれについてご意見をいただきました。

まず第1期のプロジェクトの評価ということで、ご意見をいただきました。

中部圏の広域地方計画のリーディングプロジェクトとして、この三遠南信地域のビジョンのプロジェクトが位置づけられたということ、各地域で中山間地域と都市部の連携した事業等が進められてきたこと、その点は高く評価されるわけですがけれども、やはりまだまだ取り組みとしては不十分であろうということが全体の認識だったかな、と思えます。

とりわけ水問題については、どこの流域においても、いわゆる上下流問題について、まだまだ不十分ではないかということでもあります。この問題は行政だけで解決できるような問題ではなく、今後も、行政の枠を超えて、具体的な取り組みが必要ではないかという意見がありました。例えば、東三河では豊川水源基金というのがありますが、

これを活用できないかという意見、そういった取り組みをこの地域に広げていってはどうか、という意見がございました。

天竜川、その他水系における土砂管理の問題についても、ダム問題含めて、まだまだ具体的な取り組みとしては不十分なのではないか、という意見がございました。この土砂管理の問題というのは防災の問題ともつながっており、今後ますます重要な話になってくると思われまます。

そういった中、市民代表の方からは、中山間地域の人というのは、非常に生き生き生活をしている。地域のコミュニティの力というのが、都市部に比べて非常に高い、というご発言もありました。

また、浜松市の市民協働センターの中山間地域の振興の取り組みが報告されまして、その中で、都市部の人には、三遠南信という言葉聞いたことすらないという人がいるということですね。ですので、やはり浜松市としても、天竜区、さらにその北に目を向ける人材育成する必要があるのではないかというご意見をいただきました。

第1期のプロジェクトを振り返り、これから何に重点を置いていけばいいのかという点についてですが、最初に出た水問題というのは、まさにこの地域の暮らしの問題でもあるということでもあります。山での暮らしをいかに維持・確保していくか。これは、イコール雇用の場をどう創造していくかということになるかと思えます。そういった面から見て、まだまだこのビジョンによる取り組みというのは不十分ではないか、というご意見をいただきました。

一方で、三遠南信地域の中には、小さいながらも、非常にユニークでオリジナリティあふれる取り組みが多くある、という報告もされました。

したがいまして、そういった一つ一つの成功体験を、この地域でもっと共有してい

くということが重要ではないか、という指摘がありました。きめ細かく地域の情報を共有していくことが、これから重点を置いて取り組むべきテーマではないかということでもあります。

そしてもう一つ、人を育てる仕組みというものが、まだまだこれから必要であろうということでもあります。

この点に関しては、SENAでは、2年間、地域社会雇用創造事業としてインターンシップ事業に取り組んでおり、既に900人を超える受講生がいるということでもあります。そのインターンシップの受講生、受講生を受け入れる側の地域、個別に今まで活動をしていたNPOやボランティア団体等が、このインターンシップ事業を通じて横に繋がり、それぞれの地域でネットワークが生まれていることは、非常に重要ではないかと思えます。これは私の意見ですが、人を育てるという意味で、このインターンシップ事業も、今後SENAの中で何らかの形で継続していけるように検討をお願いできないかな、と思えます。

それともう一つは、浜松市が今実践しています市民協働センターでの取り組み、地域に入っていくって、地域の人と一緒に都市と上下流の連携の活動を進めていく。こういった活動、これは行政だけではできない話ですので、民も一緒になって取り組む、草の根的な活動を、三遠南信全体にSENAも何らかの形で関わって拡大していければいいのではないかと、思いました。

以上です。どうもありがとうございました。

## ■ サミット宣言 浜松市長 鈴木康友

第 19 回三遠南信サミット in 遠州では、「三遠南信流域都市圏構築への挑戦～融合、新たなステージへ～」をテーマとし、全体会および各分科会において、三遠南信地域連携ビジョンの重点プロジェクトについて、これまでの検証・評価及び 24 年度以降の事業推進の方向性を議論しました。

私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、新たなステージに向け、本日のサミットでの議論を踏まえ、次の事項に重点を置き、県境地域連携を自負と責任を持って推進します。

- 1 三遠南信自動車道について、早期全線開通のためには現道活用区間の整備などミッシングリンクを解消すること、また、災害時には、内陸部と沿岸部を結ぶ「命をつなぐ道路」として欠かせないものであるという認識を確認しました。  
圏域の一体的な発展のため、三遠南信自動車道の早期全線開通、リニア中央新幹線の早期開業、浜松三ヶ日・豊橋道路の整備、三遠伊勢連絡道路の実現を目指し、三遠南信地域連携ビジョン推進会議を中心とし、地域一体となった提言活動等を進めます。
- 2 地域の産業基盤を活かした国際優位性のある新産業の創出と、既存産業の振興を実現するため、「三遠南信地域基本計画」及び「地域イノベーション戦略推進地域」等、産学官金等の各主体が県境を越えて連携し、国際競争に勝ち抜くための戦略を推進します。  
また、三遠南信地域内の大学連携の方向性について、引き続き検討していきます。
- 3 三遠南信地域における歴史、自然、文化、そして人々の上下流域の結びつきを再確認し、「塩の道エコミュージアム」を構成する地域資源を活用した事業に取り組む民間団体との連携を強化するとともに、圏域内外への発信体制の整備を進めます。
- 4 地震や台風等により、広域的また局地的に発生する災害に対応するため、県境を越えた防災体制の整備について、現実的な相互協力に取り組みます。各自治体における防災力を検証したうえで、三遠南信災害時相互応援協定を見直します。  
また、中山間地域を活かす流域モデルの形成に向け、各地域が取り組む定住促進施策の連携について検討するとともに、情報発信に関わる体制の整備を進めます。
- 5 三遠南信地域連携ビジョン推進会議の後継となる新・連携組織は、現在と同様に地方公共団体と経済団体との官民連携の組織とし、今後の広域連合設置に向けては、専門委員会において検討を進めます。

これらの取り組みを、ここに集うすべての主体が確認し、第 19 回三遠南信サミット 2011 in 遠州のサミット宣言といたします。

平成 23 年 10 月 24 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議  
三遠南信サミット 2011 in 遠州



## ○次回開催地域あいさつ

### 豊橋市長 佐原光一

皆様、お疲れさまでした。

さまざまな分野の方たちがたくさん参加され、この「三遠南信サミット2011 in遠州」が滞りなく、そして成功裏に終わりましたこと、まずもってお祝い申し上げたく思います。

そして、来年、開催予定地の東三河を代表して、一言ごあいさつを述べさせていただきます。

その前に、この会の準備のため、遠州地域の方たちが、たくさんかかわって準備していただき、また会の運営に、大変なご尽力をいただきましたことに、御礼を申し上げます。

先ほどのサミット宣言で出ましたように、いよいよ広域連合という具体的な目標に向かって歩を進める段階になり、その第一歩の発表の場所として、来年度の三遠南信サミットがある、そんな大事なサミットであると思います。

また、いよいよ20回という節目の会を迎えることにもなります。大変荷の重い1年だと思いますが、また、一方で大変夢のある、素晴らしい1年になるものだなというふうに思っているところでございます。

偶然と言ってはなんですが、東三河の海外への窓口であります三河港、来年がちょうど50周年という節目の年にもなります。

今後、私たち三遠南信地域が、国内だけでなく、海外に向かって活躍をする、そんな提案も今回の分科会のあちらこちらでされておったかと思えます。そういう意味では、東三河で開かせていただけることが、大変素晴らしいタイミングになるなと思っております。あわせて、東三河ではちょうど東三河県庁の開設作業も進んでおります。来年度は、その鼓動が脈打ち始める、そんな年にもなります。

東三河の力をあわせて、皆様方を精いっぱいのお力でお迎えし、素晴らしい会にしていきたいと、これから準備をさせていただきたいと思えます。

来年も、今年以上に多くの方たちに東三河にお集まりいただき、三遠南信の未来に向かって、新しい歴史を刻んでいきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。



## 10 交流会

*San-En-Nanshin Summit 2011 in Ensyu*

交流会では、三遠南信地域の観光連携の一環として浜松市・豊橋市・飯田市の観光PRブースが設置されたほか、「地酒サミット&やらまいかブランド物産」コーナーが出展され、試食・試飲や販売が行われた。

また、サンバチーム「アミゴス・ド・サンバ」によるパフォーマンスが行われた。

### ■ 交流会の様子



### ■ 三遠南信地酒サミット



### ■ やらまいかブランド物産コーナー



### ■ 観光連携事業



### ■ サンバ パフォーマンス





# 三遠南信 サミット 2011 in 遠州

三遠南信流域都市圏構築への挑戦  
融合、新たなステージへ



平成23年10月24日(月)13:00~  
アクトシティ浜松

主催 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)  
共催 三遠南信地域交流ネットワーク会議  
三遠南信地域経済開発協議会  
三遠南信地域整備連絡会議  
後援 国土交通省、経済産業省、農林水産省、静岡県、愛知県、長野県

Sanennanshin Summit 2011 in Ensyu

## 三遠南信サミットの歴史

回数	開催日	開催テーマ	開催場所
1	H6.2.10	三遠南信地域に今、21世紀の風が吹く <small>※「三遠南信サミット&amp;シンポジウム」として開催</small>	浜松市
2	H6.11.21	交流がわかる三遠南信の未来	豊橋市
3	H7.10.11	次代に向けて動く三遠南信 ～地域を変える交流の創出～	飯田市
4	H8.11.22	三遠南信地域の新たな連携と共生に向けて	浜松市
5	H9.11.17	三遠南信地域の新たな連携 ～循環型社会の構築と新たな活力の創造～	豊橋市
6	H10.10.8	三遠南信の新たなステージをめざして ～交流から参加と連携へ～	飯田市
7	H11.7.23	人が、物が、そして地域が動く <small>※「三遠南信サミット」と名称変更</small>	雄踏町
8	H12.7.26	絆、そして融合 ～三遠南信地域の明日をめざして～	豊橋市
9	H13.11.8	交流の新たなステージへ ～21世紀 三遠南信地域住民交流の創出～	飯田市
10	H14.7.24	快適空間・三遠南信 ～元気な観光・交流の新たな創出～	浜松市
11	H15.10.27	まるごとミュージアム・三遠南信 ～魅力再発見からもてなしのまちづくりへ～	豊橋市
12	H16.11.25	新たな歴史の扉を拓く ～三遠南信からの発信～	飯田市
13	H17.11.4	三遠南信・新たな時代の幕開け ～夢街道いよいよ実現へ～	浜松市
14	H18.10.23	三遠南信・圏域の創生をめざして ～つながる 広がる 躍動する～	豊橋市
15	H19.11.14	将来(あす)への展望 ～今、三遠南信地域の新たな協創のとき～	飯田市
16	H21.2.10	三遠南信250万流域都市圏の創造に向けた挑戦	浜松市
17	H21.11.13	日本の県境連携モデルの構築 ～三遠南信地域連携ビジョンの実現に向けて～	豊橋市
18	H22.11.12	地域主権時代における県境地域連携モデルの推進 ～融合に向けた自発的な地域づくりの実践～	飯田市
19	H23.10.24	三遠南信流域都市圏構築への挑戦 ～融合、新たなステージへ～	浜松市



## サミット・プログラム Program

Sanennanshin Summit 2011 in Ensyu

三遠南信  
サミット  
2011 in Ensyu  
10月24日(月)  
アクトシティ浜松

10:00~12:30

■【オークラアクトシティホテル浜松 3階「チェルシー」】

### 三遠南信地域住民セッション

三遠南信地域の更なる発展と連携のため、地域住民が住民団体のネットワーク化と具体的な連携事業について検討します。

13:00

### 全体会

■【会場 アクトシティ浜松 中ホール】

あいさつ (13:00~)

基調講演 (13:30~)

テーマ：  
「三遠南信の新ステージに向け」

芝浦工業大学大学院教授 谷口 博昭氏  
元国土交通省顧問 元国土交通省事務次官



報告 (14:30~)

「SENA 新・連携組織について」

14:45

15:10

### 分科会

#### 「道」分科会

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 4階「平安Ⅰ」】  
「中部圏の中核となる地域基盤の形成」  
コーディネーター 浜松市長 鈴木 康友氏

#### 「技」分科会

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 4階「平安Ⅱ」】  
「持続発展的な産業集積の形成」  
コーディネーター 株式会社 サイエンス・クリエイト 代表取締役専務 中野 和久氏

#### 「風土」分科会

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 4階「平安Ⅲ」】  
「塩の道エコミュージアムの形成」  
コーディネーター 財団法人 阿智開発公社 理事長 羽場 睦美氏

#### 「山・住」合同分科会

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 3階「チェルシー」】  
①「中山間地を活かす流域モデルの形成」  
②「広域連携による安全・安心な地域の形成」  
コーディネーター 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系教授  
地域協働まちづくりリサーチセンター長 大貝 彰氏

17:00

### 報告会

■【会場 アクトシティ浜松 中ホール】

・分科会報告

・サミット宣言

18:10

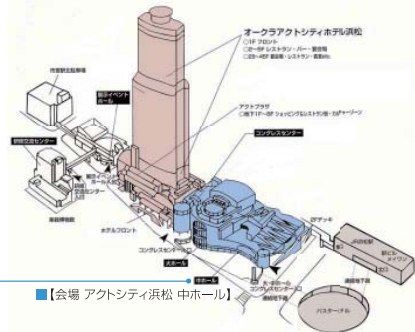
### 交流会

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 4階「平安ⅠⅡ」】

18:30

20:00

アクトシティ浜松、オークラアクトシティホテル浜松で案内図

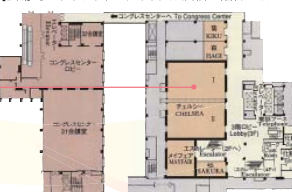


■【会場 アクトシティ浜松 中ホール】

■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 4階「平安」】



■【会場 オークラアクトシティホテル浜松 3階「チェルシー」】



# 第19回 三遠南信サミット2011 in 遠州

三遠南信サミットでは、三遠南信地域（愛知県の東三河地域、静岡県の遠州地域及び長野県の南信州地域）の一体的な振興について、地域住民、大学・研究機関、経済界、行政が一堂に会し、議論を深めてきました。今回は、「三遠南信流域都市圏構築への挑戦 ～融合、新たなステージへ～」をテーマとし、「三遠南信地域連携ビジョン」の推進のために意見を交わします。

**全体会** 13:00 会場 アクトシティ浜松 中ホール

基調講演

テーマ：  
**「三遠南信の新たなステージに向け」**  
 挖浦工業大学大学院教授 谷口 博昭 氏  
 元国土交通省顧問 元国土交通省事務次官



**分科会** 15:10 会場 オークラアクティホテル浜松

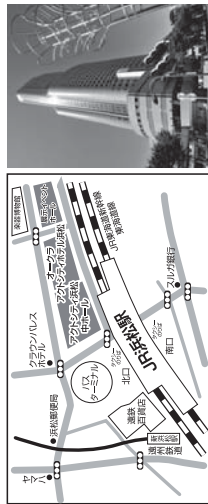
- 「道」分科会 テーマ：「中部圏の中核となる地域基盤の形成」
- 「技」分科会 テーマ：「持続発展的な産業集積の形成」
- 「風土」分科会 テーマ：「塩の道エコミュージアムの形成」
- 「山・住」分科会 テーマ：①「中山間地を活かす流域モデルの形成」  
 ②「広域連携による安全・安心な地域の形成」

**報告会** 17:40 会場 アクトシティ浜松 中ホール

各分科会の報告・サミット宣言

**交流会** 18:30～20:00 会場 オークラアクティホテル浜松 4階 平安・II

参加費 7,000円/人



## 会場へのアクセス

**アクトシティ浜松中ホール**  
 〒430-7900 静岡県浜松市中区塩田町111-1  
 TEL053-461-1111

**オークラアクティホテル浜松**  
 〒430-7233 静岡県浜松市中区塩田町111-2  
 TEL053-469-0111

JR東海道線・東海道新幹線  
 JR浜松駅北口より東側、徒歩約2分

**三遠南信地域住民セッション** 10:00～12:30 会場 オークラアクティホテル浜松 3階 チェルシー

三遠南信地域の更なる発展と連携のため、地域住民が住民団体のネットワーク化と具体的な連携事業について検討します。

※住所  
 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局  
 〒430-8952 静岡県浜松市中区元町103-2 浜松市企画調整部企画課内  
 TEL053-457-2242 / FAX053-457-2248 /  
 E-MAIL:senae@clear.ocn.ne.jp /  
 URL: http://www.sena-vision.jp/

住所	
氏名	電話番号
所属	メールアドレス

※住民セッション/全体会/分科会/報告会に参加される方については、お申し込みは不要です。  
 ■交流会へ参加される方は、お申し込みと参加費7,000円が必要です。  
 ■交流会へ参加される方は、住所・氏名・所属・電話番号・Eメール/氏名をメールで右記までお送りください。  
 上書きで記入の上、FAXで右記まで送信してください。  
 ◆なお、参加費7,000円は10月17日(月)までに入金の確認ができるよう下口座にお振込みください。E-MAIL:senae@clear.ocn.ne.jp / 1439233  
 振込口座：静岡銀行浜松支店 普通口座 1439233  
 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 会長 浜松市長 鈴木康夫



第19回

# 2011 in 遠州

三遠南信流域都市圏構築への挑戦  
 ～融合、新たなステージへ～



平成23年10月24日(月) 13:00～  
**アクトシティ浜松**  
JR浜松駅北口より、東側徒歩約2分

一般公開 どなたでも参加できます。直接会場へお越し下さい。

主催 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)  
 共催 三遠南信地域経済開発協議会・三遠南信地域経済ネットワーク会議  
 後援 国土交通省・経済産業省・農林水産省・静岡県・愛知県・長野県

Sanennanshin Summit 2011 in Enshu



三遠南信サミットの開催概要一覧

回数	開催日	開催テーマ	開催場所
1	H6. 2. 10	三遠南信地域に今、21世紀の風が吹く *「三遠南信サミット&シンポジウム」として開催	浜松市
2	H6. 11. 21	交流がつくる三遠南信の未来	豊橋市
3	H7. 10. 11	次代に向けて動く三遠南信 ～地域を変える交流の創出～	飯田市
4	H8. 11. 22	三遠南信地域の新たな連携と共生に向けて	浜松市
5	H9. 11. 17	三遠南信地域の新たな連携 ～循環型社会の構築と新たな活力の創造～	豊橋市
6	H10. 10. 8	三遠南信の新たなステージをめざして ～交流から参加と連携へ～	飯田市
7	H11. 7. 23	人が、物が、そして地域が動く *「三遠南信サミット」と名称変更	雄踏町
8	H12. 7. 26	絆、そして融合 ～三遠南信地域の明日をめざして～	豊橋市
9	H13. 11. 8	交流の新たなステージへ ～21世紀 三遠南信地域住民交流の創出～	飯田市
10	H14. 7. 24	快適空間・三遠南信 ～元気な観光・交流の新たな創出～	浜松市
11	H15. 10. 27	まるごとミュージアム・三遠南信 ～魅力再発見からもてなしのまちづくりへ～	豊橋市
12	H16. 11. 25	新たな歴史の扉を拓く ～三遠南信からの発信～	飯田市
13	H17. 11. 4	三遠南信・新たな時代の幕開け ～夢街道いよいよ実現へ～	浜松市
14	H18. 10. 23	三遠南信・圏域の創生をめざして ～つながる 広がる 躍動する～	豊橋市
15	H19. 11. 14	将来（あす）への展望 ～今、三遠南信地域の新たな協創のとき～	飯田市
16	H21. 2. 10	三遠南信 250万流域都市圏の創造に向けた挑戦	浜松市
17	H21. 11. 13	日本の県境連携モデルの構築 ～三遠南信地域連携ビジョンの実現に向けて～	豊橋市
18	H22. 11. 12	地域主権時代における県境地域連携モデルの推進 ～融合に向けた自発的な地域づくりの実践～	飯田市
19	H23. 10. 24	三遠南信流域都市圏構築への挑戦 ～融合、新たなステージへ～	浜松市

---

第19回三遠南信サミット 2011 in 遠州  
平成23年10月24日開催  
三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)

---



